

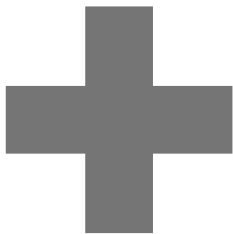
病 院 年 報

令和 2 年度

ANNUAL
REPORT 2020

Japanese Red Cross Fukushima Hospital

 日本赤十字社 福島赤十字病院



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

病院年報

令和2年度

福島赤十字病院

福島赤十字病院

Japanese Red Cross Fukushima Hospital

理念 Philosophy

わたしたちは、いのちと健康、尊厳を守るため、より良い医療を目指します。
We aim at the better medical care to follow a life health and dignity

基本方針 Policy

- 1. 患者さま中心の医療** Patient-centered medical care
患者さまの人権と意思を尊重し、説明と同意に基づいた患者さま中心の医療に努めます
- 2. 良質な医療の提供** Providing quality medical care
良質な医療を提供するため、医療技術の向上および施設の充実を図ります
- 3. 地域医療機関との連携** Cooperation with the medical institution of the area
地域医療支援病院として、地域の医療機関と緊密な医療連携を行います
- 4. 救急医療の充実** Enhancement emergency medical care
二次救急医療指定機関として、救急患者さまには24時間対応し、質の高い救急医療を行います
- 5. 災害時の救護活動** Relief activities at the time of disaster
災害拠点病院として、災害時の救護活動に努め、被災者に寄り添った支援を行います
- 6. 原子力災害対応機能の充実** Enhancement of medical service for nuclear-power disaster
原子力災害拠点病院として、原子力災害に対する対応や医療活動を行います
- 7. 健全な経営の維持** Maintenance of the sound management
健全な経営を維持し、高度な医療の提供に努めます

患者さまの権利

福島赤十字病院は患者さまの次の権利を尊重します。

1. 良質な医療を公平に受ける権利
2. 個人の尊厳が守られる権利
3. 医療上の個人情報(プライバシー)が守られる権利
4. 診療上必要な情報を得、説明を受ける権利
5. 自らの意思に基づき医療行為を選択する権利
6. 他の医師等の意見(セカンドオピニオン)を求める権利

発刊にあたり



福島赤十字病院
院長
渡部 洋一

令和2年度の病院年報発刊にあたりご挨拶申し上げます。

この年は新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた1年でした。全国的な傾向ではありますが、受診控えによる紹介患者の減少に伴い新入院患者と予定手術が激減しました。さらに外傷や脳卒中などの救急患者の発生も減少したため救急車搬入件数が数年間継続していた年間3,000件以上の実績を下回りました。12月には、福島市における市中感染拡大の影響を受け、当院で新型コロナウイルスの院内感染が発生してしまいました。直ちに福島市保健所、福島医大感染制御支援チーム、DMATの方々が支援に駆けつけてくださり、そのご助言のもと外来診療、救急車の受け入れ、新入院を休止し、接触職員を自宅待機とし、院内感染の拡大を防ぐことができました。新入院患者数と救急車搬入件数の減少には院内感染の影響も大でした。当院が通常診療と2次救急輪番を休止している間、多くの医療機関に当院の役割を代わっていただき、多大なるご負担をおかけしましたが、快く対応していただきましたことに心から感謝いたします。

当院の全職員数は今年度600名をこえる大所帯となりました。新病院発足後、常勤医師は10数名増えて56名となり、初期研修医のマッチングも毎年フルマッチで常に16名が在籍するようになりました。看護師、コ・メディカル、事務職員も増加しています。職員が集るのはとても良いことですが、それに見合う医療収益を確保することが求められます。

2024年からは「医師の働き方改革」が始まります。医師の働き方改革は喫緊の課題であり、業務のタスクシフティング、複数主治医制、多職種連携によるチーム医療、医師事務作業補助者の活用、外来患者の逆紹介等により改革を推進することが重要です。また法律の基準を守り、診療機能を低下させないためにはさらなる医師の増員が必要となります。

新型コロナウイルス感染症の収束にはまだまだ時間がかかり、それがいつになるのか全くわかりません。しかし、新築移転から3年目を迎える今、先を明るく見て、公的医療機関として県北医療圏の地域医療、救急医療に貢献することはもちろんのこと、第2種感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症患者に対応し、人道、博愛の道を進んでいきたいと考えております。それが福島日赤の使命です。当院は、職員がワンチームとなって県北の地域医療、救急医療に貢献し、「わたしたちは、いのちと健康、尊厳を守るためより良い医療を目指します」という基本理念を実践してまいりますので、よろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

令和3年3月

目次

福島赤十字病院 令和2年度 病院年報

I 一年の動き

1. 令和2年度の動き	1
2. 新型コロナウイルスに対する当院の動き	4
3. 災害救護活動・新型コロナウイルス支援活動状況	6
4. 災害救護訓練	9
5. 天皇皇后両陛下 初のオンラインご視察(行幸啓)について	11
6. 原子力災害時拠点施設の整備について	12
7. 院友会	13

II 病院の概況

1. 病院の沿革	15
2. 病院概要	18
3. 組織図	23
4. 職員数	24
5. 福島赤十字病院会議及び委員会	25
6. 救護班名簿	26

III 統計

1. 令和2年度実績表	29
2. 入院 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価	30
3. 外来 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価	33
4. 診療科別・行為別稼働額	36
5. 入院患者数	38
6. 新入院患者数	39
7. 外来患者数	40
8. 診療科別稼働額	41
9. 入院・外来単価(自費収益を含まない)	42
10. 手術件数(手術室)	43
11. 平均在院日数	44
12. 病床稼働率(退院を含む)	45
13. 紹介率・逆紹介率(病院全体)	45
14. 分娩件数	45
15. 診療科別救急車受入件数	46
16. 損益推移	47
17. 比較損益計算書	48

IV 活動実績

1. 内科	50
2. 消化器内科	50
3. 糖尿病・代謝内科	53
4. 循環器内科	53
5. 脳神経内科	55
6. 精神科	56
7. 小児科	57
8. 外科	57
9. 心臓血管外科	60
10. 呼吸器外科	61
11. 整形外科	62
12. 脳神経外科	63
13. 皮膚科	65
14. 形成外科	66
15. 泌尿器科	66
16. 産婦人科	67
17. 眼科	69
18. 耳鼻咽喉科	69
19. 放射線科・放射線科部	71
20. 麻酔科	72
21. リウマチ・膠原病内科	73
22. 病理診断科	74
23. リハビリテーション科	75
24. 薬剤部	77
25. 医療技術部[栄養課、臨床工学技術課]	79
26. 看護部	81
27. 検査部	106
28. 事務部[総務課、経営管理課、企画課、医療情報システム課、会計課、用度施設課、 医事課、健診課、患者サービス推進室]	107
29. 医療安全推進室	117
30. 感染管理室	118
31. 診療支援室	120
32. 地域医療連携室	120
33. 福島赤十字訪問看護ステーション	123

V 会議・委員会活動

1. 会議	133
2. 病院運営に関する委員会	137
3. 医療安全管理に関する委員会	144
4. 診療に関する委員会	150
5. 教育・研究に関する委員会	156
6. 労務及び安全管理に関する委員会	157

VI 研究発表

1. 診療科部	159
2. 薬剤部	162
3. 放射線科部	162
4. 事務部	163

I

一年の動き



1. 令和2年度の動き

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により多くの院内・院外のイベントが中止となった。

<当院の動き>

令和2(2020)年

4月

●辞令交付式[1日]

新たに53名の新規採用職員を迎えた。



辞令交付式の様子



新規採用職員集合

●新規採用職員オリエンテーション[1～3日]

●院友会総会・新人歓迎会 → **新型コロナウイルスによる影響のため中止**

●福島市企業(6社)より医療資材の寄贈[30日]

ニトリグローブ(手袋)、防護服、防塵マスク、ゴーグル、キャップなどを寄贈いただいた。



5月

●看護の日イベント → **新型コロナウイルスによる影響のため中止**

例年、「看護の日」と「赤十字運動月間」にあわせて、正面玄関付近をメイン会場にイベントを開催しているが、新型コロナウイルスの影響もあり、中止となった。

●永年勤続功労表彰[1日]

勤続30年：10名 勤続20年：9名 勤続10年：17名

●手作りマスク寄贈[11日]

福島日赤ボランティア会より手作りマスクを寄贈いただいた。

●“しあわせの花”すずらん贈呈式[27日]

例年は贈呈式典の後、全日本空輸の職員の方から直接患者様へ手渡しを行っていたが今年は感染対策から、当院ですずらんをお預かりしてのお渡しとなった。



寄贈いただいた手作りマスク



すずらんを受け取った
會澤看護部長



1. 令和2年度の動き

<当院の動き>

6月

- 病院機関誌『日赤通り院内版vol.98』発行[1日]
- 病院機関誌『日赤通り広報版vol.52』発行[1日]
- 中学生ドリームアップ事業受入
- 福島第三小学校より感謝のメッセージ[3日]



福島第三小学校の方々より温かいメッセージをいただいた

- ACLS/BLS講習[29日]

7月

- 日本赤十字社福島県支部災害救護訓練[11日]

日本赤十字社福島県支部にて、令和2年度災害救護訓練を実施。

例年実施している訓練の内容を一部変更し、新型コロナウイルス感染症への対応や、感染防御についての講習、個人防護具(PPE)の着脱衣の実習、避難所アセスメントなどについて、机上で演習を行った。



8月

- 福島わらじまつり「ダンシングソーダナイト」 → **新型コロナウイルスによる影響のため不参加**

9月

- 福島日赤ボランティア会よりご寄付[10日]
- 保険診療に関する講習会[14日・18日・25日]

ご寄付を受け取る
渡部院長、會澤看護部長



10月

- 原子力災害時医療中核人材研修(福島県立医科大学)[7日～9日]
- 原子力災害医療セミナー2020(オンラインセミナー・福島県立医科大学)[10日]
- 多数傷病者対応訓練(富岡町)[30日]



出発式



多数傷病者対応訓練の様子



ドクターヘリにおける訓練の様子



1. 令和2年度の動き

<当院の動き>

11月

- 日本赤十字社第1ブロック支部日赤災害医療コーディネーター連絡会議
(オンライン・日本赤十字社福島県支部)[6日]
- 日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練[6日～7日]
1日目 (オンライン・日本赤十字社福島県支部)
2日目 (日本赤十字社岩手県支部 災害救援センター)
- 手作りガウンの寄贈[9日]
日赤福島ボランティア会と青少年赤十字加盟校の学校法人山崎学園福島県磐城第一高等学校より寄贈いただいた。
- 福島日赤ボランティア会感謝状贈呈[9日]
- 行幸啓(オンライン)[18日]



手作りガウンを受け取る
鈴木副院長、鈴木看護副部長



感謝状の贈呈



感謝状を授与された
ボランティアの方々

12月

- 原子力災害医療アドバイザー会議(オンライン)[11日]
- 地域原子力災害医療連携推進協議会(福島県庁)[14日]
- 新型コロナウイルス院内クラスター発生[14日]
- こころのケア指導者養成研修会(オンライン)[15日～18日]
- DMATロジスティクスチーム隊員養成研修(オンライン)[19日～20日]

令和3(2021)年

1月

- 仕事始め・院長年頭挨拶(マイページ発信)[4日]

2月

- 病院機関誌『日赤通り院内版vol.99』発行[1日]
- 病院機関誌『日赤通り広報版vol.53』発行[1日]
- ハートラちゃんエコクラフト寄贈[3日]
「共同作業所ぽけっと」より寄贈いただいた。
- 福島第一小学校より感謝のメッセージ[16日]



ハートラちゃんのエコクラフト



メッセージを受け取る
鈴木副院長、會澤看護部長

3月

- 臨床研修医研究発表会及び修了証書授与式[15日]
- 辞令交付式[31日]



2. 新型コロナウイルスに対する当院の動き

2020年

- 当院の動き ● 世界・日本の動き
- 1月22日 ○ 令和元年度地域新型インフルエンザ等対応訓練を県北・福島市保健所主催にて開催(協力病院・県北地域各消防・保健所などから68名参加あり)受け入れ動画作成
- 1月31日 ● 中国武漢市にて原因不明の肺炎発症例が発表される。
○ 中国武漢市の原因不明の肺炎発症例の発表を受け、臨時の院内感染対策委員会開催
○ 院内電子カルテのトップ画面に新型コロナウイルス感染症特設ページ提示し厚生労働省・国立感染症研究所・福島市保健所等の情報を集約
○ 新型コロナウイルス感染症患者受入れに関して新型インフルエンザ等受け入れと同等のため訓練動画を電子カルテ画面へ提示し情報共有へ
- 2月6日 ○ 新型コロナウイルス感染症患者受け入れリハーサル実施
(外来から入院病棟・検査部と入院病棟間での検体搬送・放射線科のポータブル写真実施時の注意点について)
- 2月7日 ○ 帰国者・接触者外来設置
(帰国者・接触者センターより新型コロナウイルス感染症疑い患者の診察開始)
- 2月11日 ● WHOが新型コロナウイルスをCOVID-19と命名する。
- 2月15日 ○ クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」より乗客患者を受入
- 2月18日～20日 ○ クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」へ、救護班、DMATを派遣
救護班(医師1名、看護師2名、薬剤師1名、主事1名)、
DMAT(医師1名、看護師2名、業務調整員2名)を2班派遣。
- 2月21日 ○ 新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザ等における感染予防及び職員健康管理の徹底について文書で提示開始
- 3月12日 ● WHOがパンデミックを宣言。
- 4月1日 ○ コロナ受入病床を増床 (6床 → 18床)
- 4月7日 ● 7都府県に緊急事態宣言が発令される。
- 4月9日 入院患者付き添い者へのPCR検査開始
- 4月16日 ● 全国に緊急事態宣言が発令される。
- 5月11日 ○ 正面玄関において職員を当番制で配置し来院する方への検温、手指消毒、有症状の方への対応
- 5月25日 ● 緊急事態宣言が解除される。
- 6月9日 ○ 予定手術で全身麻酔下管理にて実施する患者様へPCR検査実施
- 6月8日 ○ コロナ受入病床を減床 (18床 → 9床)
- 6月28日 ● 世界の感染者数が1,000万人を超える。
- 7月20日 ○ 新型コロナウイルス感染症疑い・陽性者対応時の動画研修実施(看護師対象)
- 7月29日 ● 国内の一日あたりの感染者数が1,000人を超える。
- 8月5日 ○ 各階のデイコーナーレイアウト変更
(密を避け対面式とならないよう配置換え実施)
- 8月12日 ○ 来院される方に向けてマスク着用と手指消毒実施依頼の院内放送開始
- 8月19日 ○ コロナ受入病床を増床 (9床 → 18床)

- 8月20日 ○ 新型コロナウイルス感染症疑い・陽性者対応時の動画研修実施(全職員対象)
- 11月20日 ○ 福島市発熱外来開設(令和2年度実績:100件)
- 12月8日 ● イギリスで新型コロナウイルスのワクチン接種が開始される。
- 12月14日 ● アメリカで新型コロナウイルスのワクチン接種が開始される。
 - 院内クラスター発生(入院患者3名、当院職員5名の感染を確認)
(外来・救急患者、新入院患者の受入休止、不要不急の手術中止)
 - 対象病棟の閉鎖及び消毒、看護師へこころのケアを実施
- 12月28日 ○ 全ての入院患者及び委託職員を含む全ての職員に対しPCR検査の実施完了
(入院患者140名、職員733名)

2021年

- 1月1日 ○ 救急患者受け入れ再開
- 1月4日 ○ 通常外来診療を再開
- 1月7日 ● 1都3県に緊急事態宣言が発令される。
(国内の一日あたりの感染者数が7,957人となる)
- 1月13日 ● 7府県に緊急事態宣言が発令される。
- 1月18日 ○ コロナ受入病床を増床 (18床 → 20床)
- 1月27日 ● 世界の感染者数が1億人を超える。
- 2月17日 ● 医療従事者4万人を対象に、ワクチン先行接種が始まる。
- 3月15日 ○ ワクチン接種対応開始
- 3月18日 ● 緊急事態宣言解除。

【陽性者の入院診療】

福島県コロナ対策本部や各保健所からの新型コロナウイルス陽性者の入院診療を実施した。
令和2年度実績:179例 (令和2年2月~令和3年3月)

【院内感染防止への取り組み】

1. 標準予防策の順守
2. 病院来院者へのスクリーニング
(ポスター掲示、入館・退出者の動線分離、入館時体温測定、音声ガイドでの呼びかけ・有症状者への問診実施)
3. 予定入院患者全員へ抗原定量検査及びPCR検査の実施
救急入院患者に対しても抗原定量検査及びPCR検査を実施
4. 入院患者に接する際の個人防護具の徹底
5. 職員の健康管理の徹底
毎月『職員の健康管理の徹底について』の指針を配布、職員に健康チェックの実施を義務付け、体調不良の際には所属長を通じて報告、必要があれば抗原定量検査を実施する体制を整備



3. 災害救護活動・新型コロナウイルス支援活動状況

1. クルーズ船(ダイヤモンド・プリンセス号)対応

厚生労働省からの派遣依頼を受けた日赤本社、厚生労働省DMAT事務局からの派遣要請に応え、横浜港に停泊したクルーズ船(ダイヤモンド・プリンセス号)に救護班やDMAT(災害派遣医療チーム)を派遣した。

(1)救護班

乗客乗員の医療、健康管理を行う船内メディカルセンターの支援活動を実施した。

(活動期間)	2020年2月18日～20日		
(派遣人員)	医師	渡部 研一	(循環器内科部主任部長)
	看護師長	國分 花子	(手術室看護師長)
	看護師	笹木 恵美子	(7病棟看護師長)
	薬剤師	緑上 淳一	(薬品管理課長)
	主事	佐藤 隆昭	(医療情報システム課主事)

(2)DMAT

乗客乗員の医療、感染者の搬送や医療本部活動を実施した。

(活動期間)	2020年2月14日		
(派遣人員)	医師	渡部 洋一	(病院長)
	看護師	野地 啓子	(看護部看護師長)
	看護師	渡邊 あゆみ	(外来師長)
	業務調整員	久保 芳宏	(福島県支部課長)
	業務調整員	野崎 謙司	(福島県支部係長)

(活動期間)	2020年2月18日		
(派遣人員)	医師	渡部 洋一	(病院長)
	看護師	泉 弘子	(手術室看護係長)
	看護師	鈴木 安英	(3A病棟看護係長)
	業務調整員	久保 芳宏	(福島県支部課長)
	業務調整員	野崎 謙司	(福島県支部係長)



クルーズ船対応の記録写真



2. 福島県新型コロナウイルス感染症対策本部支援

福島県新型コロナウイルス感染症対策本部からの要請により職員を派遣し、本部(県庁)や保健所、感染症が発生した医療機関で福島県感染症対策支援チームの一員として支援業務を行った。

また下記人員の派遣について、福島県と「福島県感染症対策支援チームの設置に関する協定」を締結した。

活動期間	派遣先	派遣人員
2021年1月22日～25日	南会津保健所	佐藤 隆昭 (医療情報システム課主事)
2021年2月1日	福島県庁	葛岡 大輔 (総務課主事)
2021年2月11日～12日	福島県庁	葛岡 大輔 (総務課主事)
2021年2月15日	福島県庁	葛岡 大輔 (総務課主事)
2021年3月4日	柘記念病院	吉田 和恵 (感染管理室看護係長)
2021年3月5日	柘記念病院	葛岡 大輔 (総務課主事)
2021年3月8日～9日	太田西ノ内病院	葛岡 大輔 (総務課主事)
2021年3月9日～12日	柘記念病院	武田 里美 (3B病棟看護師長)
2021年3月15日～17日	柘記念病院	柳田 美穂 (3B病棟看護係長)





4. 災害救護訓練

令和2年度の災害訓練・研修会参加状況

災害救護関連研修・訓練・会議

7月11日(土)

訓練名：日本赤十字社福島県支部・病院・血液センター合同災害訓練

開催場所：福島市・日本赤十字社福島県支部

参加者：計59名【支部職員(9名)、病院職員(44名)、血液センター職員(6名)】

10月7日(水)～9日(金)

研修名：原子力災害時医療中核人材研修

開催場所：福島県立医科大学

参加者：計1名【診療放射線技師：明田充弘】

10月10日(土)

研修名：原子力災害医療セミナー2020

開催場所：オンラインセミナー(福島県立医科大学)

参加者：計3名【病院職員(看護師：山口広夢、主事：葛岡大輔)、支部職員：野崎謙司】

10月30日(金)

訓練名：多数傷病者対応訓練

開催場所：富岡町総合スポーツセンター敷地内及びふたば医療センター附属病院

参加者：計5名【医師：角田圭一、看護係長：鈴木安英、看護師：鈴木直人、薬剤師：酒井亮
主事：佐藤隆昭】

11月6日(金)

会議名：日本赤十字社第1ブロック支部日赤災害医療コーディネーター連絡会議

開催場所：リモート開催(日本赤十字社福島県支部)

参加者：計1名【外科部主任部長：遠藤豪一】

11月6日(金)～7日(土) ※1日目のみの参加

訓練名：日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練

開催場所：1日目 リモート学習(日本赤十字社福島県支部)

2日目 日本赤十字社岩手県支部 災害救援センター

参加者：計6名【医師：坂本和哉、看護係長：泉弘子、看護師：山口広夢、成尾ありさ
検査技師：相楽孝行、主事：山名慎一郎】

12月11日(金)

会議名：原子力災害医療アドバイザー会議

開催場所：オンライン開催

参加者：計2名【脳神経内科主任部長：中村耕一郎、画像情報係長：海藤隆紀】

12月14日(月)

会 議 名：地域原子力災害医療連携推進協議会

開催場所：福島県庁

参 加 者：計3名【脳神経内科主任部長：中村耕一郎、企画課長：野地幸次、主事：葛岡大輔】

12月15日(火)～18日(金)

研 修 名：こころのケア指導者養成研修会

開催場所：web会議形式

参 加 者：計1名【看護係長：柳田美穂】

12月19日(土)～20日(日)

研 修 名：DMATロジスティクスチーム隊員養成研修

開催場所：web会議形式

参 加 者：計1名【主事：葛岡大輔】



5. 天皇皇后両陛下 初のオンラインご視察(行幸啓)について

令和2年11月18日、天皇皇后両陛下が初めてインターネットで赤坂御所と当院をはじめとした全国の4つの赤十字病院とをつないで、初めてオンラインでのご視察(行幸啓)をされました。当院をはじめ、日赤医療センター(東京)、北見赤十字病院(北海道)、沖縄赤十字病院(沖縄)が全国の病院を代表して両陛下への活動報告と励ましのお言葉をいただきました。日赤医療センターは多数の陽性者の対応状況について、北見赤十字病院では北海道内での障害者施設での感染対応状況について、沖縄赤十字病院は院内感染が起こった対応について報告しました。当院においては、今年2月にダイヤモンド・プリンセス号内でのDMAT班を2班、救護班を1班派遣し、渡部院長自ら現地で医療救護活動を行いましたので、その報告をしました。

渡部院長と國分師長より、船内の状況と船内での感染のリスクから患者に寄り添った活動ができず苦勞したこと、活動を終えて職場や家族への感染を心配して隔離されたスタッフがいたことなどを説明しました。両陛下は時折深くうなずいたり、メモを取ったりしながら真剣にお聞きになっていました。

その後、両陛下より「福島では、東日本大震災の原発事故で本当に苦勞されていると思います。心からお見舞い申し上げます。皆様の中にも、東日本大震災の救護にあられたかたもいらっしゃるのではないのでしょうか。」などの質問がありました。渡邊あゆみ師長より原発事故の際に南相馬市で救護活動を行っていたこと、その後も様々な救護活動を行って今回の船内での感染という特殊な状況での医療救護活動にも今までの経験を役立てることができたことをお伝えしました。

皇后陛下からは「現在の病院の状況はいかがですか?」とのご質問もありました。渡部院長より「感染患者が増えており病床もひっ迫しているが、職員全員で感染対策を徹底して対応しております。」とお伝えしました。

両陛下より「皆様大変な毎日だと思いますが、くれぐれも体に気を付けて医療活動を続けてください。」と励ましのお言葉をいただきました。



オンラインで懇談される天皇 皇后両陛下



オンライン行幸啓に対応する当院職員

日赤通り広報版 vol.53(発行：令和3年2月1日)より記事抜粋



6. 原子力災害時拠点施設の整備について

事務部企画課

当院は平成29年4月1日付で福島県より福島県原子力災害拠点病院の指定を受けました。

原子力災害拠点病院は、原子力災害時に被災地域の原子力災害医療の中心となって機能し、放射性物質による汚染や被ばくを伴う傷病者等を受け入れ、適切な診療等を行います。また、災害医療の知識、技能のほか、被ばく医療に係る専門的知見を有する医師、看護師、診療放射線技師等から構成する「原子力災害派遣医療チーム」を編成することが施設要件となっております。

これらの医療を提供するためには、医療従事者のみならず、施設内に所属する全ての職員や施設管理者等の意思決定を行う者においても一定程度の原子力災害医療に関する知識が必要なことから、平時から教育研修、訓練等を通じて理解を深めることが望まれており、このたび原子力災害対策事業費補助金交付要綱に基づき、原子力災害拠点病院としての活動に必要な施設及び物品の整備を行いました。

令和3年3月に病院第一駐車場の敷地内に原子力災害時拠点施設が完成しました。放射線環境下での救護活動に安全かつ安心して従事できるよう、放射線や原子力災害医療体制等にかかる基本的知識及び放射線防護資機材の使用方法を習得するための研修に注力していきます。

原子力災害時拠点施設 令和3年3月完成



7. 院友会

<概要>

福島赤十字病院院友会は当院に勤務する職員及び常勤の嘱託・臨時職員を対象に、職員同士の親睦を図ることを目的としている。会長は院長、副会長は副院長、事務部長、看護部長が務め、監事は会長が任命する。その他役員は各部署から毎年1名ずつ選出され、年間を通して季節に応じたイベントを企画運営している。

イベントの他、院友会員の体育および文化サークルの活動を通して親睦と福利厚生を推進を図ることを目的に“体育・文化サークル活動助成金”を交付している。(助成金交付対象サークル：野球部・ソフトボール部・バレーボール部・フットサル部・卓球部・テニス部)

<令和2年度役員>

会長 渡部 洋一(院長)
副会長 鈴木 恭一(副院長)、大和田尊之(副院長)、須藤 浩光(事務部長)、會澤 英子(看護部長)
幹事 井上 卓哉(医局)、安達麻菜美(3A病棟)、前田 千穂(3B病棟)、佐藤亜里咲(4病棟)、
菊池 玲奈(5A病棟)、吉田 瑞(5B病棟)、明道美沙紀(6A病棟)、鈴木 彩(6B病棟)、
菊田 純子(7病棟)、渡邊 政子(外来)、松尾 玲奈(手術室)、菊地 洋平(薬剤部)、
三浦 義喜(検査部)、海藤 隆紀(放射線科部)、角田 祐実(リハビリテーション科部)、
塩澤 将太(医療技術部)、丸山 絢子(事務部)、奈良輪大輔(事務部)

<令和2年度活動報告>

日時	内容	場所
5月14日(木)	院友会総会紙面開催	グループウェア (マイページ開催)
その他のイベントについては、新型コロナウイルスの影響により中止		

<令和2年度決算報告>

収入の部	支出の部	翌年度繰越額
790,122円	0円	9,207,686円

II

病院の概況

1. 病院の沿革

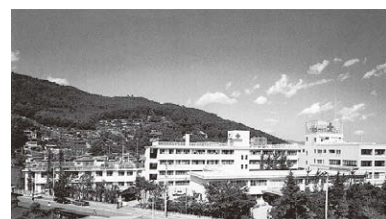
< 年月 >	< 沿革 >
昭和18年 8月	日本赤十字社福島支部福島療院として福島市舟場町に発足(病床数32床) 飯坂海軍病院の分院として診療が行われる <診療科目：内科、小児科、耳鼻咽喉科、理学診療科>
昭和19年 1月 4月	20床増床(病床数52床) 福島赤十字病院と改称
昭和25年10月	入院患者に対する完全給食を開始
昭和28年 2月	30床増床(病床数82床)
昭和30年 7月	20床増床(病床数102床)
昭和33年 6月 10月	産婦人科部設置 18床増床(病床数120床)
昭和34年 5月 12月	整形外科部設置 30床増床(病床数150床)
昭和37年 1月 2月	皮膚科部、眼科部設置 現在地(福島市入江町)へ新築移転 <鉄筋コンクリート造4階建、延床面積4,740㎡> (病床数200床／一般170床・結核30床)
6月	入院患者に対する基準寝具開始
昭和38年 6月 9月	秩父宮妃殿下御慰問 総合病院の承認を受ける
昭和39年 9月	救急病院の指定を受ける
昭和40年 7月	福島市外3町村委託による伝染病棟50床併設(病床数250床)
昭和42年12月	精神科・神経科部設置
昭和43年 4月	東病棟増築、100床(精神)を増床(病床数350床)
昭和44年 9月	循環器科部、呼吸器科部設置
昭和52年 8月	精神病床100床のうち40床を一般病棟に変更
昭和54年 5月 9月	エネルギーセンター棟を新設 放射線科部設置
12月	胃腸科部、泌尿器科部設置
昭和56年11月	新館棟を増築、50床増床(病床数400床)
昭和57年 4月	脳神経外科部設置
昭和59年 3月	病院駐車場として国有地(福島大学跡地)を取得
昭和60年 5月	脳血管系疾患の収容病床として20床増床(病床数420床)
昭和61年 1月	麻酔科部設置
昭和63年 7月	外来診療会計コンピュータ稼働
平成元年 9月	三笠宮寛仁親王妃殿下御慰問
平成5年12月	病床23床増床(救急特例病床17床、CCU 6床) (病床数443床) 心臓血管外科部設置
平成6年 2月	本館棟等増改築工事完了
6月	医事／会計システム更新 富士通(株) HOPE/X
平成8年 4月	胃腸科部を消化器科部と名称変更
8月	結核病床30床を廃止(病床数413床)
11月	災害拠点病院の指定を受ける
平成10年10月	皇太子殿下並びに皇太子妃殿下御視察
12月	訪問看護ステーション設置
平成11年 3月	伝染病床50床を廃止(病床数363床)
4月	第二種感染症医療機関の指定を受ける(6床)
	(病床数369床／一般303床・精神60床・感染6床)
平成12年 4月	福島県精神科救急医療施設の指定を受ける
	居宅介護支援事業所設置



昭和18年8月 舟場町に開院



昭和37年2月 入江町に新築移転



昭和56年11月 新館棟増築



平成6年2月 本館棟増改築

< 年月 >	< 沿革 >
平成13年 4月	デイサービスセンター、在宅介護支援センター設置
9月	医事／会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V1
平成14年 7月	地域医療連携室開設
平成15年 4月	呼吸器外科部設置
平成16年 3月	臨床研修病院(協力型)の指定を受ける
6月	1号館、2号館3病棟改修工事完了
10月	臨床研修病院(管理型)の指定を受ける
平成18年 3月	病理検査室設置 精神病床10床を減床(病床数359床/一般303床・精神50床・感染6床)
6月	医療安全推進室設置
平成19年 3月	病院機能評価Ver.4.0の認定を受ける
9月	医事／会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V4
	オーダーリングシステム導入 富士通(株) EGMAIN-FX V2
	導入オーダ：患者基本、処方、検体検査、入退院、病棟移動、給食、病名、診療予約、 検歴参照
平成20年 1月	教育研修推進室設置
4月	医療技術部設置
12月	血管造影撮影室増築
平成21年 3月	デイサービスセンター、在宅介護支援センター運営終了
4月	DPC(診断群分類別包括制度)対象病院の指定を受ける
平成22年 4月	糖尿病・代謝科部設置
平成23年 3月	東日本大震災発生 救護班延べ77個班を派遣
7月	平成23年7月新潟・福島豪雨発生 救護班1個班を派遣
9月	地域医療支援病院の認定を受ける
平成24年 3月	ホールボディカウンター及びホールボディカウンター室を設置
4月	病院機能評価Ver.6.0一般にて更新
	新病院建設準備室設置
	ホールボディカウンターによる内部被ばく検査を開始
平成25年 4月	神経内科部設置
5月	医療用画像管理システム(PACS)導入
	追加オーダ：放射線
平成26年 7月	HCUを設置
9月	自動精算機／POSレジシステム導入 医事／会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V6
	オーダーリングシステム更新 富士通(株) EGMAIN-GX V4 追加オーダ：細菌検査、生理検査、病理検査、内視鏡検査、注射(外来)、リハビリ
10月	診療科名称を変更(24科) 福島県認知症疾患医療センターの指定を受ける
平成27年 1月	循環器センター・末梢血管病センターを設置
3月	現病院土地との交換により新病院予定地(福島市八島町87番1・88番)取得
5月	名称から「総合病院」を削除
平成28年 4月	救急科部設置 心療内科を廃止 精神科病棟11床を減少(病床数348床/一般303床、精神39床、感染6床)
9月	熊本地震発生 救護班2個班、病院支援職員2個班、こころのケア班1個班を派遣 福島赤十字病院 施設整備事業(移転新築工事)起工式
平成29年 4月	開設者を日本赤十字社福島県支部長から日本赤十字社社長に変更 原子力災害拠点病院の指定を受ける
7月	嚥下・ボイスセンター・鼻・副鼻腔センターを設置

< 年月 >	< 沿革 >
平成30年 6月	病院機能評価 3rdG:Ver.1.1一般病院 2 の認定を受ける
7月	外来診療電子カルテ運用開始
8月	平成30年 7月豪雨発生 こころのケア班 1 個班を派遣
9月	平成30年北海道胆振東部地震発生
	救護班 2 個班、こころのケア班 1 個班を派遣
	福島赤十字病院 移転新築工事竣工式・定礎式
平成31年 1月	新病院へ移転・開院(福島市八島町)
	<病院棟 鉄骨造地上 7 階建(免震構造)・塔屋 1 階、延床面積21,760.04㎡
	駐車場棟 鉄骨造地上 2 階(2 層 3 段)(耐震構造)延床面積3,092.40㎡>
	(病床数296床／一般280床・精神10床・感染症 6 床)
	神経内科部を脳神経内科部と名称変更
	血管外科・心臓外科を心臓血管外科と名称変更
	入院診療電子カルテ運用開始
3月	福島赤十字指定居宅介護支援事業所を廃止
平成31年/令和元年	
4月	リウマチ膠原病内科を新設
7月	新病院におけるドクターヘリの初受け入れ
9月	台風19号による洪水被害への支援活動で
	DMAT(2 班)、救護班(16班)、
	こころのケア班(5 班)を派遣
令和 2年 2月	クルーズ船(ダイヤモンド・プリンセス号)へDMAT：2 班 救護班：1 班を派遣
5月	旧病院の解体工事完了
7月	旧病院駐車場を福島市へ売却
11月	初となるオンラインによる行幸啓を実施
令和 3年 3月	病院敷地内に原子力災害時拠点施設を新築



平成31年 1月 福島赤十字病院新築・移転

2. 病院概要

(令和3年3月31日現在)

(1) 施設の概要

名称	福島赤十字病院 Japanese Red Cross Fukushima Hospital
所在地	〒960-8530 福島市八島町7番7号 7-7 Yasima-cho, Fukushima-city, Fukushima 960-8530 JAPAN TEL (024) 534-6101 (代表) FAX (024) 531-1721 http://www.fukushima-med-jrc.jp/
敷地面積	17,740.71㎡
延床面積	24,916.95㎡
開設年月日	昭和18年8月1日
開設者	日本赤十字社社長 大塚 義治
管理者	院長 渡部 洋一
付帯設備	福島赤十字訪問看護ステーション Japanese Red Cross Fukushima Hospital Visiting-nurse station

(2) 診療科目 Medical Departments

内科 Internal Medicine	糖尿病・代謝内科 Diabetes and Metabolism	呼吸器内科 Respiratory	循環器内科 Cardiology
消化器内科 Gastroenterology	精神科 Psychiatry	小児科 Pediatrics	外科 General surgery
心臓血管外科 Cardiovascular surgery	呼吸器外科 Thoracic Surgery	整形外科 Orthopaedic	脳神経外科 Neurosurgery
皮膚科 Dermatology	形成外科 Plastic and Reconstructive Surgery	泌尿器科 Urology	産婦人科 Obstetrics and Gynecology
眼科 Ophthalmology	耳鼻咽喉科 Otolaryngology	放射線科 Radiology	麻酔科 Anesthesiology
脳神経内科 Neurology	リハビリテーション科 Rehabilitation Medicine	救急科 Emergency Medicine	病理診断科 Disgnostic Pathology
リウマチ・膠原病内科 Rheumatology			

(全25科)

(3) 病床数

	許可病床数	実働病床数
一般病床	280床	276床
精神病床	10床	10床
感染症病床	6床	6床
計	296床	292床

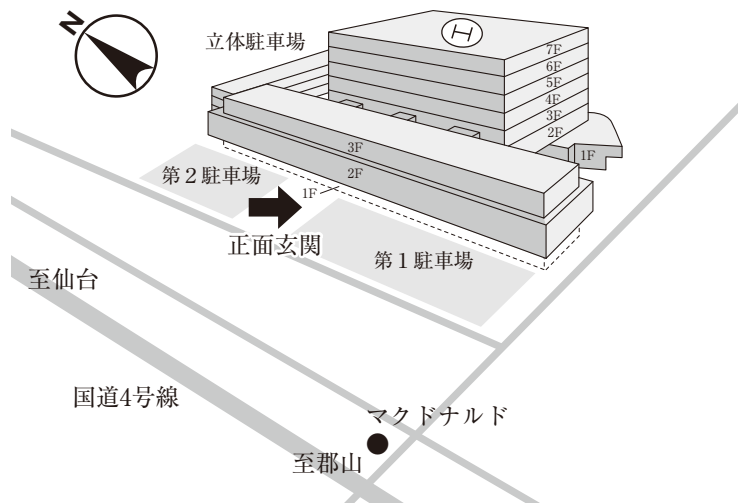
(内訳：実働病床数)

3 A病棟 20床(HCU 8床)	3 B病棟 34床	4病棟 40床
5 A病棟 49床	5 B病棟 46床	6 A病棟 47床(感染症病床 6床)
6 B病棟 46床	7病棟 10床	

(内訳：部屋別)

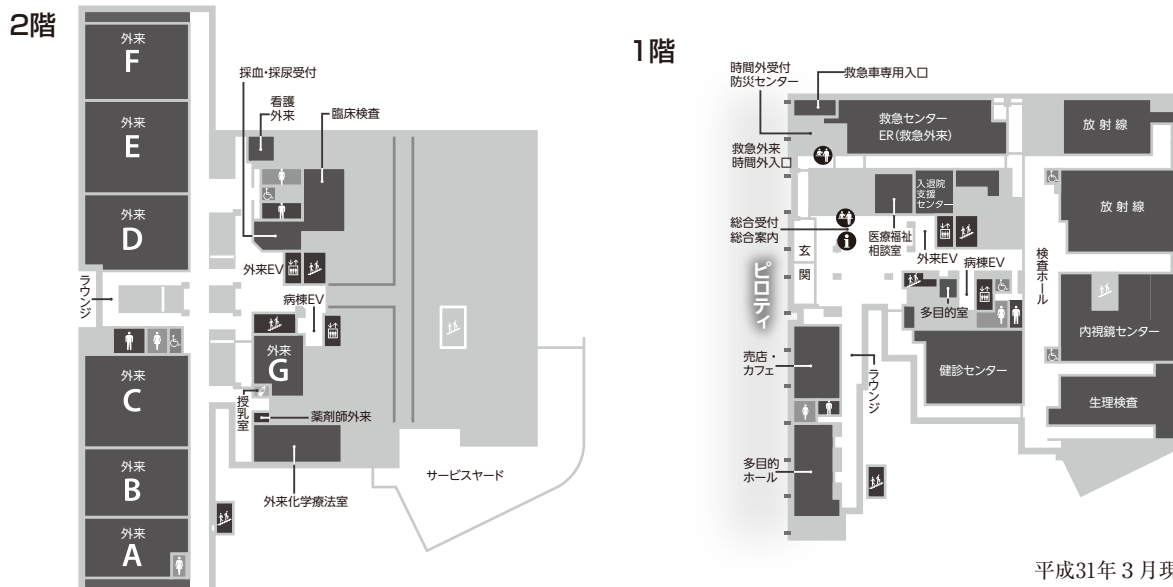
1人部屋	2人部屋	4人部屋	計
66	3	55	124

(4) 病院全体配置図



PH階	ヘリポート
7階	7病棟(精神科・10床)、総合リハビリテーション室
6階	6A病棟(47床(感染症6床)) 6B病棟(46床)
5階	5A病棟(49床) 5B病棟(脳卒中センター・46床)
4階	4病棟(レディースフロア・40床)、医局、事務・管理部門
3階	3A病棟(HCU12床、救急12床)、3B病棟(循環器センター・34床)、手術室、血管造影室・IVRセンター、中央材料室、病理検査室、MEセンター
2階	外来、看護外来、薬剤師外来、外来化学療法室、臨床検査、薬剤部、用度施設課、栄養課、霊安室
1階	総合案内、総合受付、再来受付、会計、FAXコーナー、ER(救急外来)、健診センター、医療福祉相談室、地域医療連携室、入退院支援センター、多目的ホール、売店・カフェ、放射線部、内視鏡センター、生理検査、防災センター

(5) 外来配置図



平成31年3月現在

(6) 位置及び案内



(7) 機関指定

機関指定	
健康保険法指定医療機関	地域医療支援病院
臨床研修指定医療機関	国民健康保険法指定医療機関
生活保護法指定医療機関	結核予防法指定医療機関
更生医療指定医療機関 (整形外科・脳神経外科・耳鼻咽喉科)	身体障害者福祉法指定医療機関
原子爆弾被害者に対する指定医療機関	戦傷病者特別援護法指定医療機関
育成医療(児童福祉法)指定医療機関	養育医療(母子保健法)指定医療機関
地方公務員災害補償法指定医療機関	労働者災害補償保険法指定医療機関
救急告示病院	国家公務員災害補償法指定医療機関
災害拠点病院(地域災害医療センター)	第二次救急指定病院
原子力災害拠点病院	福島県特定不妊治療費助成事業指定医療機関
開放型病院	第二種感染症指定医療機関

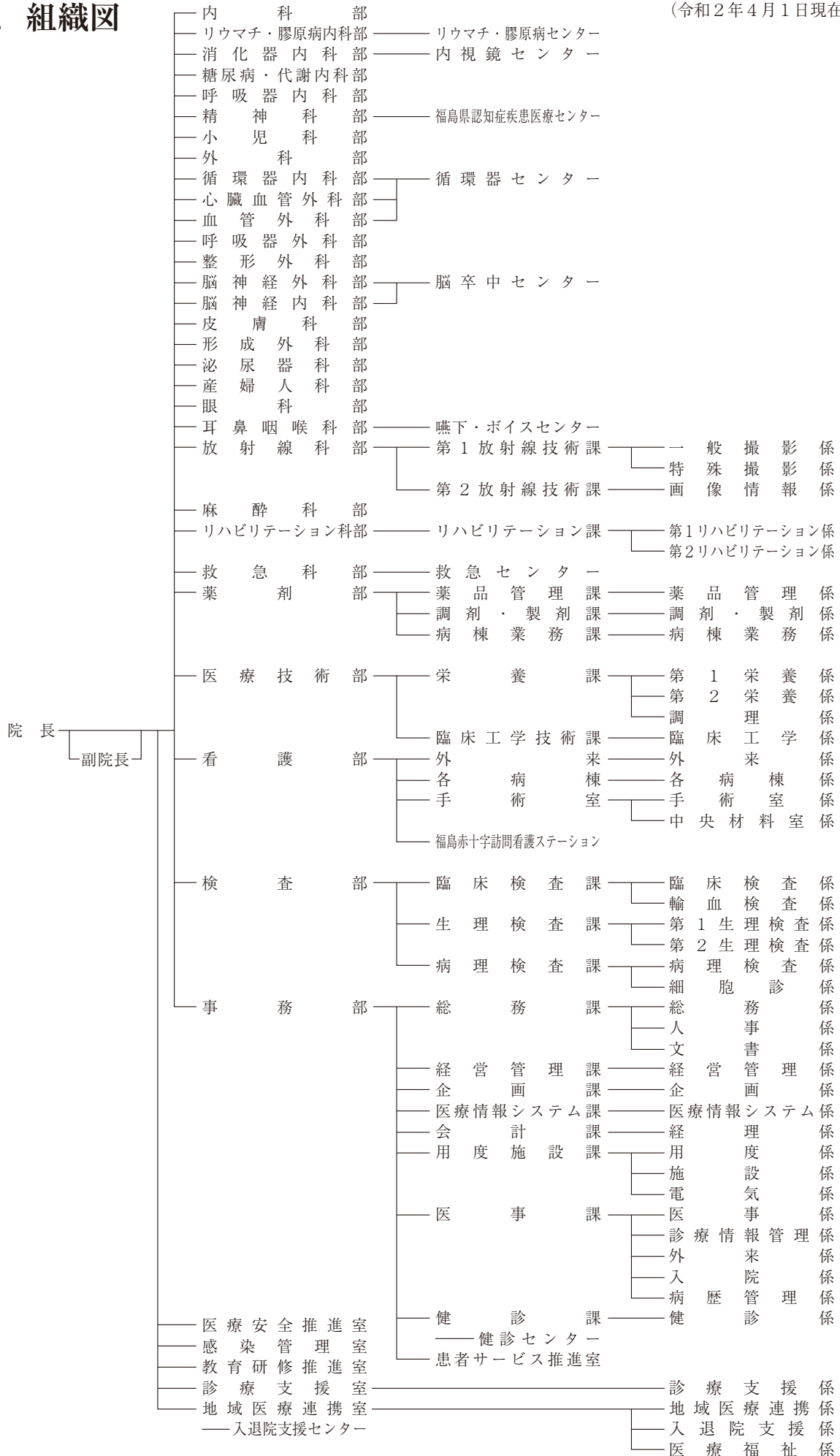
(8) 施設基準の届出状況

基本診療料 特掲診療料 別	施設基準名	受理番号	算定開始 年月日
基本診療料	一般病棟入院基本料 7対1	(一般入院)第2188号	平成31年1月1日
	精神病棟入院基本料 13対1	(精神入院)第1079号	平成31年1月1日
	総合入院体制加算3	(総合3)第7号	平成31年1月1日
	救急医療管理加算	(救急医療)第11号	平成22年4月1日
	診療録管理体制加算1	(診療録1)第53号	平成31年1月1日
	医師事務作業補助体制加算1 20対1	(事補1)第140号	令和2年2月1日
	急性期看護補助体制加算 50対1	(急性看補)第299号	平成31年1月1日
	重症者等療養環境特別加算	(重)第290号	平成31年1月1日
	精神病棟入院時医学管理加算	(精入学)第23号	平成31年1月1日
	精神科身体合併症管理加算	(精合併加算)第40号	平成31年1月1日
	医療安全対策加算1	(医療安全1)第195号	平成31年1月1日
	感染防止対策加算1	(感染防止1)第106号	平成31年1月1日
	患者サポート体制充実加算	(患サポ)第161号	平成31年1月1日
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	(褥瘡ケア)第16号	平成31年1月1日
	ハイリスク妊娠管理加算	(ハイ妊娠)第100号	平成31年1月1日
	ハイリスク分娩管理加算	(ハイ分娩)第76号	平成31年1月1日
	精神科救急搬送患者地域連携受入加算	(精救急受入)第8号	平成31年1月1日
	総合評価加算	(総合評価)第45号	平成31年1月1日
	呼吸ケアチーム加算	(呼吸チ)第25号	平成31年1月1日
	後発医薬品使用体制加算1	(後発使1)第37号	平成31年1月1日
	病棟薬剤業務実施加算1	(病棟薬1)第35号	平成31年1月1日
	データ提出加算	(データ提)第117号	平成31年1月1日
	入退院支援加算	(入退支)第319号	平成31年1月1日
	認知症ケア加算	(認ケア)第106号	令和元年10月1日
	精神疾患診療体制加算	(精疾診)第19号	平成31年1月1日
	ハイケアユニット入院医療管理料1	(ハイケア1)第13号	平成31年1月1日
	がん性疼痛緩和指導管理料	(がん疼)第256号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料イ	(がん指イ)第114号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料ロ	(がん指ロ)第109号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料ハ	(がん指ハ)第24号	平成31年1月1日
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	(乳腺ケア)第23号	平成31年1月1日
	院内トリアージ実施料	(トリ)第55号	平成31年1月1日
	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	(救搬看体)第38号	平成31年1月1日
	ニコチン依存症管理料	(ニコ)第804号	平成31年1月1日
	開放型病院共同指導料	(開)第51号	平成31年1月1日
	ハイリスク妊産婦連携指導料1	(ハイ妊連1)第11号	平成31年1月1日
	ハイリスク妊産婦連携指導料2	(ハイ妊連2)第6号	平成31年1月1日
	認知症専門診断管理料	(認知診)第4号	平成26年12月1日
	開放型病院共同指導料	(開)第51号	平成31年1月1日
	肝炎インターフェロン治療計画料	(肝炎)第35号	平成31年1月1日
	薬剤管理指導料	(薬)第287号	平成31年1月1日
	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	(電情)第85号	平成31年1月1日
	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	(持血測1)第37号	令和元年8月1日
医療機器安全管理料1	(機安1)第98号	平成31年1月1日	
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	(HPV)第152号	平成31年1月1日	

基本診療料 特掲診療料 別	施設基準名	受理番号	算定開始 年月日
基本診療料	検体検査管理加算(Ⅱ)	(検Ⅱ)第81号	平成31年1月1日
	埋込型心電図検査	(植心電)第5号	平成22年4月1日
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	(歩行)第34号	平成31年1月1日
	ヘッドアップティルト試験	(ヘッド)第25号	平成31年1月1日
	神経学的検査	(神経)第66号	平成31年1月1日
	コンタクトレンズ検査料	(コン1)第377号	平成31年1月1日
	小児食物アレルギー負荷検査	(小検)第32号	平成31年1月1日
	画像診断管理加算1	(画1)第46号	平成31年1月1日
	CT撮影及びMRI撮影	(C・M)第499号	平成31年1月1日
	冠動脈CT撮影加算	(冠動C)第27号	平成31年1月1日
	大腸CT撮影加算	(大腸C)第8号	平成24年4月1日
	心臓MRI撮影加算	(心臓M)第23号	平成31年1月1日
	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	(抗悪処方)第42号	平成31年1月1日
	外来化学療法加算1	(外化1)第146号	平成31年1月1日
	無菌製剤処理料	(菌)第146号	平成31年1月1日
	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	(心Ⅰ)第67号	令和元年10月1日
	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	(脳Ⅰ)第364号	平成31年1月1日
	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	(運Ⅰ)第450号	平成31年1月1日
	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	(呼Ⅰ)第361号	平成31年1月1日
	がん患者リハビリテーション料	(がんリハ)第140号	平成31年1月1日
	経皮的冠動脈形成術	(経冠形)第12号	平成26年4月1日
	経皮的冠動脈ステント留置術	(経冠ス)第12号	平成26年4月1日
	レーザー機器加算	(手光機)第235号	平成31年1月1日
	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	(乳セ)第139号	平成31年1月1日
	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	(乳セ)第241号	平成31年1月1日
	経皮的中隔心筋焼灼術	(経中)第19号	平成31年1月1日
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	(ペ)第183号	平成31年1月1日
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	(ペリ)第11号	平成31年1月1日
	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	(大)第97号	平成31年1月1日
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	(早大腸)第30号	平成31年1月1日
	腹腔鏡下仙骨腫固定術	(腹仙骨固)第7号	平成31年1月1日
	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	(胃瘻造)第84号	平成31年1月1日
	輸血管理料Ⅱ	(輸血Ⅱ)第94号	平成31年1月1日
	輸血適正使用加算	(輸適)第78号	平成31年1月1日
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	(造設前)第75号	平成31年1月1日
	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	(胃瘻造嚥)第57号	平成31年1月1日
	麻酔管理料(Ⅰ)	(麻管Ⅰ)第191号	平成31年1月1日
	保険医療機関間の連携による病理診断	(連携診)第15号	令和元年6月1日
	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	(連組織)第65号	令和元年6月1日
	病理診断管理加算1	(病理診1)第20号	平成31年1月1日
	悪性腫瘍病理組織標本加算	(悪病組)第14号	平成31年1月1日
	入院時食事療養費/生活療養(Ⅰ)	(食)第1020号	平成31年1月1日
	酸素の購入単価		平成31年4月1日 (毎年届出)

3. 組織図

(令和2年4月1日現在)



4. 職員数

(令和3年3月31日現在)

(1) 病院

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
医師	49	41	90	58.1
研修医	16		16	16.0
薬剤師	18		18	18.0
診療放射線技師	14		14	14.0
臨床検査技師	22	3	25	23.4
臨床工学技士	7		7	7.0
管理栄養士	6		6	6.0
栄養士	6		6	6.0
理学療法士	13		13	13.0
作業療法士	4		4	4.0
言語聴覚士	4		4	4.0
視能訓練士	4		4	4.0
臨床心理士	1		1	1.0
社会福祉士	6		6	6.0
精神保健福祉士	1		1	1.0
保健師	5		5	5.0
助産師	19		19	19.0
看護師	273	14	287	281.9
准看護師	3	1	4	3.7
事務職員	69		69	69.0
技術員	1		1	1.0
調理師	5		5	5.0
ボイラー技士等	1		1	1.0
看護助手	26	4	30	29.2
放射線助手		1	1	0.6
業務員	7		7	7.0
小計	580	64	644	603.9

(2) 付帯事業

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
訪問看護ステーション職員	5		5	5.0

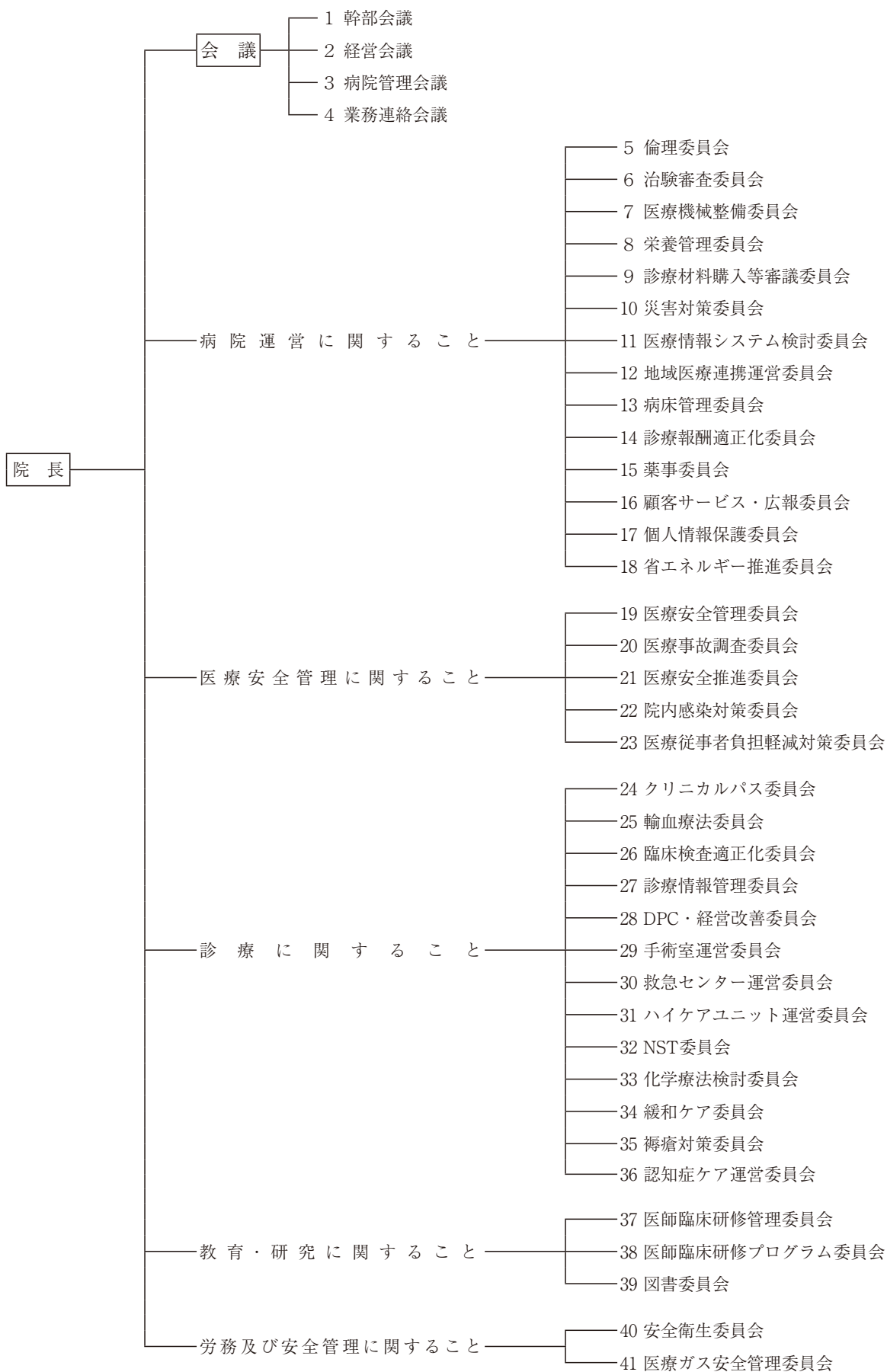
(3) 合計

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
(1) + (2)	585	64	649	608.9

5. 福島赤十字病院会議及び委員会

令和2年4月1日現在



6. 救護班名簿

(令和2年4月1日現在)

(1) 常備救護班

	第1救護班		第2救護班		第3救護班		第4救護班	
医師	医局 (消化器内科部)	菅野有紀子	医局 (消化器内科部)	浅間 宏之	医局 (循環器内科部)	阪本 貴之	医局 (外科部)	大須賀文彦
看護師長	3A病棟	武井 明美	外来	武田 里美	5A病棟	安達 明美	5B病棟	鈴木 牧子
看護師	6A病棟	三浦 愛	3B病棟	柳田 美穂	手術室	泉 弘子	3B病棟	田島 一樹
	5A病棟	武田 良平	6B病棟	斎藤 駿	3A病棟	山口 広夢	6A病棟	成尾ありさ
主事	総務課	菅野 正幸	医事課	金原 昭世	医事課	菊田 基晴	会計課	山名慎一郎
	検査部	幕田 高平	検査部	三浦 義喜	放射線科部	佐藤 勝行	放射線科部	明田 充弘

	第5救護班		第6救護班		第7救護班		第8救護班	
医師	医局 (呼吸器外科部)	井上 卓哉	医局 (整形外科部)	佐藤 法義	医局 (産婦人科部)	大原 美希	医局 (耳鼻咽喉科部)	多田 靖宏
看護師長	6B病棟	菅野いづみ	手術室	國分 花子	7階病棟	笹木恵美子	4階病棟	成澤 裕美
看護師	外来	萩原 暁美	6A病棟	清和 彩子	6B病棟	國分 朋子	5B病棟	長沢 恵
	3A病棟	北村 慶	5B病棟	渡邊 義文	5A病棟	野坂 雄史	3A病棟	三浦 将克
主事	用度施設課	池田 久光	医事課	渡辺 源貴	医療情報 システム課	奈良輪大輔	医療情報 システム課	佐藤 隆昭
	リハビリ科	大室 祐司	リハビリ科	大室 康騎	栄養課	葛城 美貴	臨床工学 技術課	村上 風太

薬剤師	我妻 禎	緑上 淳一	渡部 寿康	川村 早苗	佐藤 南	齋藤可奈子	二瓶 瑤子	酒井 亮
	菊池 洋平	安齋 英里	古賀 彩織	大竹麻衣子	小野優紀恵	武藤 芳和	佐藤 綾香	黒田 彩佳
	矢葺 優佳	猪股 育美						

支 部 連 絡 調 整 員	石田 政幸	久保 芳宏	松本 琢也	出口 智美	野崎 謙司	相澤真理子	高橋 郁弥	徳井 優舞
---------------------------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

こころの ケア指導者	支部 事業推進課	岩崎 睦子	地域医療 連携室	高根 晴美	手術室	國分 花子	4階病棟	成澤 裕美
	支部 組織振興課	武田 玲子	地域医療 連携室	菅野 直樹	外来	武田 里美		

(2) 統括DMAT

統括 DMAT	院長	渡部 洋一
------------	----	-------

(3) 日本DMAT隊員

区分	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
医師	脳神経外科部長	市川 剛	外科部主任部長	遠藤 豪一	循環器内科部 主任部長	渡部 研一	脳神経内科部 主任部長	中村耕一郎
看護師	3B病棟 看護師長	奈良輪弘美	手術室看護係長	泉 弘子	外来ER 看護師長	渡邊あゆみ	外来看護師	萩原 暁美
	4病棟助産師	金成 美和	3A病棟看護師	原田 瑞穂	3A病棟 看護係長	鈴木 安英	手術室看護師	梅宮 誠
	手術室看護師	鈴木 直人	3B病棟看護師	田島 一樹	5A病棟看護師	武田 良平		
調整員	調剤製剤課長	渡部 寿康	支部 事業推進課長	久保 芳宏	臨床工学技課長	橋本 健一	企画課長	野地 幸次
	支部 組織振興課係長	野崎 謙司	支部 総務課係長	松本 琢也	事務副部長	野田 誠	企画課主事	葛岡 大輔

(4) 福島県DMAT隊員

看護師	5B病棟 看護師	朝倉 恵実	3A病棟 看護師	山口 広夢	3A病棟 看護師	北村 慶		
調整員	薬剤師	酒井 亮	会計課主事	山名慎一郎	医療情報 システム課 主事	佐藤 隆昭	医事課主事	渡辺 源貴

(5)福島県災害医療コーディネーター

職名	氏名
院長	渡部 洋一
支部事業推進課長	久保 芳宏

(6)日赤災害医療コーディネーター

職名	氏名
院長	渡部 洋一
外科部主任部長	遠藤 豪一
循環器内科部主任部長	渡部 研一
脳神経外科部長	市川 剛
脳神経内科部主任部長	中村耕一郎

(7)日赤災害医療コーディネートスタッフ

職名	氏名
支部事業推進課長	久保 芳宏
看護師長	野地 啓子
事務副部長	野田 誠
看護師長	安達 明美
外来ER看護師長	渡邊あゆみ
3B病棟看護師長	奈良輪弘美
手術室看護師長	國分 花子
3A病棟看護係長	鈴木 安英
調剤製剤課長	渡部 寿康
企画課長	野地 幸次
支部総務課係長	松本 琢也
支部組織振興課係長	野崎 謙司

(8)日赤原子力災害医療アドバイザー

職名	氏名
脳神経内科部主任部長	中村耕一郎
画像情報係長	海藤 隆紀

(9)原子力災害時医療中核人材研修修了者

職名	氏名
4病棟看護係長	成澤 裕美
外来看護係長	小林 洋子
支部事業推進課参事	岩崎 陸子
画像情報係長	海藤 隆紀
脳神経内科部主任部長	中村耕一郎
5B病棟看護係長	鈴木 牧子
看護師	黒沢真由美
診療放射線技師	玉根 勇樹
3B病棟看護係長	柳田 美穂
6A病棟看護師長	清和 彩子

III

統計

1. 令和2年度実績表

単位：人(患者延数、1日平均)、日(在院日数)、円(稼働額、診療単価)

	入			院			外			来		合
	患者延数	1日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	患者延数	1日平均	診療稼働額	診療単価	診療稼働額合計	診療単価合計	
内科	276	0.8	12.5	12,194,936	44,185	5,596	23.1	71,901,777	12,849	84,096,713		
リウマチ・膠原病内科	3,052	8.4	14.9	160,401,602	52,556	6,228	25.7	162,384,001	26,073	322,785,603		
消化器内科	14,096	38.6	10.0	741,014,326	52,569	14,675	60.6	266,374,069	18,152	1,007,388,395		
糖尿病・代謝内科	1,697	4.6	16.8	67,538,261	39,799	8,905	36.8	82,716,240	9,289	150,254,501		
小児科	166	0.5	4.4	6,677,780	40,228	2,218	9.2	15,322,610	6,908	22,000,390		
外科	8,047	22.0	15.5	522,961,986	64,988	7,133	29.5	167,860,018	23,533	690,822,004		
整形外科	14,454	39.6	19.4	851,779,004	58,930	11,532	47.7	74,817,097	6,488	926,596,101		
脳神経外科	8,230	22.5	13.1	594,688,319	72,259	7,455	30.8	92,702,394	12,435	687,390,713		
皮膚科	131	0.4	12.8	4,935,820	37,678	4,347	18.0	18,539,139	4,265	23,474,959		
泌尿器科	74	0.2	1.7	4,103,606	55,454	2,119	8.8	19,900,331	9,391	24,003,937		
産婦人科	4,869	13.3	6.4	363,332,432	74,622	9,489	39.2	94,709,140	9,981	458,041,572		
眼科	1,263	3.5	1.1	129,208,112	102,303	7,795	32.2	59,145,828	7,588	188,353,940		
耳鼻咽喉科	1,599	4.4	5.0	112,687,308	70,474	4,619	19.1	39,449,648	8,541	152,136,956		
麻酔科	28	0.1	2.6	1,905,382	68,049	846	3.5	1,776,240	2,100	3,681,622		
精神科	1,979	5.4	32.1	55,488,149	28,038	8,673	35.8	43,022,932	4,961	98,511,081		
心臓血管外科	1,847	5.1	13.9	185,255,968	100,301	2,653	11.0	21,162,995	7,977	206,418,963		
循環器内科	10,568	29.0	13.5	686,729,864	64,982	16,020	66.2	144,226,229	9,003	830,956,093		
形成外科	333	0.9	12.3	18,796,319	56,445	2,016	8.3	31,512,431	15,631	50,308,750		
脳神経内科	4,226	11.6	16.5	202,716,933	47,969	5,465	22.6	38,549,180	7,054	241,266,113		
放射線科	1	0.0	0.0	0	0	33	0.1	1,267,280	38,402	1,267,280		
呼吸器外科	4,894	13.4	16.0	339,433,532	69,357	4,797	19.8	203,289,513	42,378	542,723,045		
救急科	1	0.0	0.0	0	0	32	0.1	832,980	26,031	832,980		
合計	81,831	224.2	11.7	5,061,849,639	61,857	132,646	548.1	1,651,462,072	12,450	6,713,311,711		

2. 入院 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価

(1) 入院患者数

(単位：人)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	276	6	25	24	16	43	2	2	1	31	4	22	100
リウマチ・膠原病内科	3,052	247	215	290	254	337	335	192	300	183	228	224	247
消化器内科	14,096	917	871	1,063	1,260	1,301	1,426	1,416	1,313	1,023	1,162	1,008	1,336
糖尿病・代謝内科	1,697	206	142	180	98	123	135	158	177	141	124	110	103
小児科	166	0	0	0	12	29	26	37	50	12	0	0	0
外科	8,047	659	628	694	744	829	535	757	751	471	510	635	834
整形外科	14,454	1,113	1,197	983	1,210	1,112	1,145	1,317	1,483	1,190	1,019	1,452	1,233
脳神経外科	8,230	896	569	631	626	672	712	769	683	593	583	605	891
皮膚科	131	0	2	32	39	20	10	26	2	0	0	0	0
泌尿器科	74	0	0	6	14	14	10	2	0	8	2	2	16
産婦人科	4,869	519	420	464	331	476	389	515	378	261	338	374	404
眼科	1,263	101	95	128	134	97	118	121	93	63	76	116	121
耳鼻咽喉科	1,599	64	79	122	175	136	144	197	155	119	151	122	135
麻酔科	28	2	0	0	4	0	12	0	4	2	0	4	0
精神科	1,979	131	138	199	196	194	180	177	213	198	169	99	85
心臓血管外科	1,847	316	168	132	168	179	184	143	74	98	124	136	125
循環器内科	10,568	785	692	754	900	837	834	994	900	807	1,055	1,037	973
形成外科	333	60	28	9	25	20	10	41	60	35	8	25	12
脳神経内科	4,226	320	250	275	326	377	357	535	390	246	419	342	389
放射線科	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器外科	4,894	486	447	338	453	366	328	454	447	442	364	295	474
救急科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	81,831	6,828	5,966	6,324	6,986	7,162	6,892	7,853	7,474	5,923	6,336	6,608	7,479
1日平均	224.2	227.6	192.5	210.8	225.4	231.0	229.7	253.3	249.1	191.1	204.4	236.0	241.3

(2)入院稼働額

(単位：千円)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	12,195	299	990	987	551	1,833	121	119	124	1,395	150	1,252	4,374
リウマチ・膠原病内科	160,402	12,361	12,905	14,230	13,939	15,664	17,924	12,919	17,190	8,990	10,884	10,981	12,415
消化器内科	741,013	47,136	48,987	56,296	64,159	67,117	72,179	74,571	68,601	51,241	60,059	54,145	76,522
糖尿病・代謝内科	67,539	7,858	5,424	7,051	3,851	5,036	4,718	6,516	7,566	5,244	4,838	4,709	4,728
小児科	6,678	0	0	0	511	1,183	1,052	1,462	1,969	501	0	0	0
外科	522,961	44,041	35,276	46,535	47,832	47,413	37,441	54,325	48,281	25,220	40,920	42,098	53,579
整形外科	851,780	60,904	66,215	64,384	73,531	67,929	63,133	83,316	87,670	60,059	70,056	83,156	71,427
脳神経外科	594,689	57,466	40,327	52,210	38,311	54,516	56,118	51,701	39,738	42,883	49,899	45,813	65,707
皮膚科	4,935	0	106	1,173	1,329	751	554	952	70	0	0	0	0
泌尿器科	4,104	0	0	371	707	757	391	102	0	420	105	106	1,145
産婦人科	363,332	39,808	26,228	31,971	26,916	35,485	28,288	39,900	28,066	18,855	27,969	28,734	31,112
眼科	129,207	10,298	9,794	13,370	14,153	10,565	12,531	11,871	9,737	5,964	7,392	10,900	12,632
耳鼻咽喉科	112,687	3,273	3,334	7,878	11,453	9,221	13,006	14,683	12,515	7,267	9,715	8,987	11,355
麻酔科	1,905	211	0	0	441	0	509	0	419	201	0	124	0
精神科	55,488	3,239	4,441	5,911	6,201	5,749	5,266	5,184	5,300	4,889	3,863	2,952	2,493
心臓血管外科	185,255	31,357	12,741	14,165	14,320	22,784	19,586	14,221	10,537	7,012	10,344	12,768	15,420
循環器内科	686,730	54,323	44,065	49,027	55,733	49,002	63,121	64,007	58,981	48,474	65,336	66,281	68,380
形成外科	18,798	2,481	1,066	1,055	2,071	1,290	791	2,066	2,816	1,329	257	2,051	1,525
脳神経内科	202,717	14,612	12,438	14,154	14,862	16,148	16,933	24,171	17,558	11,400	22,059	16,939	21,443
呼吸器外科	339,433	32,548	27,204	27,554	27,951	26,867	26,038	35,756	31,733	26,641	25,827	17,236	34,078
合計	5,061,848	422,215	351,541	408,322	418,822	439,310	439,700	497,842	448,871	327,985	409,673	409,232	488,335

(3) 入院単価

(単位：円)

	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	44,185	49,833	39,600	41,125	34,438	42,628	60,500	59,500	124,000	45,000	37,500	56,909	43,740
リウマチ・膠原病内科	52,556	50,045	60,023	49,069	54,878	46,481	53,504	67,286	57,300	49,126	47,737	49,022	50,263
消化器内科	52,569	51,402	56,242	52,960	50,920	51,589	50,616	52,663	52,248	50,089	51,686	53,715	57,277
糖尿病・代謝内科	39,799	38,146	38,197	39,172	39,296	40,943	34,948	41,241	42,746	37,191	39,016	42,809	45,903
小児科	40,229	-	-	-	42,583	40,793	40,462	39,514	39,380	41,750	-	-	-
外科	64,988	66,830	56,172	67,053	64,290	57,193	69,983	71,764	64,289	53,546	80,235	66,296	64,243
整形外科	58,930	54,721	55,317	65,497	60,769	61,087	55,138	63,262	59,117	50,470	68,750	57,270	57,929
脳神経外科	72,259	64,136	70,873	82,742	61,200	81,125	78,817	67,231	58,182	72,315	85,590	75,724	73,745
皮膚科	37,672	-	53,000	36,656	34,077	37,550	55,400	36,615	35,000	-	-	-	-
泌尿器科	55,459	-	-	61,833	50,500	54,071	39,100	51,000	-	52,500	52,500	53,000	71,563
産婦人科	74,621	76,701	62,448	68,903	81,317	74,548	72,720	77,476	74,249	72,241	82,749	76,829	77,010
眼科	102,302	101,960	103,095	104,453	105,619	108,918	106,195	98,107	104,699	94,667	97,263	93,966	104,397
耳鼻咽喉科	70,473	51,141	42,203	64,574	65,446	67,801	90,319	74,533	80,742	61,067	64,338	73,664	84,111
麻酔科	68,036	105,500	-	-	110,250	-	42,417	-	104,750	100,500	-	31,000	-
精神科	28,038	24,725	32,181	29,704	31,638	29,634	29,256	29,288	24,883	24,692	22,858	29,818	29,329
心臓血管外科	100,300	99,231	75,839	107,311	85,238	127,285	106,446	99,448	142,392	71,551	83,419	93,882	123,360
循環器内科	64,982	69,201	63,678	65,023	61,926	58,545	75,685	64,393	65,534	60,067	61,930	63,916	70,277
形成外科	56,450	41,350	38,071	117,222	82,840	64,500	79,100	50,390	46,933	37,971	32,125	82,040	127,083
脳神経内科	47,969	45,663	49,752	51,469	45,589	42,833	47,431	45,179	45,021	46,341	52,647	49,529	55,123
呼吸器外科	69,357	66,971	60,859	81,521	61,702	73,407	79,384	78,758	70,991	60,274	70,953	58,427	71,895
全科	61,857	61,836	58,924	64,567	59,952	61,339	63,799	63,395	60,058	55,375	64,658	61,930	65,294

3. 外来 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価

(1) 外来患者数

(単位：人)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	5,596	560	378	520	488	477	482	523	419	389	470	382	508
リウマチ・膠原病内科	6,228	540	432	584	562	548	438	592	493	509	457	526	547
消化器内科	14,675	1,011	885	1,093	1,318	1,220	1,292	1,511	1,304	1,063	1,242	1,270	1,466
糖尿病・代謝内科	8,905	789	609	684	795	727	794	813	737	721	734	672	830
小児科	2,218	183	168	190	192	233	184	234	274	154	111	130	165
外科	7,133	463	458	585	657	618	695	744	615	487	556	542	713
整形外科	11,532	901	790	986	1,058	931	1,003	1,107	958	859	950	852	1,137
脳神経外科	7,455	612	547	600	652	648	683	710	637	533	590	533	710
皮膚科	4,347	368	324	390	399	397	380	395	371	281	321	322	399
泌尿器科	2,119	131	124	169	190	196	205	197	201	172	172	169	193
産婦人科	9,489	764	650	875	832	832	788	882	753	662	745	744	962
眼科	7,795	639	611	729	734	675	687	699	606	481	620	609	705
耳鼻咽喉科	4,619	361	286	393	432	438	456	428	402	226	356	391	450
麻酔科	846	65	63	78	84	78	87	92	66	57	58	58	60
精神科	8,673	682	573	722	766	687	886	810	714	725	662	639	807
心臓血管外科	2,653	289	245	282	327	275	373	175	143	124	138	117	165
循環器内科	16,020	1,338	1,064	1,263	1,434	1,277	1,303	1,600	1,290	1,343	1,318	1,233	1,557
形成外科	2,016	163	73	171	192	154	223	233	187	92	125	165	238
脳神経内科	5,465	391	391	460	491	451	500	526	444	399	450	395	567
放射線科	33	2	4	1	0	3	4	4	4	2	1	4	4
呼吸器外科	4,797	353	316	456	476	427	425	488	393	323	386	339	415
救急科	32	4	2	4	3	3	3	2	2	1	0	1	7
合計	132,646	10,609	8,993	11,235	12,082	11,295	11,891	12,765	11,013	9,603	10,462	10,093	12,605
1日平均	548.1	505.2	529.0	510.7	575.3	564.8	594.6	580.2	579.6	480.2	550.6	560.7	548.0

(2) 外来稼働額

(単位：千円)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	71,902	6,314	5,291	6,747	6,170	6,761	6,081	6,278	5,343	4,085	6,402	5,657	6,773
リウマチ・膠原病内科	162,384	14,098	12,857	13,364	15,743	13,887	12,606	13,331	12,608	12,142	14,092	13,692	13,964
消化器内科	266,373	16,065	15,716	18,399	22,209	22,239	24,380	27,676	21,110	17,030	25,278	24,370	31,901
糖尿病・代謝内科	82,716	7,331	5,927	6,558	7,753	6,808	7,454	7,843	6,700	4,984	7,094	6,572	7,692
小児科	15,322	1,270	1,170	1,409	947	1,706	911	1,304	1,662	724	487	707	3,025
外科	167,861	10,507	11,359	13,444	14,618	14,053	15,479	16,466	13,743	11,453	14,095	14,750	17,894
整形外科	74,819	5,187	5,313	6,178	6,756	5,823	6,322	6,764	6,270	4,328	6,993	6,641	8,244
脳神経外科	92,703	6,918	6,180	8,372	7,628	7,907	9,366	8,517	8,300	5,425	7,728	7,061	9,301
皮膚科	18,540	2,307	1,327	1,445	2,244	1,165	1,432	1,819	972	1,805	1,128	990	1,906
泌尿器科	19,902	1,020	1,109	1,521	1,853	1,800	2,034	2,150	1,541	1,290	2,182	1,500	1,902
産婦人科	94,708	7,169	6,193	8,410	7,843	7,426	7,355	8,154	7,624	6,785	8,326	8,763	10,660
眼科	59,147	4,681	5,003	5,119	5,636	5,210	5,242	5,139	4,370	3,564	4,755	4,913	5,515
耳鼻咽喉科	39,450	2,351	1,949	3,586	3,732	3,946	3,891	3,915	3,630	1,559	3,172	3,487	4,232
麻酔科	1,776	126	137	149	168	196	194	175	132	104	120	137	138
精神科	43,023	3,146	2,575	3,788	4,128	3,644	4,631	4,199	3,806	2,921	3,215	3,177	3,793
心血管外科	21,164	1,875	1,655	2,090	2,617	2,131	2,865	1,734	1,295	788	1,110	1,314	1,690
循環器内科	144,226	10,648	8,920	11,561	13,410	11,851	12,288	14,839	12,469	9,033	12,485	11,841	14,881
形成外科	31,511	2,223	694	2,300	4,080	1,580	3,962	3,879	3,120	1,022	2,592	2,243	3,816
脳神経内科	38,550	2,584	2,440	3,009	3,683	3,092	3,693	3,683	3,596	2,249	3,316	2,864	4,341
放射線科	1,267	72	173	39	0	131	133	169	148	66	29	165	142
呼吸器外科	203,291	15,661	14,297	22,830	17,631	20,522	17,549	20,780	14,370	13,583	16,272	13,541	16,255
救急科	833	84	58	142	58	43	101	96	72	3	0	51	126
合計	1,651,468	121,637	110,343	140,460	148,907	141,921	147,969	158,910	132,881	104,943	140,871	134,436	168,191

(3) 外来単価

(単位：円)

	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	12,849	11,275	13,997	12,975	12,643	14,174	12,616	12,004	12,752	10,501	13,621	14,809	13,333
リウマチ・膠原病内科	26,073	26,107	29,762	22,884	28,012	25,341	28,781	22,519	25,574	23,855	30,836	26,030	25,528
消化器内科	18,151	15,890	17,758	16,833	16,851	18,229	18,870	18,316	16,189	16,021	20,353	19,189	21,761
糖尿病・代謝内科	9,289	9,292	9,732	9,588	9,752	9,365	9,388	9,647	9,091	6,913	9,665	9,780	9,267
小児科	6,908	6,940	6,964	7,416	4,932	7,322	4,951	5,573	6,066	4,701	4,387	5,438	18,333
外科	23,533	22,693	24,801	22,981	22,250	22,739	22,272	22,132	22,346	23,517	25,351	27,214	25,097
整形外科	6,488	5,757	6,725	6,266	6,386	6,255	6,303	6,110	6,545	5,038	7,361	7,795	7,251
脳神経外科	12,435	11,304	11,298	13,953	11,699	12,202	13,713	11,996	13,030	10,178	13,098	13,248	13,100
皮膚科	4,265	6,269	4,096	3,705	5,624	2,935	3,768	4,605	2,620	6,423	3,514	3,075	4,777
泌尿器科	9,392	7,786	8,944	9,000	9,753	9,184	9,922	10,914	7,667	7,500	12,686	8,876	9,855
産婦人科	9,981	9,384	9,528	9,611	9,427	8,925	9,334	9,245	10,125	10,249	11,176	11,778	11,081
眼科	7,588	7,326	8,188	7,022	7,678	7,719	7,630	7,352	7,211	7,410	7,669	8,067	7,823
耳鼻咽喉科	8,541	6,512	6,815	9,125	8,639	9,009	8,533	9,147	9,030	6,898	8,910	8,918	9,404
麻酔科	2,099	1,938	2,175	1,910	2,000	2,513	2,230	1,902	2,000	1,825	2,069	2,362	2,300
精神科	4,961	4,613	4,494	5,247	5,389	5,304	5,227	5,184	5,331	4,029	4,856	4,972	4,700
心臓血管外科	7,977	6,488	6,755	7,411	8,003	7,749	7,681	9,909	9,056	6,355	8,043	11,231	10,242
循環器内科	9,003	7,958	8,383	9,154	9,351	9,280	9,431	9,274	9,666	6,726	9,473	9,603	9,557
形成外科	15,630	13,638	9,507	13,450	21,250	10,260	17,767	16,648	16,684	11,109	20,736	13,594	16,034
脳神経内科	7,054	6,609	6,240	6,541	7,501	6,856	7,386	7,002	8,099	5,637	7,369	7,251	7,656
放射線科	38,394	36,000	43,250	39,000	-	43,667	33,250	42,250	37,000	33,000	29,000	41,250	35,500
呼吸器外科	42,379	44,365	45,244	50,066	37,040	48,061	41,292	42,582	36,565	42,053	42,155	39,944	39,169
救急科	26,031	20,948	29,110	35,438	19,183	14,260	33,640	47,995	36,170	2,840	-	50,740	18,009
全科	12,450	11,465	12,270	12,502	12,325	12,565	12,444	12,449	12,066	10,928	13,465	13,320	13,343

4. 診療科別・行為別稼働額

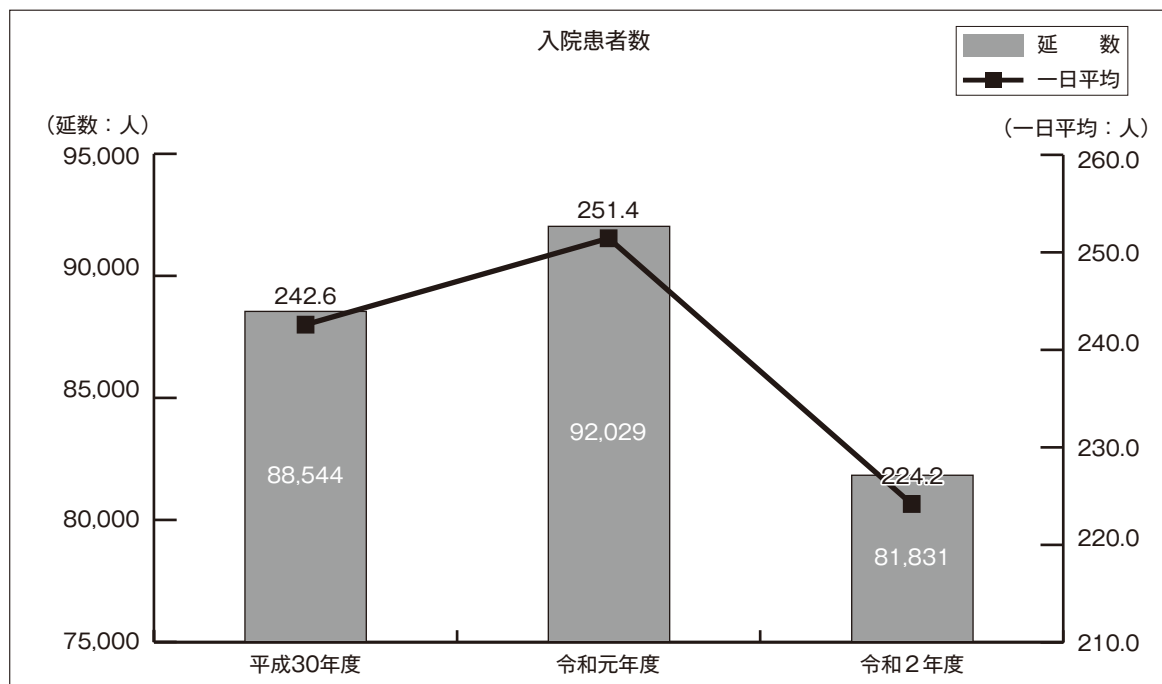
(単位：千円)

	入院料収益				入院診療収益／外来診療収益													自費収益(C)		合計 (A) + (B) + (C)	
	DPC 稼働額	入院料	食事 療養費	計(A)	検査料	画像 診断料	投薬料	注射料	処置料	手術料等	初診 再診料	医学 管理料	在宅 管理料	理学 療法料	精神 療法料	処方箋料 その他	小計(B)	室料 差額	文書検診 その他		
内科	入院	10,016	481	465	10,962	191	44	14	20	3	57	6	125	237	515	22	0	1,233	411	6	12,611
	外来	0	0	0	0	28,517	10,664	247	597	79	0	5,151	2,381	21,707	9	0	2,548	71,902	0	6,889	78,791
消化器内科	入院	93,478	14,757	4,733	112,969	1,627	450	4,199	25,742	51	2,893	134	1,766	819	9,509	242	0	47,433	3,712	100	164,214
	外来	0	0	0	0	37,691	6,569	18	98,836	175	207	4,345	2,364	8,898	184	0	3,096	162,384	0	821	163,205
糖尿病・内分泌科	入院	486,172	61,644	16,434	564,250	15,275	1,905	6,904	12,340	1,601	109,987	1,340	9,215	1,009	16,752	436	0	176,764	21,751	1,282	764,047
	外来	0	0	0	0	116,505	36,986	149	73,898	738	11,691	12,035	7,776	2,229	2	0	4,365	266,374	0	3,234	269,608
薬剤科	入院	48,133	10,674	2,903	61,710	819	246	363	61	25	175	119	1,037	733	2,175	76	0	5,828	1,525	97	69,160
	外来	0	0	0	0	37,706	1,128	9	288	23	0	5,807	861	31,859	0	0	5,036	82,716	0	688	83,404
小児科	入院	1,085	4,906	0	5,991	364	67	0	22	57	121	44	12	0	0	0	0	687	0	30	6,708
	外来	0	0	0	0	2,226	311	1	4,541	1	12	712	3,742	3,440	0	0	337	15,323	0	13,291	28,614
外科	入院	259,718	47,404	8,807	315,929	5,006	1,139	937	1,492	1,518	181,610	505	4,901	314	8,719	778	114	207,033	10,824	605	534,391
	外来	0	0	0	0	32,985	27,043	92	82,186	533	5,537	5,382	10,766	1,140	16	0	2,180	167,860	0	2,537	170,397
整形外科	入院	395,408	56,814	26,140	478,362	4,783	1,841	1,956	2,628	2,020	300,998	1,455	9,352	569	47,324	481	10	373,417	11,697	662	864,138
	外来	0	0	0	0	13,200	25,973	283	6,035	1,953	5,589	10,517	3,203	1,176	2,047	0	4,841	74,817	0	5,917	80,734
脳神経外科	入院	288,710	70,481	11,958	371,149	5,334	2,889	1,175	242	262	162,510	1,587	5,365	100	43,954	118	4	223,539	6,329	966	601,983
	外来	0	0	0	0	9,831	54,779	153	8,083	185	2,903	7,430	5,357	732	479	0	2,772	92,702	0	3,241	95,943
皮膚科	入院	3,568	711	231	4,509	24	26	20	27	28	7	69	66	0	157	0	2	427	0	7	4,943
	外来	0	0	0	0	2,769	93	44	7,237	1,070	139	3,554	1,390	33	8	0	2,202	18,539	0	393	18,933
泌尿器科	入院	2,794	210	80	3,084	497	0	16	1	0	354	0	97	3	51	0	0	1,019	244	2	4,349
	外来	0	0	0	0	7,087	4,556	25	2,276	190	513	1,923	1,127	1,418	0	0	785	19,900	0	220	20,121
産婦人科	入院	121,767	42,030	4,270	168,067	4,080	105	748	589	1,263	184,470	289	3,559	0	5	155	0	195,265	13,236	4,876	381,444
	外来	0	0	0	0	45,927	16,232	36	19,105	475	615	5,655	5,245	12	0	0	1,408	94,709	0	24,952	119,661

(単位：千円)

	入院料収益				入院診療収益／外来診療収益													自費収益(C)		合計 (A) + (B) + (C)
	DPC 稼働額	入院料	食事 療養費	計(A)	検査料	画像 診断料	投薬料	注射料	処置料	手術料等	初診 再診料	医学 管理料	在宅 管理料	理学 療法料	精神 療法料	処方箋料 その他	小計(B)	室料 差額	文書検診 その他	
眼科	入院	39,239	829	1,248	41,316	76	0	1,053	0	1	84,417	6	2,314	14	0	12	87,892	1,834	12	
	外来	0	0	0	0	40,936	1,168	19	38	120	5,695	2,139	0	2	0	0	59,146	0	919	
耳鼻咽喉科	入院	52,056	3,281	2,132	57,469	2,137	59	336	41	3	49,008	144	2,734	104	642	8	55,219	3,186	78	
	外来	0	0	0	0	20,621	8,338	29	49	412	968	1,604	162	1,437	0	1,136	39,450	0	1,290	
麻酔科	入院	1,078	541	28	1,647	1	0	121	0	0	13	53	24	0	19	0	259	0	21	
	外来	0	0	0	0	56	86	0	49	0	442	74	60	0	0	438	1,776	0	40	
精神科	入院	47	36,281	3,653	39,981	2,067	1,181	1,390	1,116	426	306	735	21	2,580	5,643	0	15,507	180	66	
	外来	0	0	0	0	2,048	1,915	2	704	0	6,044	2,402	675	0	24,530	4,703	43,023	0	1,735	
心臓血管外科	入院	66,867	11,241	2,773	80,880	705	220	593	7	862	98,623	155	956	120	2,096	39	104,376	1,102	228	
	外来	0	0	0	0	6,862	8,648	4	28	83	70	1,507	804	0	1,142	21,163	0	547		
循環器内科	入院	366,419	65,330	17,454	449,203	15,623	952	5,653	1,084	663	186,377	976	7,378	1,172	17,102	546	237,527	7,417	1,194	
	外来	0	0	0	0	74,461	18,792	88	2,849	391	84	11,986	9,458	17,726	258	8,134	144,226	0	2,162	
形成外科	入院	9,540	700	567	10,796	134	1	141	18	589	5,968	0	258	83	765	44	8,000	795	25	
	外来	0	0	0	0	9,268	874	552	20	149	17,400	2,381	239	57	6	0	31,512	0	579	
神経内科	入院	137,342	30,710	6,317	174,368	2,229	763	863	321	120	563	614	2,563	432	19,697	184	28,349	4,299	303	
	外来	0	0	0	0	6,735	13,421	60	2,978	13	1,143	4,596	3,303	3,579	316	2,405	38,549	0	1,143	
放射線科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	外来	0	0	0	0	0	369	729	0	0	0	84	55	0	0	0	1,267	0	2,609	
呼吸器外科	入院	174,002	30,903	7,932	212,837	4,055	773	1,231	8,836	266	97,729	307	3,737	190	7,630	323	126,597	7,033	432	
	外来	0	0	0	0	19,283	35,200	33	132,985	56	97	4,013	8,091	2,036	244	0	203,290	0	1,322	
救急科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	外来	0	0	0	0	266	247	4	19	91	0	96	0	0	0	3	833	0	833	
合計	入院	2,557,438	489,927	118,115	3,165,480	65,029	12,661	27,712	54,587	9,757	1,466,184	7,818	56,225	5,945	179,673	9,123	1,896,370	95,575	10,993	
	外来	0	0	0	0	514,979	273,391	2,577	442,803	6,738	52,613	104,643	73,212	97,797	5,008	24,530	1,651,462	0	74,530	

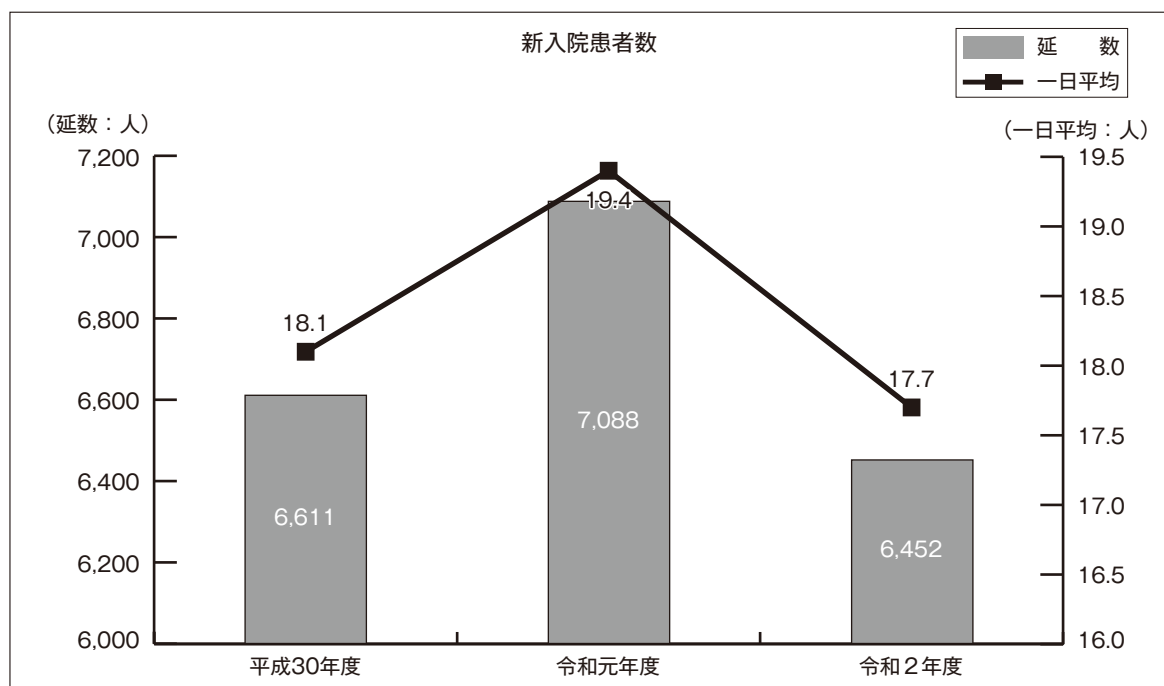
5. 入院患者数



(単位：人)

	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内科	14,083	38.6	11,152	30.5	276	0.8
リウマチ・膠原病内科	-	-	-	-	3,052	8.4
消化器内科	8,278	22.7	11,741	32.1	14,096	38.6
糖尿病・代謝内科	2,514	6.9	2,165	5.9	1,697	4.6
小児科	411	1.1	196	0.5	166	0.5
外科	6,877	18.8	7,193	19.7	8,047	22.0
整形外科	12,397	34.0	13,665	37.3	14,454	39.6
脳神経外科	9,073	24.9	9,344	25.5	8,230	22.5
皮膚科	345	0.9	285	0.8	131	0.4
泌尿器科	-	-	-	-	74	0.2
産婦人科	5,805	15.9	6,318	17.3	4,869	13.3
眼科	796	2.2	1,212	3.3	1,263	3.5
耳鼻咽喉科	1,525	4.2	1,952	5.3	1,599	4.4
麻酔科	43	0.1	51	0.1	28	0.1
精神科	2,734	7.5	1,626	4.4	1,979	5.4
心臓血管外科	2,423	6.6	2,901	7.9	1,847	5.1
循環器内科	11,370	31.2	11,804	32.3	10,568	29.0
形成外科	439	1.2	191	0.5	333	0.9
脳神経内科	4,673	12.8	4,848	13.2	4,226	11.6
放射線科	-	-	-	-	1	0.0
呼吸器外科	4,758	13.0	5,385	14.7	4,894	13.4
救急科	-	-	-	-	1	0.0
合計	88,544	242.6	92,029	251.4	81,831	224.2

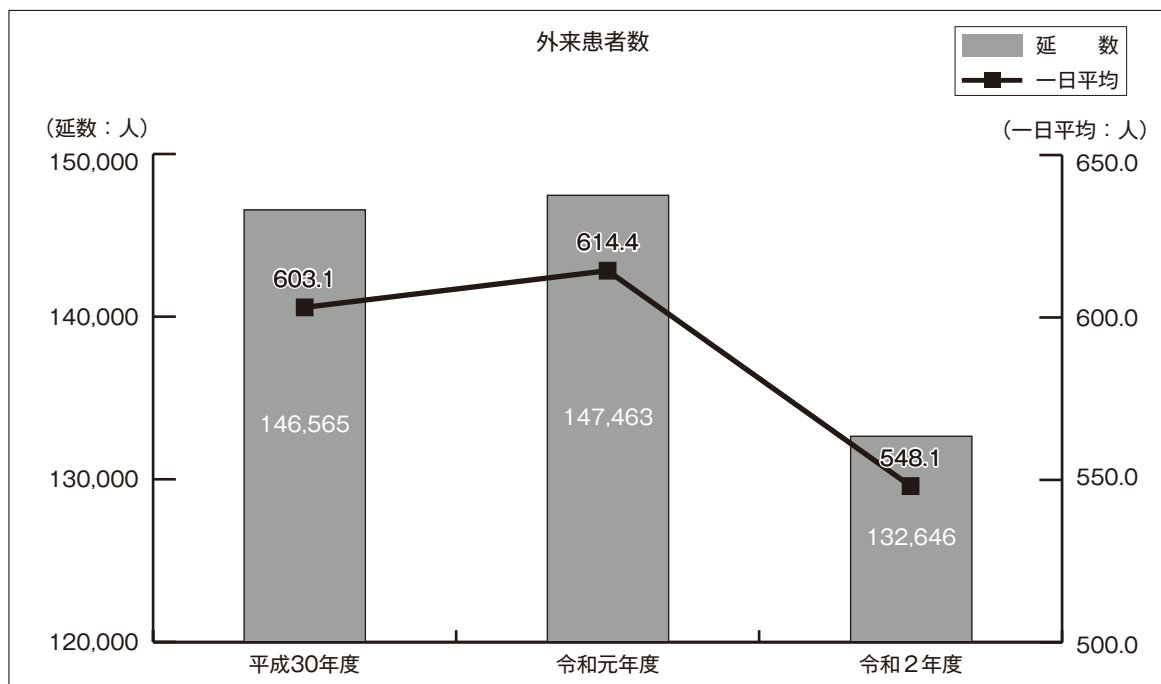
6. 新入院患者数



(単位：人)

	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	845	2.3	644	1.8	28	0.1
リウマチ・膠原病内科	-	-	-	-	189	0.5
消化器内科	754	2.1	1,014	2.8	1,298	3.6
糖尿病・代謝内科	134	0.4	129	0.4	95	0.3
小 児 科	85	0.2	51	0.1	31	0.1
外 科	440	1.2	496	1.4	480	1.3
整 形 外 科	588	1.6	689	1.9	707	1.9
脳神経外科	685	1.9	649	1.8	588	1.6
皮 膚 科	23	0.1	18	0.0	10	0.0
泌 尿 器 科	-	-	-	-	26	0.1
産 婦 人 科	725	2.0	808	2.2	655	1.8
眼 科	377	1.0	582	1.6	615	1.7
耳鼻咽喉科	275	0.8	332	0.9	262	0.7
麻 酔 科	17	0.0	13	0.0	9	0.0
精 神 科	77	0.2	45	0.1	51	0.1
心臓血管外科	168	0.5	179	0.5	123	0.3
循環器内科	747	2.0	770	2.1	732	2.0
形 成 外 科	31	0.1	30	0.1	24	0.1
脳神経内科	305	0.8	297	0.8	243	0.7
放 射 線 科	-	-	-	-	1	0.0
呼吸器外科	335	0.9	342	0.9	284	0.8
救 急 科	-	-	-	-	1	0.0
合 計	6,611	18.1	7,088	19.4	6,452	17.7

7. 外来患者数



(単位: 人)

	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内科	20,455	84.2	18,773	78.2	5,596	23.1
リウマチ・膠原病内科	-	-	-	-	6,228	25.7
消化器内科	7,318	30.1	10,427	43.4	14,675	60.6
糖尿病・代謝内科	8,149	33.5	8,654	36.1	8,905	36.8
小児科	3,421	14.1	2,873	12.0	2,218	9.2
外科	7,252	29.8	7,903	32.9	7,133	29.5
整形外科	15,374	63.3	13,624	56.8	11,532	47.7
脳神経外科	8,555	35.2	8,245	34.4	7,455	30.8
皮膚科	5,819	23.9	5,548	23.1	4,347	18.0
泌尿器科	728	3.0	701	2.9	2,119	8.8
産婦人科	8,465	34.8	9,823	40.9	9,489	39.2
眼科	8,768	36.1	9,062	37.8	7,795	32.2
耳鼻咽喉科	6,370	26.2	6,226	25.9	4,619	19.1
麻酔科	1,019	4.2	882	3.7	846	3.5
精神科	10,975	45.2	9,653	40.2	8,673	35.8
心臓血管外科	4,134	17.0	4,012	16.7	2,653	11.0
循環器内科	16,879	69.5	17,428	72.6	16,020	66.2
形成外科	2,423	10.0	2,602	10.8	2,016	8.3
脳神経内科	5,677	23.4	5,970	24.9	5,465	22.6
放射線科	17	0.1	25	0.1	33	0.1
呼吸器外科	4,767	19.6	5,032	21.0	4,797	19.8
救急科	-	-	-	-	32	0.1
合計	146,565	603.1	147,463	614.4	132,646	548.1

8. 診療科別稼働額

(単位：千円)

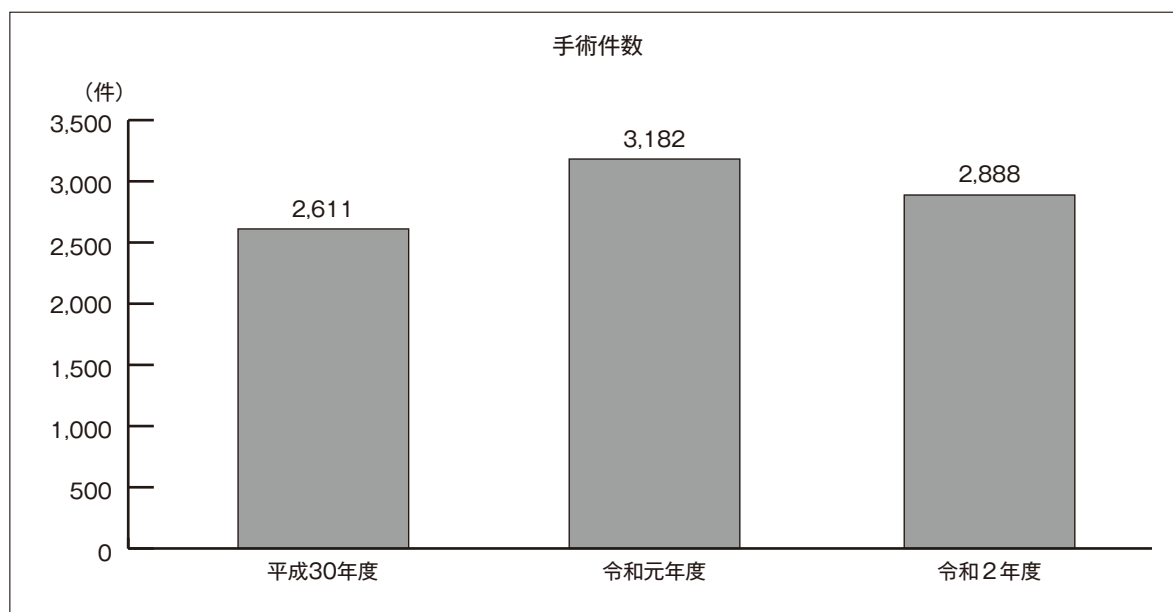
	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
内科	603,531	368,489	972,020	476,914	340,503	817,417	12,195	71,902	84,097
リウマチ・膠原病内科	-	-	-	-	-	-	160,402	162,384	322,786
消化器内科	403,227	118,215	521,442	557,129	171,202	728,331	741,014	266,374	1,007,388
糖尿病・代謝内科	84,157	72,529	156,686	76,022	80,336	156,358	67,538	82,716	150,255
小児科	22,599	19,589	42,188	11,654	18,000	29,654	6,678	15,323	22,000
外科	405,616	112,637	518,253	458,271	140,917	599,188	522,962	167,860	690,822
整形外科	681,058	83,521	764,579	803,308	79,793	883,101	851,779	74,817	926,596
脳神経外科	618,642	97,636	716,278	603,461	98,064	701,525	594,688	92,702	687,391
皮膚科	11,463	18,116	29,579	9,452	18,818	28,269	4,936	18,539	23,475
泌尿器科	-	4,388	4,388	-	4,248	4,248	4,104	19,900	24,004
産婦人科	392,825	76,212	469,037	435,730	99,033	534,763	363,332	94,709	458,042
眼科	76,673	58,458	135,130	118,985	63,330	182,315	129,208	59,146	188,354
耳鼻咽喉科	109,281	47,732	157,013	145,304	51,008	196,312	112,687	39,450	152,137
麻酔科	3,349	1,993	5,343	2,927	1,983	4,910	1,905	1,776	3,682
精神科	73,292	57,054	130,346	42,978	48,772	91,750	55,488	43,023	98,511
心臓血管外科	194,328	27,649	221,976	256,453	26,768	283,222	185,256	21,163	206,419
循環器内科	719,945	145,444	865,388	748,235	151,307	899,542	686,730	144,226	830,956
形成外科	24,447	26,058	50,506	13,345	36,236	49,582	18,796	31,512	50,309
脳神経内科	201,581	41,123	242,704	208,015	43,535	251,549	202,717	38,549	241,266
放射線科	-	653	653	-	886	886	-	1,267	1,267
呼吸器外科	347,720	226,747	574,467	385,894	247,124	633,018	339,434	203,290	542,723
救急科	-	-	-	-	-	-	-	833	833
合計	4,973,734	1,604,244	6,577,978	5,354,078	1,721,861	7,075,939	5,061,850	1,651,462	6,713,312

9. 入院・外来単価(自費収益を含まない)

(単位：円)

	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来
内 科	42,855	18,015	42,765	18,138	44,185	12,849
リウマチ・膠原病内科	-	-	-	-	52,556	26,073
消 化 器 内 科	48,711	16,154	47,452	16,419	52,569	18,152
糖尿病・代謝内科	33,475	8,900	35,114	9,283	39,799	9,289
小 児 科	54,985	5,726	59,460	6,265	40,228	6,908
外 科	58,982	15,532	63,711	17,831	64,988	23,533
整 形 外 科	54,937	5,433	58,786	5,857	58,930	6,488
脳 神 経 外 科	68,185	11,413	64,583	11,894	72,259	12,435
皮 膚 科	33,225	3,113	33,164	3,392	37,678	4,265
泌 尿 器 科	-	6,028	-	6,059	55,454	9,391
産 婦 人 科	67,670	9,003	68,967	10,082	74,622	9,981
眼 科	96,323	6,667	98,173	6,988	102,303	7,588
耳 鼻 咽 喉 科	71,659	7,493	74,439	8,193	70,474	8,541
麻 酔 科	77,894	1,956	57,393	2,248	68,049	2,100
精 神 科	26,808	5,199	26,432	5,053	28,038	4,961
心 臓 血 管 外 科	80,201	6,688	88,402	6,672	100,301	7,977
循 環 器 内 科	63,320	8,617	63,388	8,682	64,982	9,003
形 成 外 科	55,689	10,755	69,872	13,926	56,445	15,631
脳 神 経 内 科	43,137	7,244	42,907	7,292	47,969	7,054
放 射 線 科	-	38,401	-	35,449	-	38,402
呼 吸 器 外 科	73,081	47,566	71,661	49,111	69,357	42,378
救 急 科	-	-	-	-	-	26,031
全 科	56,172	10,946	58,178	11,677	61,859	12,450

10. 手術件数(手術室)



(単位：件)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
消化器内科	10	3	6
外科	344	458	416
呼吸器外科	125	130	100
整形外科	509	594	568
脳神経外科	135	122	107
産婦人科	331	373	321
心臓血管外科	62	79	49
耳鼻咽喉科	154	194	144
形成外科	439	569	434
泌尿器科	2	3	8
眼科	396	590	613
精神科	96	60	113
麻酔科	8	7	9
合計	2,611	3,182	2,888

11. 平均在院日数

(単位：日)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
内 科	15.9	16.3	12.5
リウマチ・膠原病内科	—	—	14.9
消化器内科	9.9	10.8	10.0
糖尿病・代謝内科	18.9	16.7	16.8
小 児 科	3.8	2.8	4.4
外 科	14.3	13.2	15.5
整形外科	19.6	18.7	19.4
脳神経外科	12.5	13.8	13.1
皮膚科	14.4	16.4	12.8
泌尿器科	—	—	1.7
産婦人科	7.0	6.8	6.4
眼 科	1.1	1.1	1.1
耳鼻咽喉科	4.5	4.8	5.0
麻 酔 科	1.9	3.8	2.6
精 神 科	29.9	28.7	32.1
心臓血管外科	13.8	15.0	13.9
循環器内科	14.2	14.2	13.5
形成外科	12.7	5.2	12.3
脳神経内科	14.3	15.3	16.5
放射線科	—	—	—
呼吸器外科	13.1	14.8	16.0
救 急 科	—	—	—
平 均	12.4	12.0	11.7

12. 病床稼働率(退院を含む)

(単位：%)

	稼働病床数	令和元年度	令和2年度
3 A 病棟 (HCU含む)	20	68.4%	63.3%
3 B 病棟	34	91.8%	90.2%
4 階 病棟	40	76.1%	72.7%
5 A 病棟	49	90.2%	90.0%
5 B 病棟	46	90.2%	88.2%
6 A 病棟	47	86.8%	34.6%
6 B 病棟	46	92.4%	94.7%
7 階 病棟 (精神病棟)	10	72.0%	72.7%
合 計	292	86.1%	76.8%

※新病院移転後からのデータを取載

13. 紹介率・逆紹介率(病院全体)

(単位：%)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
紹 介 率	87.5%	95.0%	98.5%
逆 紹 介 率	81.6%	100.4%	109.4%

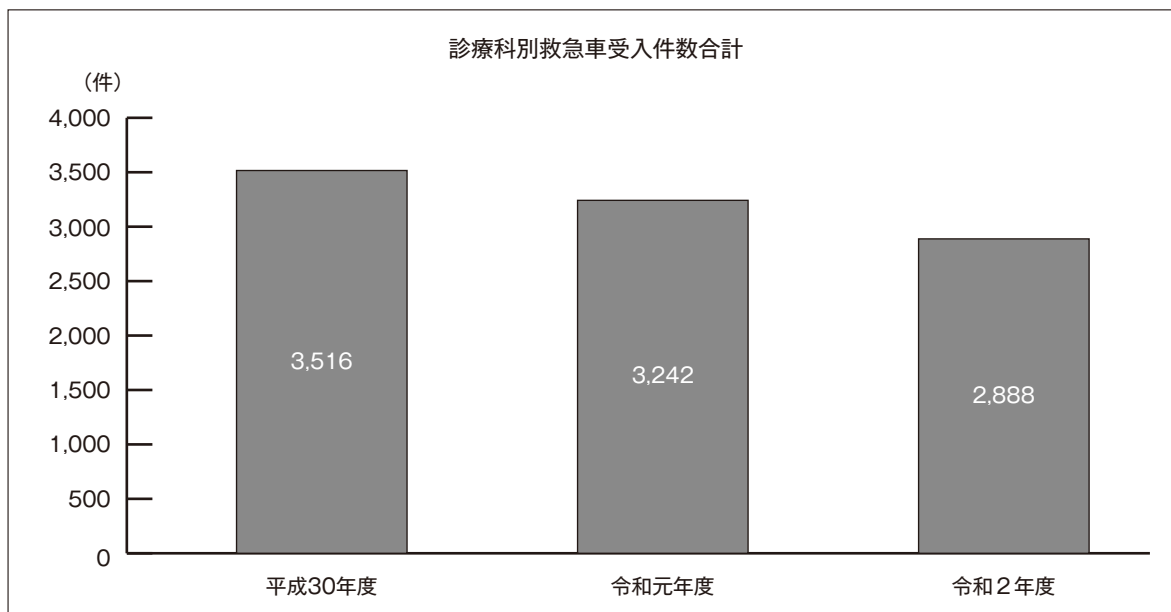
14. 分娩件数

分娩件数

(単位：件)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
自然分娩	116	157	160
帝王切開	28	31	43
合 計	144	188	203

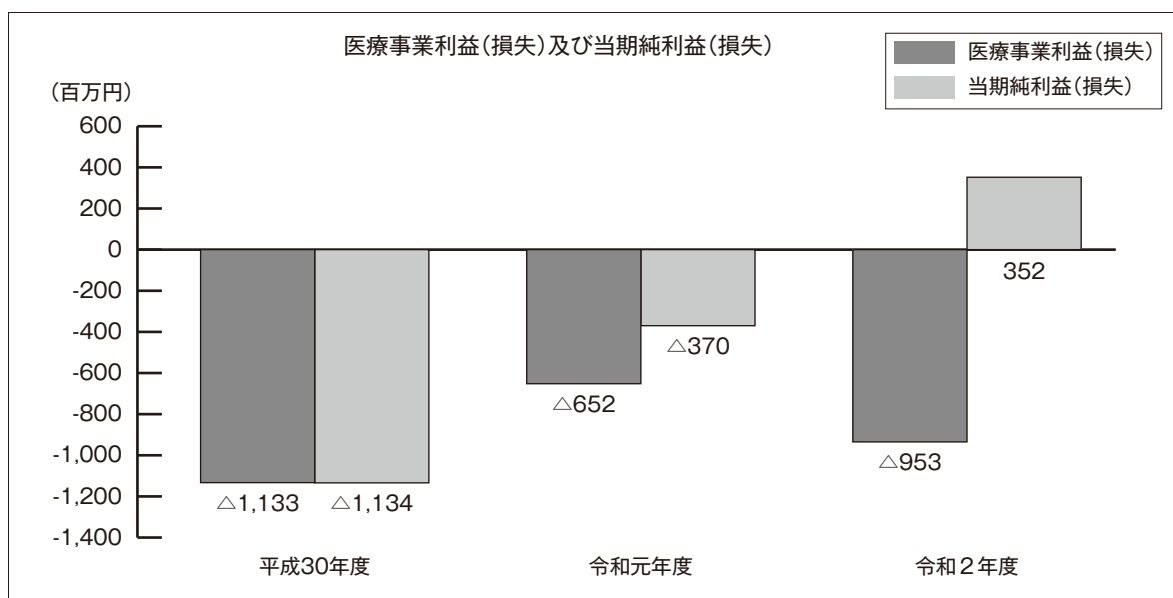
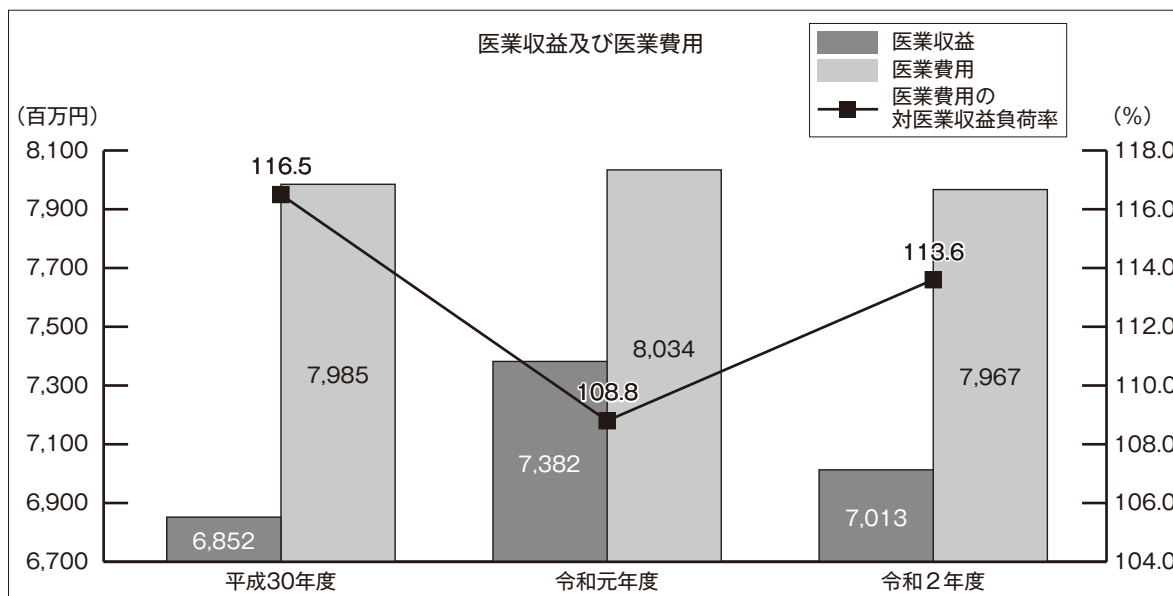
15. 診療科別救急車受入件数



(単位：件)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
内 科	637	518	212
リウマチ・膠原病内科	-	-	30
消化器内科	190	276	344
糖尿病・代謝内科	44	32	35
小 児 科	35	28	4
外 科	106	104	117
整形外科	515	546	499
脳神経外科	1,009	810	728
皮膚科	12	8	13
泌尿器科	24	17	26
産婦人科	25	17	28
眼 科	1	2	4
耳鼻咽喉科	88	73	69
麻 酔 科	11	10	5
精神科	34	35	30
心臓血管外科	67	66	45
循環器内科	403	384	409
形成外科	3	2	1
脳神経内科	242	264	224
呼吸器外科	70	50	57
救 急 科	-	-	23
合 計	3,516	3,242	2,888

16. 損益推移



(単位:円、%)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
医療収益	6,852,692,683	7,382,122,173	7,013,736,443
医療費用	7,985,861,793	8,034,187,849	7,967,241,550
医療事業利益(損失)	△ 1,133,169,110	△ 652,065,676	△ 953,505,107
医療費用の対医療収益負荷率	116.5%	108.8%	113.6%
医療外利益(損失)	128,380,818	462,648,065	1,521,453,334
医療社会利益(損失)	△ 109,864,157	△ 101,954,704	△ 90,489,983
付帯事業利益(損失)	3,582,702	2,054,957	△ 274,389
特別利益(損失)	△ 22,974,242	△ 72,539,967	△ 123,406,082
法人税等	318,473	8,943,570	877,243
当期純利益(損失)	△ 1,134,362,462	△ 370,800,895	352,900,530

17. 比較損益計算書

(単位：円)

	令和元年度	令和2年度	(元年度～2年度)	
			前年比	増減率
医療事業損益計算				
医業収益	7,382,122,173	7,013,736,443	△ 368,385,730	△ 5.0%
入院診療収益	5,363,262,460	5,092,323,108	△ 270,939,352	△ 5.1%
室料差額収益	120,884,060	102,994,320	△ 17,889,740	△ 14.8%
外来診療収益	1,726,376,731	1,655,623,526	△ 70,753,205	△ 4.1%
保険予防活動収益	128,871,534	130,694,017	1,822,483	1.4%
受託検査・施設利用収益	3,843,203	2,525,457	△ 1,317,746	△ 34.3%
その他の医業収益	53,744,677	42,904,743	△ 10,839,934	△ 20.2%
保険等差遣減	△ 14,860,492	△ 13,328,728	1,531,764	-
医業費用	8,034,187,849	7,967,241,550	△ 66,946,299	△ 0.8%
材 料 費	1,886,821,893	1,808,970,973	△ 77,850,920	△ 4.1%
給 与 費	3,762,865,374	3,890,189,077	127,323,703	3.4%
委 託 費	534,191,989	601,124,928	66,932,939	12.5%
設備関係費	1,470,400,217	1,279,902,483	△ 190,497,734	△ 13.0%
研究研修費	46,150,876	30,417,631	△ 15,733,245	△ 34.1%
経 費	333,757,500	356,636,458	22,878,958	6.9%
医療事業利益(損失)	△ 652,065,676	△ 953,505,107	△ 301,439,431	-
事業損益計算				
医業外収益	488,552,605	1,550,074,830	1,061,522,225	217.3%
医業外費用	25,904,540	28,621,496	2,716,956	10.5%
医療外利益(損失)	462,648,065	1,521,453,334	1,058,805,269	228.9%
医療社会事業収益	2,090,319	605,966	△ 1,484,353	△ 71.0%
医療奉仕費用	104,045,023	91,095,949	△ 12,949,074	△ 12.4%
医療社会事業利益(損失)	△ 101,954,704	△ 90,489,983	11,464,721	-
事業利益(損失)	△ 291,372,315	477,458,244	768,830,559	-
経常損益計算				
付帯事業収益	39,400,442	36,265,950	△ 3,134,492	△ 8.0%
付帯事業費用	37,345,485	36,540,339	△ 805,146	△ 2.2%
付帯事業利益(損失)	2,054,957	△ 274,389	△ 2,329,346	-
経常利益(損失)	△ 289,317,358	477,183,855	766,501,213	-
当期純損益計算				
特別利益	0	3,558,561	3,558,561	-
特別損失	72,539,967	126,964,643	54,424,676	75.0%
特別利益(損失)	△ 72,539,967	△ 123,406,082	△ 50,866,115	-
税引前当期純利益(損失)	△ 361,857,325	353,777,773	715,635,098	-
法人税等	8,943,570	877,243	△ 8,066,327	△ 90.2%
当期純利益(損失)	△ 370,800,895	352,900,530	723,701,425	-
前期繰越利益(損失)	△ 2,662,436,897	△ 4,599,978,978	△ 1,937,542,081	-
当期未処分利益(未処理損失)	△ 3,033,237,792	△ 4,247,078,448	△ 1,213,840,656	-

IV

活動実績

1. 内科	50	18. 耳鼻咽喉科	69
2. 消化器内科	50	19. 放射線科・放射線科部	71
3. 糖尿病・代謝内科	53	20. 麻酔科	72
4. 循環器内科	53	21. リウマチ・膠原病内科	73
5. 脳神経内科	55	22. 病理診断科	74
6. 精神科	56	23. リハビリテーション科	75
7. 小児科	57	24. 薬剤部	77
8. 外科	57	25. 医療技術部	79
9. 心臓血管外科	60	26. 看護部	81
10. 呼吸器外科	61	27. 検査部	106
11. 整形外科	62	28. 事務部	107
12. 脳神経外科	63	29. 医療安全推進室	117
13. 皮膚科	65	30. 感染管理室	118
14. 形成外科	66	31. 診療支援室	120
15. 泌尿器科	66	32. 地域医療連携室	120
16. 産婦人科	67	33. 福島赤十字訪問看護ステーション	123
17. 眼科	69		



1. 内科

【医師】 寺島久美子(健診センター長)

▪ 専門

アレルギー疾患、喘息

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

【外部医】 田中 健一

▪ 専門

腎臓病・透析

▪ 資格・所属学会等

日本腎臓学会専門医・指導医

日本透析医学会専門医・指導医

日本高血圧学会専門医・指導医

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

<内科について>

・総合内科

高齢者の増加に伴い一人でいくつもの病気を抱えている患者が増加しております。それぞれの臓器別専門分野のエキスパートと連携し、総合的に内科診療を行ってまいります。どの診療科に行ったらよいのかわからない場合や、どの診療科で受診しても診断がつかないような場合に受診してください。

・一般内科

高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病や喘息、アレルギー疾患の診療をいたします。

・呼吸器内科

気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺癌、縦隔腫瘍、胸腺疾患などの呼吸器疾患に対して診断・治療をいたします。

・腎臓内科

腎炎、ネフローゼ、糖尿病・膠原病などによる腎疾患、末期の腎不全に対して診断・治療をいたします。



2. 消化器内科

【主任部長】 黒田 聖仁

▪ 専門

肝炎、肝臓がん

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

日本肝臓学会 指導医

日本消化器病学会 指導医

日本消化器内視鏡学会 専門医

福島県立医科大学臨床教授・客員講師

【部 長】 菅野 有紀子

▪ 専門

肝科、消化器科、肝臓疾患

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医 指導医
評議員

日本消化器内視鏡学会 専門医

日本肝臓学会 専門医・指導医

日本リウマチ学会 専門医 指導医

日本門脈圧亢進症学会

【部 長】 児玉 健太 (内視鏡センター長)

▪ 専門

消化器病

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医

日本消化管学会 胃腸科専門医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

日本大腸検査学会評議員

【副 部 長】 紺野 直紀

▪ 専門

消化器内科(特に胆・膵疾患)

▪ 資格・所属学会等

日本膵臓学会 指導医、日本胆道学会

日本門脈圧亢進症学会

日本臨床腫瘍学会

日本内科学会 総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医

日本肝臓学会 専門医

【副 部 長】 浅間 宏之

▪ 専門

消化器内科一般

胆膵疾患

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器病学会 専門医

日本肝臓学会 専門医

日本消化器内視鏡学会

日本臨床腫瘍学会

日本膵臓学会

日本門脈圧亢進症学会

日本胆道学会

【外部医】 引地 拓人

▪ 専門

消化器内視鏡の診断・治療

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医、日本消化器内視鏡学会 専門医 指導医

日本消化器病学会 専門医 指導医

日本消化管学会 胃腸科認定医

胃腸科専門医 胃腸科指導医

日本カプセル内視鏡学会 専門医 指導医

日本肝臓学会 専門医

日本ヘリコバクター学会 H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医

日本門脈圧亢進症学会

技術認定医(内視鏡治療)

日本高齢消化器病学会

日本消化器がん検診学会

日本胃癌学会

日本膵臓学会

PEG・在宅医療学会

福島医学会

America Society of Gastrointestinal Endoscopy (ASGE) : 国際会員

【外部医】 中村 純

▪ 専門

消化管癌の内視鏡診断・治療

食道アカラシアの診断・治療

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器内視鏡学会 専門医・支部評議員

日本消化器病学会 専門医・支部評議員

日本消化管学会 胃腸科専門医

日本ヘリコバクター学会 H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医

日本門脈圧亢進症学会

日本胃癌学会

日本がん検診学会

<令和2年度活動実績>

当科は消化管(食道、胃、十二指腸、大腸)、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓疾患の診断、治療を行っている。コロナ下で検査件数の減少がみられたが、低侵襲で安全な内視鏡検査、治療を心掛けており、食道、胃、大腸のESD(粘膜下剥離術)治療やEMR(粘膜切除術)の施行件数も年々増加している。吐血や下血に対する止血処置や総胆管結石へのEST(内視鏡的乳頭切開術)、閉塞性黄疸への内視鏡的ドレナージ、大腸癌によるイレウスへのステント留置等を緊急で施行できる体制を整えている。肝疾患専門医療機関であり、ウイルス性肝炎や自己免疫性肝疾患の治療の他、肝細胞癌には年間約50例にラジオ波焼灼療法、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的治療薬による治療、肝動脈塞栓療法を施行。また難治性腹水には腹水濃縮再注入療法を行っている。

研修医は日本消化器病学会東北支部例会にて発表し、優秀演題賞を受賞している。

上部消化管内視鏡検査件数	2,480件
胃粘膜下層剥離術(ESD)	29件
止血術	34件 等

下部消化管内視鏡検査件数	約1,308件
大腸ポリープ切除術・EMR	415件
止血術	30件 等
胆嚢、胆管、膵臓に対する内視鏡検査(胆管結石や閉塞性黄疸の治療)	189件
超音波内視鏡	62件
腹部超音波検査	約3,500件

<令和3年度目標>

コロナ下診療であり、感染に注意し、安全に効率良く診療をすることを目標としたい。新しい治療を積極的に取り入れ、コメディカル力も借りて、クオリティの高い診療を維持していきたい。病診連携に力を入れて症例数をさらに増加させ、研修医の指導や学会活動にも力を入れて消化器内科医を育てていきたい。

3. 糖尿病・代謝内科

【部長】 佐藤 義憲

▪ 専門

糖尿病

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医・総合内科 専門医

日本糖尿病学会 専門医・指導医

日本医師会認定産業医

ICD制度協議会認定インфекションコントロールドクター

<令和2年度実績>

活動実績

外来予約診療 1,004

入院 103

学会発表 3

<令和3年度目標>

入院数を増やしていくことを目標とする。

4. 循環器内科

【副院長】 大和田尊之(副院長兼循環器センター長)

▪ 専門

循環器一般、虚血性心疾患、冠動脈疾患

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医

日本循環器学会 専門医

日本心血管インターベンション治療学会 専門医 指導医

日本高血圧学会 専門医 指導医

福島県立医科大学 臨床教授

【主任部長】 渡部 研一(兼 医療技術部長)

- 専門
循環器一般、不整脈
- 資格・所属学会等
日本内科学会 総合内科専門医
日本循環器学会 専門医
日本DMAT 隊員
日赤災害医療コーディネーター
日本不整脈学会
日本心臓病学会
日本冠疾患学会
日本心エコー図学会

【部 長】 阪本 貴之

- 専門
循環器一般、心血管インターベンション、心不全
- 資格・所属学会等
日本内科学会 総合内科専門医
日本循環器学会 専門医
日本心血管インターベンション治療学会 認定医
日本心不全学会
日本心臓リハビリテーション学会

【医 師】 坂本 和哉

- 専門
循環器内科
- 資格・所属学会等
日本内科学会、日本循環器学会

【医 師】 池田 彩乃

- 専門
循環器内科一般

【外 部 医】 中里 和彦

- 専門
循環器一般、心血管インターベンション、肺高血圧症の診断と治療
- 資格・所属学会等
日本循環器学会 専門医
日本内科学会 総合内科専門医
日本心血管インターベンション治療学会 専門医
日本心エコー図学会、日本冠疾患学会
日本肺高血肺循環学会

<令和2年度実績>

令和2年度は福島医大循環器内科医局の御高配で専攻医派遣を増員していただき、5人体制となった。念願の増員であり、御尽力頂いた院長先生他幹部の方々にこの場をお借りして御礼を申し上げます。一方、コロナ禍に見舞われた影響で、入院・治療面では全体に前年度を下回る症例数となった中、緊急検査・治療については大きな落ち込みはなく、救急医療については責務を全う出来ていたと考える。これはコロナ禍における緊急カテーテル対応についても早くからス

スタッフと議論し、各部署の協力のもと体制が整備出来たことが大きく、関係各位に感謝している。カテーテル治療においては、心臓血管外科の御協力もあり年度後半に高度石灰化病変に対するRotablator使用の施設認定を取得したため、虚血性心疾患治療の選択肢が広がりより難治症例にも対応出来るようになった。

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

外来受診患者総数 16,020名(一日平均66.2名)

救急車搬送患者総数 410名

新入院患者総数 732名

カテーテル関連

冠動脈造影 334例(うち緊急77例)

経皮的冠動脈インターベンション(PCI) 174例(うち緊急PCI 61例)

下肢末梢血管インターベンション(EVT) 8例

上腸間膜動脈IVR 1例

緊急経静脈一時ペーシング 22例

ペースメーカー移植術 60例(新規40例・交換20例)

植え込み型心電図モニター移植術 1例

CVポート埋め込み術 1例

CPAP/ASV治療・管理患者 58例

さらに、他の内科系診療科同様、コロナウイルス感染症患者の入院対応や一般内科診療・入院対応など内科医としての役割も多く果たす事が出来た。教育面では、研修医や学生見学を積極的に受け入れて指導を行っているほか、院内BLSにも協力させていただき救急対応のレベルアップを図ることが出来た。

<令和3年度目標>

令和3年度も地域の循環器医療に貢献するため、救急症例について例年通り磐石の受け入れ体制を維持し対応していくことに加え、地域の先生方との連携をさらに強化し、病診・病病連携ともに気軽に御相談いただける関係づくりを進めていく。特に心不全治療においてはこの一年で適応薬剤も増え、心臓リハビリテーションも含め治療選択の幅が広がってきており、最新の治療を地域の先生方と共有できるよう、県北の循環器診療医療の中心として発信にも努めていきたい。また、質の高い医療の継続を目指し自己研鑽を重ねていくことで、安心・安全な高度医療を提供していく所存である。

5. 脳神経内科

【主任部長】 中村耕一郎

■ 専門

神経内科一般

■ 資格・所属学会等

日本神経学会 専門医・指導医

日本臨床神経生理学会

日本内科学会 総合内科専門医

日本脳卒中学会

福島県立医科大学 臨床教授

【部 長】 守谷 新

▪ 専門

神経内科一般

▪ 資格・所属学会等

日本神経学会 専門医・指導医

日本内科学会 認定内科医・総合内科 専門医

日本プライマリ・ケア連合学会

認定医・指導医

日本医師会認定産業医

<令和2年度実績>

令和2年度の入院件数は254件であった。

<令和3年度目標>

当科入院症例は救急及び紹介症例が多数を占めるため、引き続き病診連携に努め神経救急患者の受け入れに努めていく。

6. 精神科

【部 長】 藤森 春生

▪ 専門

精神医学一般

▪ 資格・所属学会等

精神保健指定医

日本精神神経学会 精神科専門医・指導医

日本総合病院精神医学会一般病院連携

精神医学 専門医・指導医

日本医師会認定産業医

日本サイコオンコロジー学会

日本臨床神経生理学会

福島県立医科大学 臨床教授

【医 師】 山本慎之助

▪ 専門

精神科

▪ 資格・所属学会等

日本臨床精神神経薬理学会

日本精神神経学会

精神保健指定医

<令和2年度実績>

令和2年度の実績としては、外来患者延数8,673人(1日平均35.8人)、初診患者延数132人、入院患者延数1,979人(1日平均5.4人)、平均在院日数32.1日、紹介率100.0%、逆紹介率145.7%、mECT件数113件となっている。

<令和3年度目標>

当科は、有床総合病院精神科であり、精神保健福祉法に基づく精神科病床を有する。地域医療

における有床総合病院精神科の役割を果たしていくことが大切である。救急医療における精神疾患への対応、身体合併症を有する認知症疾患及び精神疾患への対応、院内身体科とのコンサルテーション・リエゾン精神医療、修正電気けいれん療法等は重要であると考えられる。また、認知症疾患医療センターであり、地域の認知症医療の拠点としての役割も重要である。医療連携及び地域連携を大切に、円滑な診療体制を作っていく必要がある。

7. 小児科

【主任部長】 清水 裕美

▪ 専門

小児科一般

▪ 資格・所属学会等

日本小児科学会 専門医 指導医

日本周産期・新生児医学会

日本新生児成育医学会

日本産婦人科・新生児血液学会

【部長】 今野 友貴

▪ 専門

小児科一般

▪ 資格・所属学会等

日本小児循環器学会、日本小児救急医学会

日本アレルギー学会

日本小児科学会 専門医 子どもの心相談医

日本プライマリ・ケア連合学会 認定医 指導医

<令和2年度実績>

外来は、感染症が多くを占めるが、他の医療機関と連携を図りながら、小児の各領域の疾患に関して診療を行っている。一般外来のほか、腎臓、神経、心臓疾患の特殊外来や乳幼児健診・予防接種などを行っている。

入院は新生児のみに限定し、新生児一過性多呼吸、新生児感染症、低血糖症や高ビリルビン血症など管理を行った。

<令和3年度目標>

常勤二人体制となり、入院管理を再開することで、救急医療、二次医療の充実を図る。

また、予防接種や乳幼児健診及び学校健診要精検者の二次健診の拡充にも努める。

引き続き、産婦人科医と連携し、新生児の管理に当たっていく。

8. 外科

【主任部長】 遠藤 豪一

▪ 専門

消化器外科、一般外科

- 資格・所属学会等
 - 日本外科学会 専門医 指導医
 - 日本消化器外科学会 専門医 指導医
 - 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療 認定医
 - 日本がん治療認定医機構認定医
 - マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ読影認定医
 - 福島県立医科大学 臨床教授
 - 日本DMAT 隊員

【部 長】 大須賀文彦〔腹腔鏡外科〕

- 専門
 - 消化器外科、腹腔鏡外科
- 資格・所属学会等
 - 日本外科学会 専門医 指導医
 - 日本消化器外科学会 専門医
 - 日本がん治療認定医機構認定医
 - 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療 認定医
 - 日本癌治療学会、日本臨床外科学会
 - 日本内視鏡外科学会
 - 日本大腸肛門病学会
 - 日本静脈経腸栄養学会

【副 部 長】 青砥 慶太

- 専門
 - 外科一般
- 資格・所属学会等
 - 日本外科学会 専門医
 - 日本乳癌外科学会 認定医
 - 日本消化器外科学会 専門医
 - 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療 認定医
 - 日本がん治療認定医機構認定医
 - 日本癌治療学会

【医 師】 今野 修

- 専門
 - 消化器外科
- 資格・所属学会等
 - 日本外科学会 認定医・専門医・指導医
 - 日本消化器外科学会 専門医 指導医
 - 消化器がん外科治療認定医
 - 乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグラフィ読影認定医
 - 日本スポーツ協会公認スポーツドクター
 - 認知症サポート医
 - 日本人間ドック学会健診情報管理指導士
 - 福島県災害医療コーディネーター
 - 福島県肝炎医療コーディネーター

<令和2年度実績>

手術症例(一般外科手術症例)

- 1) 乳腺
乳腺悪性腫瘍手術 13例 (乳房温存手術8例)
- 2) 胃
胃悪性腫瘍手術 16例 (胃全摘術5例)
潰瘍穿孔手術 6例
- 3) 小腸
部分切除術 10例 (腹腔鏡下手術2例)
- 4) 大腸(結腸)
結腸悪性腫瘍手術 55例 (腹腔鏡下手術31例)
その他 12例 (腹腔鏡下手術4例)
- 5) 直腸
直腸悪性腫瘍手術 25例 (直腸切断術7例)(腹腔鏡下手術16例)
その他 2例
- 6) 虫垂炎
虫垂切除術 29例 (腹腔鏡下手術26例)
- 7) 消化管(その他)
腹膜炎(胃潰瘍を除く)手術 4例
腸閉塞症手術 15例
- 8) 肝臓
肝嚢胞開窓術(腹腔鏡下) 1例
- 9) 胆嚢
胆嚢結石症 53例 (腹腔鏡下手術52例)
胆嚢炎 11例 (腹腔鏡下手術6例)
胆嚢腫瘍 5例 (腹腔鏡下手術3例)
- 10) ヘルニア
単径ヘルニア 55例
大腿ヘルニア 6例
腹壁癒痕ヘルニア 5例
閉鎖孔ヘルニア 1例
- 11) その他
CVポート造設術 41例
皮下腫瘍 3例

<令和3年度目標>

基本的治療方針として、個々の患者様の状態、患者様の生活環境等にも配慮した適切な治療(手術)を行う事を目標としています。

現在は患者様の体への負担の少ない腹腔鏡下手術を積極的に施行しています。年々腹腔鏡手術の適応は拡大し、大腸癌においては進行大腸癌も含め6割近くの患者様において腹腔鏡手術を施行しています。その他の疾患では胆石症、虫垂炎ともに約9割の患者様において腹腔鏡下手術を施行しております。

今後も患者様の体への負担が少ない腹腔鏡下手術等の手術適応をさらに拡大し、より多くの患者様に体への負担の少ない治療(手術)を行えるように進めていきます。



9. 心臓血管外科

【部長】 籠島 彰人

▪ 専門

成人心臓、血管

▪ 資格・所属学会等

日本心臓血管外科学会 専門医

日本外科学会 専門医

日本脈管学会 専門医

腹部ステントグラフト実施医・指導医

浅大腿動脈ステントグラフト実施医

日本血管外科学会、日本胸部外科学会

日本循環器学会

日本心臓血管外科学会

日本冠動脈外科学会

日本下肢救済学会

<令和2年度実績> 2020年1月～2020年12月

開心術 10例（手術死亡 0、在院死亡 0）

心拍動下冠動脈バイパス術 4例

大動脈弁置換術 1例

大動脈弁置換術+MAZE手術 1例

僧帽弁形成術 3例

僧帽弁形成術+三尖弁輪縫縮術 1例

末梢動脈疾患 70例（手術死亡 0、在院死亡 0）

腹部大動脈瘤(人工血管置換) 4例

腹部大動脈瘤(ステントグラフト) 12例

破裂性腹部大動脈瘤 1例

内腸骨動脈瘤 4例

大動脈-大腿動脈バイパス術 3例

外腸骨-膝上膝窩動脈バイパス術 2例

大腿-大腿動脈バイパス術 5例

大腿-膝上膝窩動脈バイパス術 7例

distal bypass(大腿-後脛骨動脈バイパス術) 2例

血管内治療 15例

血管内治療+内膜摘除術 1例

内膜摘除・パッチ拡大 1例

上腸間膜動脈決戦除去術 1例

上肢・下肢血栓除去術 10例

仮性動脈瘤・末梢動脈瘤手術 2例

静脈疾患・その他

下肢静脈瘤(ストリッピング) 3例

ペースメーカー関連 10例

debridement 1例

<令和3年度目標>

心臓血管外科常勤施設は限られており、大学病院以外で心臓から末梢血管まで対応できる施設は県北相双医療圏では当院が唯一となる。

症例数が限られる中、全国施設同等以上の治療成績を目標とすること、絶対に合併症を起こさないこと、そしてひとりだからこそ時間内に効率よく結果を出すことを常に意識しており、併せてスタッフの教育にも注力している。現実的に施設の認定や資格の維持に苦勞するところであるが、より多くの認定、資格を取得、維持できるように努める。

外来業務においては、患者に対する十分な説明ほか、紹介元への詳細な診療情報提供、経過や結果の報告を行い、患者及び紹介元の高い満足度が得られるよう心掛けている。

一方で、論文などの執筆、学会発表数は満足のものではなく、症例数増加とともに情報を発信できるようさらに意識していく。そして休みがとれないので、心身健全にいられるようご自愛することも検討していく。このためには心臓血管外科医を増やす必要があり、時代に沿った教育指導を行っていく。

10. 呼吸器外科

【部長】 管野 隆三

■ 専門

呼吸器外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医・指導医

日本胸部外科学会 専門医 指導医

日本呼吸器外科学会 専門医 指導医

日本消化器外科学会 認定医

呼吸器外科専門医合同委員会認定呼吸器外科 専門医・評議員

日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡 専門医・指導医

日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医

福島県立医科大学臨床教授・客員講師

ICD(感染制御ドクター)

【副部長】 井上 卓哉

■ 専門

呼吸器外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医

日本呼吸器外科学会 専門医

日本がん治療学会 認定医

日本胸部外科学会、日本肺癌学会

日本呼吸器内視鏡学会

日本臨床外科学会

日本バイオセラピー学会、IASLC

臨床研修指導医講習会受講

日本がん治療認定医機構認定医

<令和2年度実績>

呼吸器外科手術総数106件(胸腔鏡下手術80件、局所麻酔手術、気管切開は除く)

内訳：肺良性腫瘍手術6件、原発性肺悪性腫瘍手術47件、転移性肺腫瘍手術5件、縦隔腫瘍手術1件、膿胸に対する手術4件、特発性自然気胸手術20件、続発性気胸手術17件、胸膜生検、縦隔リンパ節生検1件、胸壁腫瘍1件、炎症性肺疾患5件

<令和3年度目標>

呼吸器外科手術総数150件を目標とする。特に原発性肺悪性腫瘍手術件数を増やすこと。引き続き、その他の良性呼吸器外科疾患、手術不能の肺癌に対する緩和療法を含めた治療症例の増加に努めること。



11. 整形外科

【部長】 村上 和也(兼 リハビリテーション科部長)

■ 専門

足の外科、膝関節外科

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会認定 専門医

日本整形外科学会スポーツ 認定医

日本整形外科学会運動器リハビリテーション 認定医

日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会評議員

東北膝関節研究会幹事

【副部長】 佐藤 法義

■ 専門

整形外科一般

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会 専門医

日本股関節学会

日本人工関節学会 認定医

骨折治療学会

【医師】 菅原 崇寛

■ 専門

整形外科一般

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会

東北整形外科災害外科

<令和2年度実績>

令和2年度の整形外科の年間新患患者数は1,900名、1年間の最大整形外科入院患者数は58名であった。年間手術件数は570件とほぼ例年通りであった。2月からの新型コロナの流行の影響で、予定手術、待機可能手術をしばらく制限した状態での手術環境であったが、当科はもともと外傷手術が多く、待機できないため例年通りの手術件数となったものと考え。予定手術が制限された時期があったにも関わらず、人工関節手術は107件(人工股関節置換術77件、人工膝関節置換術30件)と例年とそう変わらない件数であった。これは連携している開業医の先生方からの紹

介と今までの実績の評価によるものと考えている。以上、常勤医3名での実績としては結構なものがあったと考えている。

<令和3年度目標>

令和3年度は常勤の村上、佐藤法義医師は変わらず、菅原崇寛医師の移動に伴い、大竹飯豊医師と横田武尊医師の二人が着任する。二人とも若く積極性のある医師であり、コロナ禍の収束がみられない状況ではあるが、骨折を中心とした外傷治療に頑張っていただけのもので期待している。また実績のある人工関節手術に関しても可能な限り症例を増やしていきたいと考えている。昨年度より毎週金曜日に診療応援で、脊椎外科の加藤欽志医師、小林洋医師に来ていただいているので、適応のある患者さんには脊椎手術も積極的に行っていきたいと考えている。

12. 脳神経外科

【院長】 渡部 洋一

■ 専門

脳卒中全般、特に脳梗塞に対する薬物療法

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医 指導医 評議員
日本脳卒中の外科学会 技術指導医
日本救急医学会 専門医
社会医学系専門医、指導医
福島県立医科大学 臨床教授
統括日本DMAT 隊員
福島県災害医療コーディネーター
日赤災害医療コーディネーター
日本原子力災害医療コーディネーター

【副院長】 鈴木 恭一(兼 医療安全推進室長)

■ 専門

脳卒中の診断と治療

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医 指導医 評議員
日本脳卒中の外科学会 代議員
日本脳卒中の外科学会 技術指導医
日本脳神経外科光線力学学会幹事
日本リハビリテーション医学会 認定臨床医
福島県立医科大学 臨床教授

■ トピックス

第15回 鈴木二郎賞(日本脳卒中の外科学会)受賞
第24回 中村隆賞金賞(東北脳血管障害懇話会)受賞

【部長】 市川 剛(兼 救急センター長 兼 脳卒中センター長)

■ 専門

脳神経外科一般、血管内治療

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医 指導医
日本脳神経血管内治療学会 専門医 指導医
日本脳卒中の外科学会技術指導医
日本神経内視鏡学会 技術認定医
日本脳神経外傷学会
日本DMAT 隊員
日本脳神経外科コンgres
日本災害医療コーディネーター
福島県立医科大学 臨床教授

【医師】 山ノ井 優

■ 専門

脳神経外科

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会
日本脳卒中学会
日本脳腫瘍学会
日本脳血管内治療学会

【医師】 鎌村 美歩

■ 専門

脳神経外科

<令和2年度実績>

I. 診察

昨年度の入院患者総数は588名であり、その内訳は、脳血管障害が299例(脳梗塞：162例、脳出血：85例、くも膜下出血：25例、未破裂脳動脈瘤：20例、脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻：1例、もやもや病：6例)、脳腫瘍が22例、頭部外傷が79例、てんかんが17例、水頭症・奇形が8例、機能的疾患が2名、感染症が51例、その他が110例であった。

手術件数は156例で、そのうち開頭手術は46例で、脳動脈瘤クリッピング術：11例、脳内血腫除去術：7例、脳腫瘍摘出術：20例、脳動脈吻合術：5例、急性硬膜下血腫除去術：1例、神経血管減圧術：1例、その他：1例であった。血管内手術は49例であり、脳動脈瘤コイル塞栓術：19例、頸部頸動脈ステント留置術：14例、機械的血栓回収術：11例、塞栓術：3例、その他：2例であった。それ以外の手術は61例で、慢性硬膜下血腫：37例、水頭症手術：14例、神経内視鏡手術：2例であった。

II. 教育

リハビリテーションカンファランス：脳卒中急性期リハビリテーションによる更なる機能改善を目指して、医師・リハビリテーションスタッフ・看護師・栄養士による入院患者さんの検討会を2回/月で開催した。

脳神経内科・脳神経外科合同カンファランス：脳疾患治療の進歩に迅速に対応するための勉強会を第2、4月曜に開催した。研修医や看護師も参加し、当院における脳疾患治療の底上げを目指している。

回復期リハビリテーション施設との症例検討会：不定期ではあるが開催して、顔の見える関係を構築し、県北地域の脳卒中治療成績の向上を目指している。

若手医師・スタッフを対象とした教育セミナー：例年、脳神経外科治療のスキルを向上させるため、血管内治療(カテーテル)のハンズオンや、顕微鏡手術下での縫合練習等を開催していたが、新型コロナウイルス蔓延のため、昨年度は開催できなかった。

Ⅲ. 社会貢献

当院は、日本脳卒中協会福島支部の事務局であり、渡部洋一院長が支部長を務めている。例年、福島県脳卒中市民公開講座を開催しているが、コロナ禍のために開催は中止となった。また、福島県循環器病対策推進協議会の委員として、福島県循環器病推進計画の策定にかかわっている。

Ⅳ. 研究

主に脳卒中に関する臨床研究を継続して行い、その成果を国内外の学会で発表した。福島医大脳神経外科を中心に行っている臨床研究にも参加・協力している。

<令和3年度目標>

I. 診察

令和2年度も福島医大脳神経外科から専攻医を派遣していただいた(令和元年10月から令和2年9月まで小祝萌医師が、10月から山ノ井優医師が勤務)。今年度も継続して鎌村美歩医師を派遣していただいております、診療のレベルアップを目指したい。

当院の使命として、県北医療圏における重症疾患や緊急手術への対応が挙げられる。新病院移転時(令和元年)に最新式の脳血管装置を導入し、昨年は手術用顕微鏡を最新式に更新した。併せて手術用ナビゲーションシステムを導入した。ナビゲーションシステムは、病変や重要な神経路の位置を確認しながら顕微鏡手術を進めることを可能とするもので、県北医療圏では福島医大病院と当院のみに設置されている。加えてこれまで積極的に取り入れてきた血管内治療や神経内視鏡手術を組み合わせることにより、従来は対応が困難であった手術をより安全で確実に行うことが可能となった。今後も引き続き良好な医療を続けたい。

平成29年に開設した「脳神経・脳卒中センター」も機能している。脳卒中はもちろんのこと脳神経疾患全般を脳神経外科医、脳神経内科医が協力して行うことで、神経疾患に対する診療レベル向上が得られた。特に当院は、脳卒中に対する県北地域の基幹病院であることから、多職種スタッフと協力しながら、脳卒中センターの実績を積み重ねていきたい。

脳神経外科疾患においては、急性期治療のみ上手くいけば良いというものではない。急性期から慢性期まで切れ目のない治療の継続が求められる。地域の医療機関や回復期リハビリテーション病院との連携をより一層強化し、患者さんの満足度が高まることを目指したい。

Ⅱ. 教育

当院は、日本脳神経外科学会専門医研修連携施設の他、日本脳卒中学会研修教育施設、日本脳神経血管内治療学会研修施設に認定されている。特に日本脳神経血管内治療学会研修施設は福島県内に3カ所のみであり、血管内治療医を目指す若手の教育を継続していきたい。脳卒中の外科認定技術指導医、神経内視鏡学会技術認定医も在籍しており、脳神経外科全般にわたる指導も継続していく。臨床研修指定病院としての役割も担う当院は、初期研修医の教育にも重点を置いていく。脳神経外科治療を院内の多職種で共有出来るような教育の場を増やし、スタッフの学会発表・論文作成を支援することにより、病院全体のレベルアップに努めていきたい。

Ⅲ. 社会貢献

日本脳卒中協会福島支部の事務局として、脳卒中の予防、早期治療の重要性などに関する啓発活動を中心として社会貢献に努めていきたい。福島県循環器病推進計画の策定と検証を行っていく。その中にも記載されているが、救急隊と連携し、県北地域の脳卒中治療の成績向上を目指す。



13. 皮膚科

【部 長】 元木 良和

▪ 専門

皮膚科一般

- 資格・所属学会等
日本皮膚科学会 専門医
福島県立医科大学 臨床教授

<令和2年度実績>

統計のページを参照。

<令和3年度目標>

現状を維持しながら診療を行っていく。

14. 形成外科

【部長】 浅井 笑子

- 専門
形成外科一般、唇顎口蓋裂等先天異常マイクロサージャリーを含む再建外科
- 資格・所属学会等
日本形成外科学会専門医・領域指導医
皮膚腫瘍外科分野指導医
小児形成外科分野指導医
日本創傷外科学会 専門医 分野指導医
日本顔面神経学会

<令和2年度実績>

令和2年4月1日～令和3年3月31までの手術件数450件(うち全身麻酔18件)

<令和3年度目標>

患者さんが快適で安心して受けられる医療を、単独で可能な範囲内で提供していく。

15. 泌尿器科

【医師】 本田瑠璃子

- 専門
泌尿器科一般
- 資格・所属学会等
日本泌尿器科学会、日本小児泌尿器科学会
日本泌尿器内視鏡学会、日本排尿機能学会
日本泌尿器腫瘍学会

【医師】 星 誠二

- 専門
前立腺癌薬物治療、泌尿器科画像診断、泌尿器科一般
- 資格・所属学会等
日本泌尿器科学会 専門医

日本泌尿器科学会、日本排尿機能学会
日本泌尿器腫瘍学会、日本小児泌尿器科学会
日本癌治療学会、日本内分泌外科学会
日本泌尿器内視鏡外科学会

【外部医】 丹治 進

▪ 専門

泌尿器科一般

▪ 資格・所属学会等

日本泌尿器科学会 専門医 指導医

日本性機能学会 専門医、岩手医科大学泌尿器科客員教授

<令和2年度実績>

経直腸式前立腺生検術：24件

<令和3年度目標>

本年度から常勤医2名、非常勤医1名(水曜日)とし、外来診療の充実を図ります。

昨年度から実施している経会陰式前立腺生検術に加え、今年度から週1日の手術室枠を頂き、経尿道的膀胱腫瘍切除術を開始します。

今後は、周辺の医療機関からの紹介患者数増加が見込まれます。円滑な外来診療と、手術件数の増加を目標とします。

16. 産婦人科

【部長】 矢澤 浩之

▪ 専門

内視鏡手術

(腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術)

婦人科腫瘍学、不妊症

▪ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会 専門医

日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医

日本生殖医学会 生殖医療専門医

福島県立医科大学 臨床教授

【副部長】 大原 美希

▪ 専門

産婦人科

▪ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会 専門医

日本産科婦人科内視鏡学会

日本生殖医学会、日本人類遺伝学会

日本遺伝カウンセリング学会

【医師】 福田 薫

▪ 専門

産婦人科

- 資格・所属学会等
日本産科婦人科学会 専門医
日本産科婦人科内視鏡学会
日本女性医学学会

【医師】 岡部 慈子

- 専門
産婦人科
- 資格・所属学会等
日本産科婦人科学会
日本婦人科腫瘍学会
日本産科婦人科内視鏡学会

<令和2年度活動実績>

子宮筋腫や卵巣腫瘍など婦人科良性疾患に対しては患者様の負担軽減のため可能な限り低侵襲性手術(内視鏡下手術)を選択してきた。学会や研修会に積極的に参加し内視鏡下手術のスキルアップに努めその適応拡大を行ってきた。

悪性疾患では、診断、治療(手術、化学療法)、術後のフォローアップから終末期管理や在宅医療への移行まで一貫した管理を行ってきた。

産科診療では、外来妊婦健診において助産師外来の割合を増やすことにより、妊婦さんの診療待ち時間の短縮、充実した妊婦生活指導などに努めてきた。また、最近妊婦さんの高齢化が進んでおり、内科疾患、精神科疾患を有する妊婦が増加する傾向にあるが、これらの患者さんに対しては積極的に内科医、精神科医へ相談を行い共同管理を行ってきた。

不妊症治療では、妊娠に関する気軽な相談、タイミング法、腹腔鏡下による検査、治療から顕微授精を含むART(Assisted Reproductive Technology)治療までを一貫して行ってきたが、新病院での診療体制に合わせて平成30年度よりART治療は中止とした。

その他、骨盤性器脱の管理や性感染症の診断治療など全ての産婦人科疾患に対応できる体制で診療を行ってきた。

<令和2年活動実績>

総手術件数：377件(前年より56件増)

悪性腫瘍・境界悪性腫瘍に対する根治手術：36件

腹腔鏡下手術：192件

(卵巣腫瘍：105件、子宮全摘：63件、筋腫核出：14件、異所性妊娠：8件、など)

子宮鏡下手術：18件

開腹子宮全摘術：45件

開腹子宮筋腫核出術：10件

開腹卵巣腫瘍手術：0件

円錐切除術：37件

子宮脱手術：5件

帝王切開：33件 など

分娩件数：158件 [うち帝王切開：33件(21%)]

<令和3年度の目標>

- * 学会や研修会に積極的に参加し、最新の診断、治療法の習得や手技の向上に努める。
- * 婦人科良性腫瘍の手術件数の増加、特に内視鏡下手術の適応拡大に努める。
- * 婦人科悪性腫瘍患者管理をさらに充実させる。
- * 妊婦管理(健診)の充実、分娩件数の増加に努める。
- * 初期研修医、後期研修医がさらに充実した研修を行えるように努める。



17. 眼科

【部長】 山田 文子

▪ 専門

白内障手術

▪ 資格・所属学会等

日本眼科学会 専門医、
日本眼科手術学会
日本眼循環学会
日本コンタクトレンズ学会
福島県立医科大学 臨床教授
福島県立医科大学研修指導医

【視能訓練士】 秋山 妙子、湯野川樹理、渡邊 恵、大藤 美弥

<令和2年度実績>

統計ページを参照。

<令和3年度目標>

外来診療では、診断に不可欠な光干渉断層計(OCT)やエコーを駆使し、より正確な診療、迅速な加療に努めたい。

病棟、手術室始め院内全体との関わりも強くなり、当科的入院システムもスムーズに運用されるようになってきている。更に眼科疾患、患者様の介助などへのスタッフの理解を深めるよう勉強会を開催したり、密にコミュニケーションを図っていき、急患、入院も積極的に受け入れたい。白内障手術を中心に安全、確実を心がけ、地域に貢献できるよう件数も更に増やしたい。



18. 耳鼻咽喉科

【部長】 多田 靖宏(兼 嚙下・ボイスセンターセンター長
兼 鼻・副鼻腔センター長 兼 医療情報部門責任者)

▪ 専門

耳鼻咽喉科一般、音声外科領域(声帯ポリープ・声帯麻痺)
鼻副鼻腔領域(慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症)
気管食道科領域(気管狭窄症)、医療情報学領域

▪ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医 指導医 補聴器相談医
日本気管食道科学会 認定専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医
日本喉頭科学会、音声言語医学会、日本鼻科学会
日本嚙下医学会 相談医、日本耳鼻咽喉科臨床学会
日本頭頸部外科学会、日本再生医療学会 認定医
喉頭形成手術実施医、福島県立医科大学非常勤講師
福島県立医科大学 臨床教授

**【副部長】 三浦 智広(兼 嚙下・ボイスセンター副センター長
兼 鼻・副鼻腔センター副センター長)**

▪ 専門

耳鼻咽喉科疾患一般
耳鼻咽喉科救急疾患
鼻副鼻腔領域、血管性浮腫

▪ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医 指導医
補聴器相談医
日本鼻科学会、日本頭頸部癌学会
日本頭頸部外科学会医
日本嚙下医学会 相談医

【医師】 大河内幸男(非常勤委託医師)

▪ 専門

耳鼻咽喉科一般

▪ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医
日本気管食道科学会 専門医
日本耳科学会、日本鼻科学会
耳鼻咽喉科臨床学会

【外部医】 松井 隆道

▪ 専門

耳鼻咽喉科一般
耳科領域

▪ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医
日本耳科会
補聴器適合判定医師

【外部医】 谷 亜希子

▪ 専門

耳鼻咽喉科一般、音声嚙下領域
鼻副鼻腔領域、気管食道領域

▪ 資格・所属学会等

耳鼻咽喉科専門医、気管食道科専門医
耳鼻咽喉科専門研修指導医
日本医師会認定産業医

<令和2年度実績>

令和2年度の入院患者数は267名で、その内訳は手術目的の予定入院192名、救急入院は75名であった。手術症例は全身麻酔134名、局所麻酔84名であった。

<令和3年度目標>

1. 国内及び国際学会で積極的に発表を行う。
2. 手術研修や講習会に積極的に参加する。
3. 各専門外来を充実させ、より専門的な治療を提供する。
4. 耳鼻咽喉科に関わるコ・メディカルと連携し、チーム医療を充実させる。



19. 放射線科・放射線科部

【部長】 菊田 学

- 専門
画像診断(特にCT・MRI)
- 資格・所属学会等
日本医学放射線学会専門医

【技師長】 佐藤 勝行

【課長】 相澤 浩樹(第1放射線技術課長 兼 一般撮影係長)
阿部 直人(第2放射線技術課長)

【係長】 菅野 徹(特殊撮影係長)
海藤 隆紀(第2放射線技術課画像情報係長)

【診療放射線技師】 五十公野純子、羽貝 寿子、伊藤 美穂、三次 鏡太、
明田 充弘、佐藤 竜馬、高橋 嗣郎、玉根 勇樹、宍戸 聡美

【放射線科助手】 八巻 弘美

<令和2年度実績>

1. 検査件数

	平成31年度	令和2年度
CT検査	12,984	12,743
MRI検査	6,035	5,490
血管撮影	716	592
一般撮影	29,392	27,342
乳房撮影	1,828	1,582
透視撮影	1,131	1,247
骨密度測定	487	493
ポータブル	4,874	4,635
術中透視	357	364
PACS取込・複写	5,689	5,452

2. 患者さんに寄り添った接遇と検査に努める
3. 事故のない安全な検査を実施する
4. 検査ニーズに応じた業務内容の拡大を図る
5. 学会・研究会・技師会活動等へ積極的に参加し発表を増やす
6. 医療被ばく管理におけるシステムの構築を行う
7. 経営改善へ向けた意識を持つ

<令和3年度目標>

1. 接遇No.1の放射線科部を目指す
2. 撮影ミスや事故のない安全な検査に努める
3. 感染防止対策を徹底する
4. 勉強会・研究会等へ積極的に参加する
5. 医療被ばく線量管理と装置の安全管理に努める
6. 計画的に新入職員の教育を行う

<Web研修会参加>

1. 第20回 県北MDCTカンファレンス ～CT装置の物理特性SNRについて～
令和2年9月26日(土) 佐藤 勝行、相澤 浩樹、海藤 隆紀、玉根 勇樹、宍戸 聡美
2. 第5回 山形ERイメージング ～放射線検査におけるCOVID-19対応～
令和2年10月17日(土) 佐藤 勝行、相澤 浩樹、玉根 勇樹、
3. 第7回 血管撮影ステップアップセミナー (関東Angio研究会) ～脳血管内治療～
令和3年1月9日(土) 玉根 勇樹
4. 第6回 福島血管撮影技術セミナー
令和3年2月27日(土) 相澤 浩樹、玉根 勇樹
5. 第11回 九州Ai(死亡時画像診断)研究会
令和3年3月12日(金) 玉根 勇樹

20. 麻酔科

【部 長】 出羽 明子

- 専門
緩和ケア、帯状疱疹後神経痛
- 資格・所属学会等
日本麻酔科学会 専門医
日本緩和医療学会
日本ペインクリニック学会
福島県立医科大学 臨床教授

【副 部 長】 江花 英朗

- 専門
手術麻酔
- 資格・所属学会等
日本麻酔科学会 専門医
周術期経食道心エコー(JB-POT) 認定医
日本臨床麻酔学会
日本集中治療医学会
日本心臓血管麻酔学会

【医 師】 安達 守

- 専門
星状神経節ブロック
- 資格・所属学会等
日本麻酔科学会 専門医

<令和2年度実績>

麻酔件数	1,583件
ペインクリニック	78件
緩和ケア	33件
薬物中毒	5件
初期研修医	12名

21. リウマチ・膠原病内科

【医師】 宮田 昌之(リウマチ・膠原病センター長)

▪ 専門

リウマチ、膠原病、アレルギー疾患

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

アメリカ内科学会 専門医

日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医

日本リウマチ学会 専門医 指導医

日本アレルギー学会 専門医 指導医

日本消化器病学会 専門医

日本肝臓学会 専門医

福島県立医科大学 臨床教授

診療情報管理士

【医師】 天目 順平

▪ 専門

リウマチ膠原病

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本リウマチ学会 専門医

日本自己炎症学会

当科ではリウマチ・膠原病を中心に不明熱なども含めて複雑な病態の患者さんを診療しております。

リウマチ・膠原病は一般に認知度が低いと思われませんが慢性的な痛み苦しんでいる患者さんは非常に多くおられます。整形外科が担当する患者さんも多くおられますがリウマチ・膠原病の患者さんが非常に多く潜んでおります。この領域は免疫学と非常に関連が深く最近の免疫学の進歩とともに診療内容も進歩してきました。

その一例は分子生物学的手法を用いて開発された自己抗体の測定です。膠原病の多くはそれぞれの疾患の特徴となる自己抗体を持っております。この自己抗体の発見、臨床の現場での応用はとてリウマチ・膠原病疾患の診断に有用です。疾患によって異なりますが自己抗体を測定することで診断から、治療法、その患者さんの予後まで予測可能な場合もあります。

また、最近の画像診断の発展により診断が困難であった疾患も比較的容易に診断できるようになりました。例えば関節リウマチにおける関節エコー検査の有用性とか仙腸関節炎におけるMRIの応用、高安病におけるPETの応用などです。高安病は造影CTなどでも診断が可能ですがPETは全身を一度に検査することができその有用性が認められ保険収載されております。

免疫学の進歩によって病態が次第に解明され20年ほど前までほとんど有効な治療がなかった関節リウマチにおいては抗サイトカイン療法やJAK阻害薬(Janus kinase inhibitor)などを用いて炎症を根本的に抑え込むこともできるようになりました。

当科ではこれらの診療、治療の進歩をいち早く取り入れてリウマチ・膠原病の患者さんの診療にあたっております。リウマチ学会、アレルギー学会、臨床リウマチ学会、内科地方会、リウマチ地方会などのほか関連の研究会でも発表をおこない、まとまった報告については論文化するよ

うに心がけております。

リウマチ・膠原病内科では患者さんの全身を診療いたします。プライマリケア習得が目標の臨床研修にも力を入れており、研修で得たことについては発表の機会を設けて症例を掘り下げ考えるような習慣を身に付けていただくことに心掛けております。

22. 病理診断科

【部長】 田崎 和洋(検査部長)

▪ 専門

外科病理学一般
悪性リンパ腫の病理

▪ 資格・所属学会等

日本病理学会認定病理専門医・指導医
日本臨床細胞学会認定細胞診専門医・指導医
日本リンパ網内系学会、日本血液学会
福島県立医科大学 臨床教授

【課長】 根本 浩(検査部病理検査課長)

【係長】 佐藤 由峰(検査部病理検査係長)

【技師】 石川 梓(臨床検査技師)

三浦 義喜(臨床検査技師)

<令和2年度実績>

組織診断件数	2,651件
術中迅速組織診断件数	123件
細胞診断件数	3,301件
術中迅速細胞診断件数	212件
病理解剖件数	4件
組織ブロック総数	10,246個

<令和3年度目標>

- ・医療安全上、きわめて重大な問題となる「担当医による病理診断書の見落とし」の根絶を目指す(週毎に前2週間分の未閲覧症例を抽出し担当医に報告)。
- ・ルーティンにて提出された病理検体については、免疫染色を要する症例や難解例を除き、可能な限り速やかに報告書を発行するように努める(turnaround timeの短縮)。
- ・報告書に標本のマクロまたはミクロ写真を添付し、診療担当医に理解しやすく、同時に患者様にも説明しやすい報告書の作成を心がける。
- ・外科系(呼吸器外科、乳腺外科、婦人科他)及び消化器内科との連携によるコンパニオン診断(外注によるEGFR, PD-L1, ALK, HER2, RAS / BRAF, MSI検査etc.)を円滑に進める。
- ・コロナ禍における学会講演をオンデマンドにて科内で聴講し、最新情報の共有とスタッフのスキルアップに努める。
- ・剖検例を用いたCPC(臨床病理検討会)に向けて、研修医が症例の概要をプレゼンテーションしやすい環境を整える。



23. リハビリテーション科

【部長】 村上 和也(リハビリテーション科部長)

▪ 専門

足の外科、膝関節外科

▪ 資格・所属学会等

日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会スポーツ認定医

日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医

日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会評議員、東北膝関節研究会幹事

【係長】 大室 祐司(第1リハビリテーション科係長)

▪ 資格・所属学会等

柔道整復師、心臓リハビリテーション指導士、認定理学療法士(循環)、

3学会合同呼吸療法認定士、認定理学療法士(呼吸)

藤橋 伸弘(第2リハビリテーション科係長)

▪ 資格・所属学会等

心臓リハビリテーション指導士、認定理学療法士(循環)、AHA・BLSプロバイダー

福祉住環境コーディネーター2級

【理学療法士】 近澤 久美子

▪ 資格・所属学会等

認知症ケア専門士、認定理学療法士(脳卒中)、介護支援専門員

相田 悦子

鈴木かおり

三浦 友輔

▪ 資格・所属学会等

3学会合同呼吸療法認定士、認定理学療法士(呼吸)、AHA・BLSプロバイダー

金子みなみ

▪ 資格・所属学会等

3学会合同呼吸療法認定士、福祉住環境コーディネーター2級

淵澤 慎也

▪ 資格・所属学会等

3学会合同呼吸療法認定士

大室 康騎

菅野 裕司

▪ 資格・所属学会等

3学会合同呼吸療法認定士、福祉住環境コーディネーター2級

【作業療法士】 高橋 美和

川瀬 ゆかり

- 資格・所属学会等
AHA・BLSプロバイダー

橋本 楓

- 資格・所属学会等
認知症ライフパートナー2級、AHA・BLSプロバイダー、肝炎医療コーディネーター

菅野 尚之

【言語聴覚士】 齋藤 隆徳

佐藤 藍里

- 資格・所属学会等
肝炎医療コーディネーター

東海林 祐実

- 資格・所属学会等
肝炎医療コーディネーター

岡崎 信世

【事務】 鈴木真紀子(派遣事務員)

<令和2年度実績>

1. リハビリテーション業務実績

部 門	入 院	外 来	合 計
理学療法総単位数	21,607	302	21,909
作業療法総単位数	7,227	477	7,704
言語聴覚療法総単位数	8,825	200	9,025

2. 音声外来業務従事(ST部門)

<令和3年度目標>

1. 方 針

- (1)患者満足度と職務満足度の向上
- (2)質の高いリハビリテーションの提供
- (3)病院収益への貢献
- (4)人材育成

2. 具体的目標

- (1)処方された全ての患者様へ、適切なりハビリテーションを提供する
- (2)ハード面、ソフト面の充実
- (3)地域連携パスの適切で効果的な運用
- (4)診療報酬改訂に対応し、規定範囲内で最大限の算定を行う
- (5)業務改善の提案
- (6)他部門との連携強化
- (7)各種リハビリテーション文書の統一化
- (8)臨床実習の受け入れを行なう



24. 薬剤部

【部長】 我妻 禎

【課長】 緑上 淳一(薬品管理課長 兼 薬品管理係長)

渡部 寿康(調剤製剤課長 兼 調剤製剤係長)

▪ 資格・所属学会等

がん薬物療法認定薬剤師

緩和薬物療法認定薬剤師

ケアマネージャー(福島県介護支援専門員)

日病薬病院薬学認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

日本DMAT隊員

麻薬教育認定薬剤師

日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト

福島市学校薬剤師

川村 早苗(病棟業務課長)

▪ 資格・所属学会等

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

【主任】 佐藤 南

齋藤 可奈子

▪ 資格・所属学会等

外来がん治療認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定薬剤師

日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト

酒井 亮

▪ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

福島DMAT隊員

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

【薬剤師】 二瓶 瑤子

▪ 資格・所属学会等

日本糖尿病療養指導士

日本薬剤師研修センター認定薬剤師

武藤 芳和

▪ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

大竹麻衣子

▪ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

寺内優紀恵

菊地 洋平

▪ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

古賀 彩織

▪ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

安齋 英里

佐藤 綾香

猪股 育美

黒田 彩佳

矢葺 優佳

【薬剤助手】 板垣かなえ、安倍 由紀

<令和2年度実績>

1. 薬剤管理指導件数 月平均：630件
2. 退院時薬剤情報管理指導数 月均：357件
3. 6年制薬剤師長期実務実習受入件数
 - I期(令和2年2月25日～5月10日) 3名
 - II期(令和2年5月25日～8月9日) 4名
 - III期(令和2年8月24日～11月8日) 4名
 - IV期(平成2年11月24日～2月14日) 0名
4. 化学療法ミキシング件数
外来実施件数：1,355件
入院実施件数：296件
5. 学会・研修会発表
 - 令和2年7月9日
薬事新報 渡部 寿康
「病院薬剤師の外来業務－患者さんへの安全な薬剤管理－」
 - 令和2年8月25日
福島市 福島赤十字病院
福島赤十字病院レジメン研修会
「当院でよく使用される化学療法レジメン－レジメンの読み取りと副作用対策－」 渡部 寿康
「初回化学療法から継続した外来患者への関わり」 齋藤可奈子
 - 令和3年3月1日
福島県病院薬剤師会雑誌 No.114
「薬薬連携研究会と県北地区版お薬手帳」 渡部 寿康
「ダイヤモンド・プリンセス号の救護活動報告」 緑上 淳一

6. 学会・研修会参加
認定実務実習指導薬剤師養成講習会

<令和3年度目標>

1. 薬剤管理指導件数
月平均 650件
2. 6年制薬剤師長期実務実習受入件数
Ⅰ期：3名 Ⅱ期：3名 Ⅲ期：3名 Ⅳ期：3名
3. 化学療法ミキシング件数
外来実施件数：1,400件
入院実施件数：300件
4. 学会・研修会発表：2件

25. 医療技術部

【部長】 渡部 研一(循環器内科主任部長 兼 医療技術部長)

栄養課

【係長】 菊地 利恵(第一栄養係長)

- 資格・所属学会等
静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士
NST専任管理栄養士

小河原貴之(第二栄養係長)

- 資格・所属学会等
福島県糖尿病療養指導士
NST専任管理栄養士

服部みゆき(調理係長)

【管理栄養士】 野崎 華織

葛城 美貴
福島県体育協会認定スポーツ栄養士

野沢 雅美、佐藤 璃香

【栄養士】 野地満里絵、齋藤那緒美、蓬田 ゆみ、
安田 萌美、角田奈々葉、香野 友希

【調理師】 釜田 雄一、中尾ひろみ、齋藤 蘭、小林 玲子

【業務員】 片平 純子、本多由美子、菱沼美佐子
菅野由香利、山田 弘美、佐藤 栄寿、佐藤 弥

【事務員】 大橋 睦子

<令和2年度実績>

・栄養管理業務

項目	区分	実績	備考		対前年度増減
栄養指導件数	外来指導	492件/年	算定件数	477件/年	280件増
	入院指導	844件/年	算定件数	697件/年	164件増
栄養管理計画書		4,400件/年	69.9%/年		1,753件増
集団栄養相談教室	プレママ	30回/年			-
個人対応		913件/年			185件増

- (1) 栄養指導対象者の抽出を行い、栄養指導件数UPに繋げた
- (2) 業務改善を行い、入院患者の栄養管理に掛かる時間を増やした(栄養管理計画実施件数UP)
- (3) 診療報酬改定に伴い栄養情報提供書の書式作成。運用開始した
- (4) 11月～健康管理のための情報提供(減塩について)実施

・給食管理業務

項目	区分	実績	備考		対前年度増減
食事提供数	一般食	105,214食/年	特別治療食	41.10%	-11,390食減
	特別治療食(加算有)	73,358食/年	(加算有)割合		-5,872食減
行事食回数		24回/年			-

- (1) 令和3年4月～のオーダー締切時間変更に対応するため、業務改善を実施した
- (2) 献立改善実施(サイクルメニュー変更、嚥下調整食1j、2-1の主食設定変更等)
- (3) 8月に嗜好調査を実施し、献立内容改善に繋げた
- (4) 管理栄養士、栄養士の実習生を2校(4名)受け入れた

<令和3年度目標>

1. 食事箋改定
2. 産科食祝膳内容改定、麺食献立改定
3. 栄養管理の充実(消化器外科患者の入院前栄養指導開始予定、栄養指導実施件数6件/日目標)
4. NST介入依頼を電カル導入予定
5. 衛生管理を充実させ、安全で美味しい食事摂取基準に則した食事の提供に取り組む

臨床工学技術課

【課長】 橋本 健一(臨床工学技術課長・臨床工学技士・医療機器安全管理責任者・医療安全推進室員・特定高圧ガス取扱主任者)

【臨床工学技士】 早坂美智子、中山 彩、塩澤 将太、村上 風太、齋藤 巧、佐久山 歩

<令和2年度実績>

◆臨床業務

- アンギオカテーテル業務
 - ・心臓 508件 (PCI 174件)
 - ・末梢血管EVT 24件 ・血栓除去 4件
 - ・IVCフィルター 2件 ・脳血管 68件(造影・コイル他)
 - ・肝臓 31件(TACE他) ・大動脈ステントグラフト 14件
- 心臓ペースメーカー業務
 - ・新規埋込み術・電池交換術 68件
 - ・植込み型ペースメーカー外来：指導管理料 2,280回
 - ・体外式ペースメーカー管理料 171日

- 心臓手術(人工心肺業務含む) 9件
- 自己血回収装置業務 21件
- 補助循環装置管理料(IABP・PCPS・ECMO) 11日
- 血液浄化アフェレーシス療法業務 81回 (HD・CHDF・DHP・腹水濾過再静注)
- ラジオ波腫瘍焼却術(RFA) 4件
- 手術室業務
- 内視鏡室業務
- ◆医療機器管理業務(医療機器安全管理料1算定)
 - 中央管理・点検業務
 - 輸注ポンプ・人工呼吸器・除細動器・全身麻酔器・閉鎖式保育器・血液透析装置・補助循環装置(IABP・PCPS)・ペースメーカー・パルスオキシメーター・生態情報モニター・低圧持続吸引器・電気メス など
 - 医療機器研修会開催 15回 (病棟単位での研修会含む)
- ◆参加委員会 等
 - 医療安全推進室
 - 医療安全推進委員会
 - 医療ガス安全管理委員会
 - 医療機器整備委員会
 - HCU運営委員会
 - 手術室運営委員会
 - ER運営委員会
 - 災害対策委員会
 - 省エネ委員会
 - 医療情報システム委員会
 - NESスタッフ

<令和3年度目標>

- 1) 管理機器における点検表の整備
- 2) 各臨床業務分野における知識・技術の向上

26. 看護部

看護部目標(2018年度～2020年度)

1. 倫理観のある心温まる看護を提供し、看護の質の向上を図る。
2. 地域の救急医療を担うとともに、地域医療支援病院としての役割をはたすための体制を充実させる。
3. 看護の専門性を高めチーム医療を推進する。
4. 病院経営への参画を意識した業務改善、コスト管理を行う。
5. 赤十字看護師の役割を認識した社会貢献を行う。

2020年度 短期目標

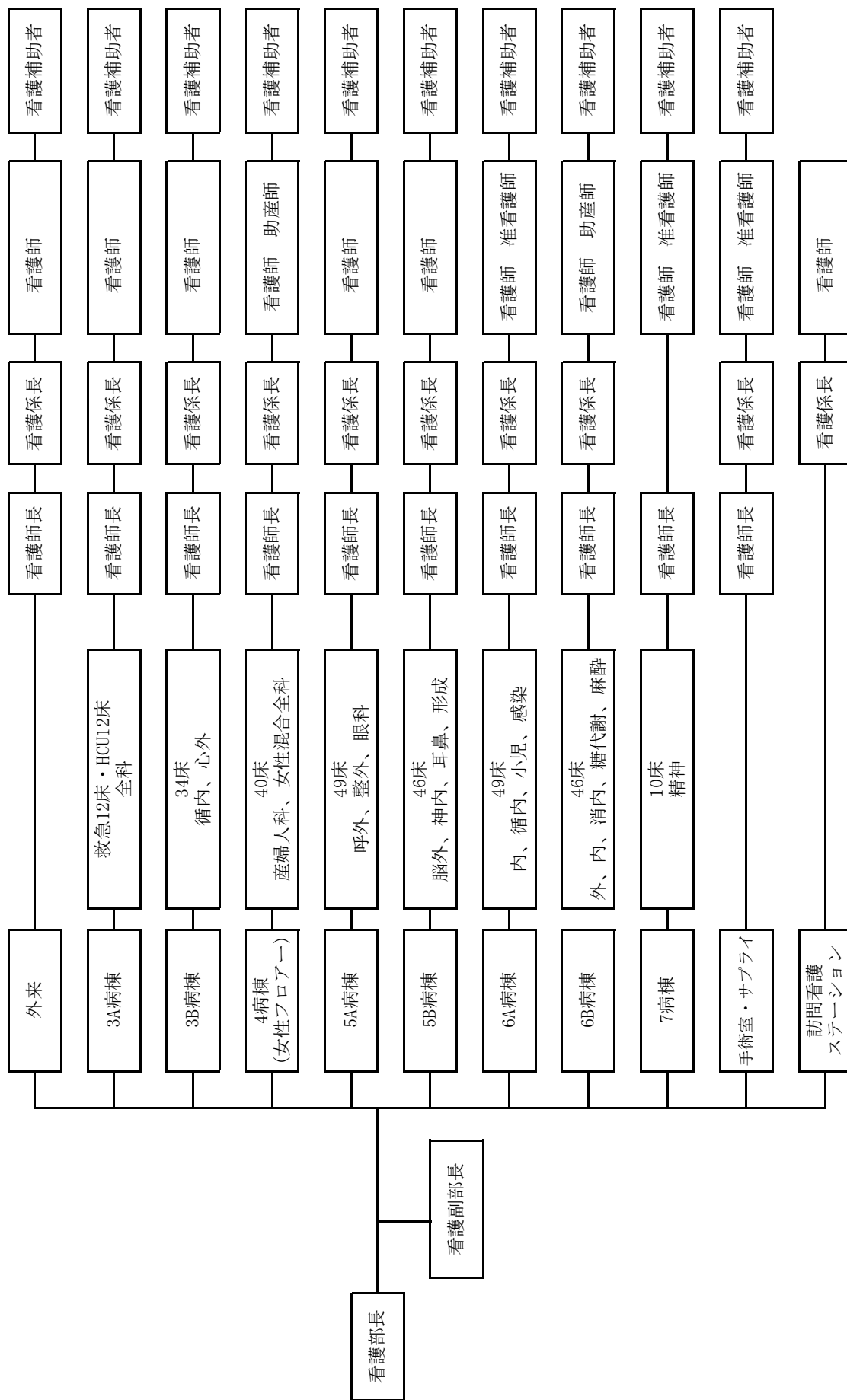
1. 患者の思いに寄り添い、尊厳ある看護(抑制しない看護)を実践する。
2. ホスピタリティー(患者・家族及び職員に対して)のある職場にする。
3. 看護の質を担保した記録(看護ケアがみえる記録)を徹底する。
4. 看護要員の計画的な人材育成(役割とキャリアラダーの整合性)を図る。
5. コストを意識した物品管理を徹底し、不動在庫を削減する。

福島赤十字病院看護部組織図

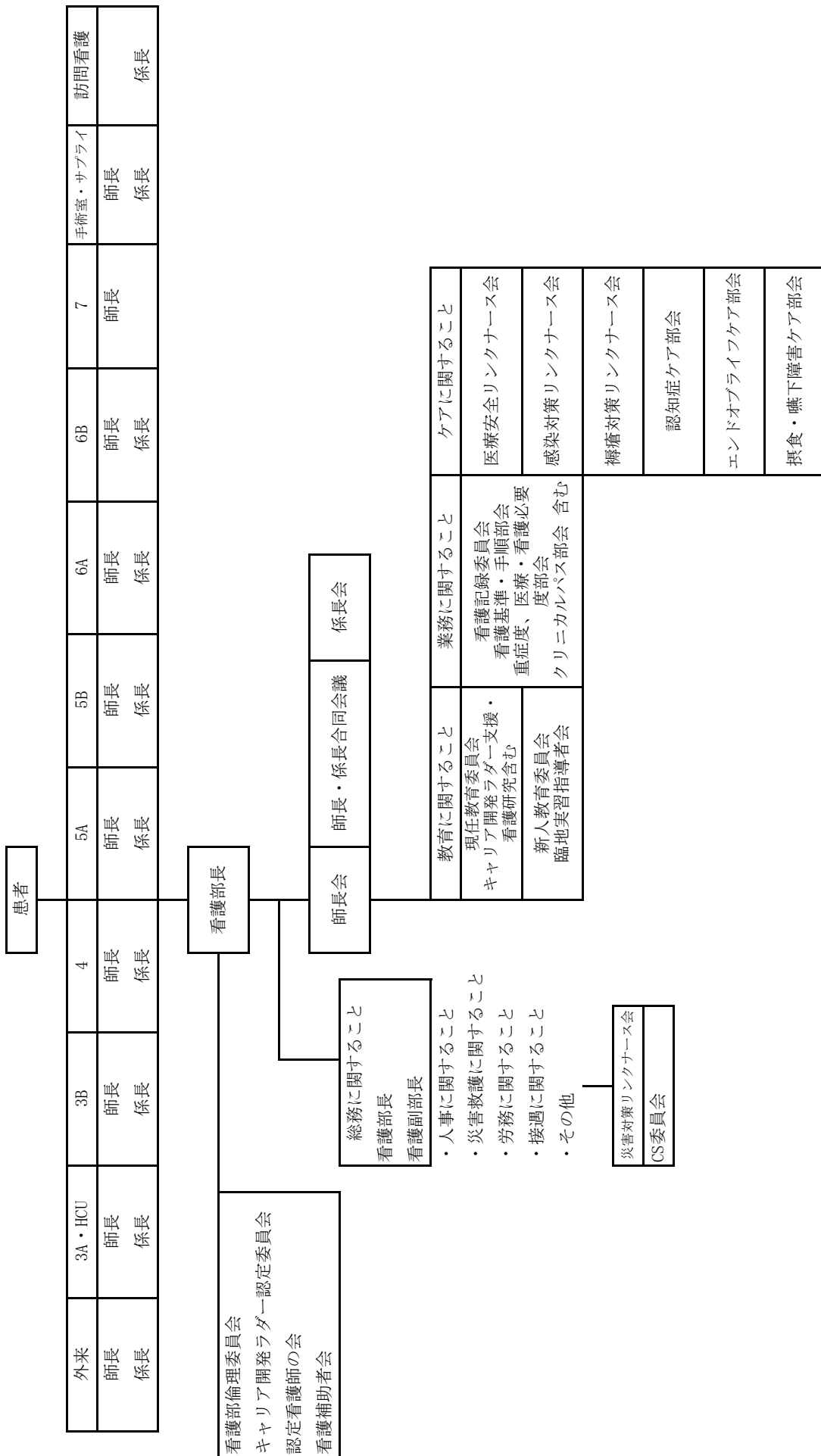
看護要員 (2020年4月1日改正)

病床数・診療科

部署



福島赤十字病院看護部機能図



看護部 管理者配置

2020年4月

看護部	看護部長	會澤 英子
	看護副部長	鈴木 佳子
	看護師長	野地 啓子 車田 真美
	褥瘡管理者(看護係長)	佐藤 美絵 (皮膚・排泄ケアCN、特定行為研修修了者)
外来	看護師長 1F外来	渡邊あゆみ(救急看護CN)
	看護師長 2F外来	森谷 浩子(がん化学療法看護CN)
	看護係長	小林 洋子 武田 里美
HCU・3A病棟	看護師長	武井 明美
	看護係長	鈴木 安英(集中ケアCN) 大槻 里美
3B病棟	看護師長	奈良輪弘美
	看護係長	柳田 美穂
4病棟 産科・婦人科外来 助産外来	看護師長	菅野ひとみ
	看護係長	成澤 裕美 齋藤 幸恵
5A病棟	看護師長	安達 明美
	看護係長	菅野智恵子
5B病棟	看護師長	小野ひとみ
	看護係長	鈴木 牧子
6A病棟	看護師長	清和 彩子
	看護係長	三浦 愛(感染制御実践看護師)
6B病棟	看護師長	菅野いづみ
	看護係長	國分 朋子
7病棟・精神科外来	看護師長	笹木恵美子
手術室 中央材料室 麻酔科外来	看護師長	國分 花子
	看護係長	佐久間由美子 泉 弘子
訪問看護ステーション	所長・看護係長	齋藤 泉
入退院支援センター	看護師長	伊藤美津子

看護部門の会議

2020年4月

会 議	目 的	出席者	開催日
看護師長会議	看護業務の円滑な運営のため、看護部門の意思決定を行う。看護部及び病院の管理運営に関する事項、看護業務の執行に関する事項、その他看護部長が必要と認めた事項について連絡、協議、決議する。	看護部門(病棟・外来・手術室)師長	第2・4水曜日 14:00~14:45
ベッドコントロールミーティング	当日・翌日の病床調整を行う。各部署・各部門等から業務に関する連絡を行う。	看護部門勤務責任者 PFM	平日 9:15~
看護係長会議	質の高い看護を提供するために、各職場に関する問題を共有、検討し、小集団活動を通し、看護業務の改善を推進する。 看護部の管理運営・委員会・部会の活動を推進するために、情報を共有し協働する。	看護部門(病棟・外来・手術室)係長 *各部署代表者1名	第4木曜日 15:00~15:45
師長・係長合同会議	看護部の活動を集約し、伝達、共有、協議する。	看護部門 師長・係長	4月・9月・2月
看護補助者会	業務上の問題点や変更事項等について協議、業務の情報提供、意見交換により業務改善を行い患者サービスの向上を図る。 看護部より業務上の問題点や変更事項等について情報提供し、患者サービスの向上を図る。	偶数月： 各部署リーダー補助者 奇数月： 全看護補助者(夜勤者・休みは除く)	第2木曜日 14:00~14:45
看護部倫理委員会	看護職の研究会、学会発表等に関して倫理的な配慮について検討する。必要時は病院倫理委員会と連携し検討する。		申請時随時
キャリア開発リーダー認定委員会	キャリア開発リーダーの認定の監査・実施・改訂に関する審議を行う。		申請時随時
認定看護師の会	認定看護師の活動を共有し、看護の質の向上を図る。	看護部長 認定看護師	5月・9月・2月
職能団体連絡委員会	看護専門職の資質向上のために専門組織を通して支援を行う。		必要時随時

	委員会・部会	目的
業務に関すること	看護記録委員会	看護記録の質向上のため、看護記録マニュアルの周知教育、看護記録の監査を通して看護の質を担保する。
	看護基準・手順部会	看護の質向上のため、看護基準、手順を改訂整備する。
	重症度、医療・看護必要度部会	重症度、医療・看護必要度に関わる評価の質の向上を図る。
	クリニカルパス部会	病院のクリニカルパス委員会と連携し、電子クリニカルパスの運用に向け指導教育を行う。
教育に関すること	現任教育委員会 (キャリア開発ラダー・看護研究を含む)	キャリア開発支援、院内看護教育プログラムを運営する。 臨床における看護研究の推進と発表会を運営する。
	新人教育委員会	新人看護師個々のキャリア開発を支援するとともに、院内の新人看護職員研修プログラムに沿った研修会を企画、運営する。
	臨地実習指導者会	臨地実習の目的が達成できるよう教育施設と連携し、それに適した臨地実習の場を提供する。
ケアに関すること	医療安全リンクナース会	病院の医療安全管理委員会、医療安全推進委員会と連携し、看護を安全に提供するための環境を整備する。
	感染対策リンクナース会	病院の院内感染対策委員会と連携し、患者の院内感染を低減し、医療従事者の感染を予防する。
	褥瘡対策リンクナース会	病院の褥瘡対策委員会、NST委員会と連携し、褥瘡予防・創傷管理、失禁ケアの質向上のための活動を行う。
	認知症ケア部会	病院の認知症ケア運営委員会と連携し、認知症を有する患者ケアの質の向上を図る。
	エンドオブライフケア部会	病院の緩和ケア委員会と連携し、人生の最終段階におけるケアの質の向上のために活動する。
	摂食・嚥下障害ケア部会	病院のNST委員会と連携し、摂食・嚥下機能の評価及び誤嚥性肺炎、窒息、栄養低下、脱水の予防のためのケアの質の向上を図る。
総務に関すること	災害対策リンクナース会	病院の災害対策委員会と連携し、災害発生時において患者の安全を図り迅速かつ円滑な対応ができるよう、減災・防災・救護活動に必要な知識、技術の習得を支援し、常に救護体制を整備する。
	CS委員会	病院の顧客サービス向上委員会と連携し、看護職員の接遇向上を図り、患者満足度向上のための活動を行う
	コスト削減・省エネWG	用度施設課と連携し、SPD物品・一般消耗品の削減に努める。 病院の省エネ委員会と連携し、省エネ活動を推進する。

2020年度 看護部委員会・部会 メンバー表

係長小G活動

委員会・部会	委員長	副委員長	開催日	3A	3B	4	5A	5B	6A	6B	7	外来	手術室
看護記録委員会 看護基準・手順 部会 重症度・医療・看護 必要度部会 クリニカルパス 部会	看護部 鈴木	武井師長 成澤係長 大槻係長 小野師長	第3火	原田 瑞穂	中沢 利樹	渡邊 君枝	菊地悠示郎	渡辺 梨沙	成尾ありさ	堀切 智子	菅野 忍	齋藤 貴子	鈴木 直人
				佐野 谷子	本多 香織	高槻はるな	佐藤 良子	渡邊 義文	鈴木 宏美	渡邊 真由	加藤 妃子	安田 浩美	庄司 大志
				北村 慶	神子 美江	菅野 絵里	渡部あけみ	上杉 梢	伊佐見智美	杉本 友香	菅野 麻衣	阿部 典子	齋藤 未来
医療安全リンクナース会	奈良輪師長	佐久間係長	第1金	北原奈緒美 CN	伊藤 彩香	菅野 陽子	吉内 絵美	八巻 美沙	本間 香織	斉藤 宏美	根本 智子	山田 雅美	菊田 歩
感染対策リンクナース会	菅野い師長	柳田係長	第4火	三浦 将克 CN	小林 実央	丹治 和子		瀬戸 雅子	斎藤八重子	高島 雄一		佐藤 明美	本田 祐子
褥瘡ケア部会		笹木師長 佐川CN	奇数 第1水		田島 一樹 CN			佐藤 祐子	鈴木 彩佳	菊地めぐみ		渡辺 和恵 今野 暁子 CN	
エンドオブライフ ケア部会	車田師長	清和師長	奇数 第2火		佐藤 智子			斎藤 郁美	荒木 美和	南 栞			
摂食・嚥下障害 ケア部会		三浦係長 八木沼CN	偶数 第3木					斎藤 郁美	佐藤 美和	南 栞			
現任教育委員会 (キャリア開発ラダー 支援看護研究を含む)	國分師長	鈴木牧係長 鈴木安係長	第2金	東 由香里	菅野 奏	渡邊由美子	野田 康代	長沢 恵	佐藤 香奈	斎藤 駿	佐藤 裕子	野地 静香 CN	志賀 恵子
新人教育委員会 臨地実習指導者会	菅野ひ師長	菅野智係長	第1木	高橋 健太	安藤 沙紀	佐藤あゆみ	斎藤 祐香	朝倉 恵実	高島恵子	八巻 歩美		森田 直子	根本 聡美 CN
		國分係長		渡邊 泰昇	桶 智寿子	野坂 雄史	菅野 勇勝	草野麻理絵	菅野 雄史	菅野 まどか			
災害対策リンクナース会	渡邊あ師長	泉係長	偶数 第2火	山口 広夢	北原 麻美	中村 留美	古関 夏純	吉田 圭吾	金子 尚代	丹治 彩花	神尾 泰子	佐藤 要子	本田 賀絵
CS委員会	安達師長	小林係長	第2木	野田 江美	高島 詩織	阿蘇由美子	飛田 依麻	齋藤 文子	渡邊 優香	菅野 里子	渡邊 陽子	木幡 紀子	伊藤紗也加
コスト削減・省エネ WG	車田師長	柳田係長		柳田係長		成澤 裕美	鈴木 牧子	牧子	國分 朋子	朋子	笹木師長	武田 里美	佐久間由美子
看護部倫理委員会	看護部長	看護副部長											
キャリア開発ラダー 認定委員会	看護部 教育担当師長・係長	看護部 教育担当師長・係長											
看護補助者会	看護部	*月の当番師長 が担当する	第2木	斉藤 順子	伊藤ヒサ子	伊藤ヒサ子	菅野 絹子	齋藤 順子	阿部美代子	高野 遥香			
職能団体連絡委員会	武田係長	笹木師長		保住 朋美	三次あやみ	小宅 佑佳	佐藤 良子	吉田 恭子	相良久美子	布施美奈子	小野 充		小野みさ子

2020年度 看護部委員会・部会の目標 最終評価と課題

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
看護記録委員会	<p>① 看護記録の質向上のため、看護記録マニユアルの周知・教育、看護記録の監査を通して看護の質を担保する。</p> <p>② 電子パスのスムーズな運用に向け指導教育を行う。</p> <p>③ 看護の質向上のため、看護基準・看護マニユアル(手順)作成及び修正・周知を行う。</p> <p>④ 重症度、医療・看護必要度に関わる評価の質の向上を図る。</p>	<p>① 看護記録監査において質監査・量監査の項目を変更し実施。監査の実施はできているが看護記録の質の向上までの評価ができていない。</p> <p>② 紙パスから電子パスへの移行を進めて17パス移行でき、ほとんどの病棟で電子パスの運用が開始することができた。</p> <p>③ 看護基準・看護マニユアルの統一を図り修正ができた。</p> <p>④ 重症度、医療・看護必要度に関わる評価の質向上のため、各部署研修、インストラクター研修、確認テスト前期・後期と実施し、質の向上に努めた。</p>	<p>① 看護記録の監査において再度検討が必要である。記録から看護が見える内容になれるよう検討したい。</p> <p>② 紙パスから電子パスへの移行を推進させ、パスの見直し、バリアンスの内容の集計、評価ができる様に件数を増やしていく。</p> <p>③ 看護基準・看護マニユアルの内容に関して定期的に評価していく。</p> <p>④ 来年度より、必要度の評価の実際を、記録監査を通して実施していきたい。</p>
医療安全リンクナーズ会	<p>① 看護を安全に提供するための環境づくりに支援する。</p> <p>② 看護を安全に提供するためのスタッフ教育をおこなう。</p>	<p>① 医療安全リンクナーズ会が中心にポータルタブトレの高さ調整とKYTについて各部署で研修を実施できた。各部署研修後、ポータルタブトレの高さ表示がおこなわれてきた。各部署で2～3回KYT研修を行ったが、全看護師は参加できていない。</p> <p>② 誤認・誤接続防止安全ラウンドは、ラウンド結果を共有しなから各部署でフィードバックしながら改善に取り組み、尿道カテーテル床づき防止のために、S字フックを導入した。</p> <p>③ 安全対策記録監査を毎月実施し、結果を共有し、各部署の安全対策の取り組みを情報交換し、カンファレンスの実施率・月別の実施件数も、各部署毎にばらつきがみられ、身体抑制率の低下にいたらなかった。</p> <p>④ 医療安全推進委員会と協働し、離床キヤッチの設定フローを提示し、パソコンカーポートに設置し離床キヤッチの使用率は少し増えてきているが、記録にフロアを活用した設定の記録ができていない。</p> <p>⑤ 転倒・転落報告件数は、令和元年4月～1月が284件、令和2年4月～1月が252件であり減少した。</p> <p>⑥ e-ラーニングを聴講した上で、BLS研修を全看護師が受講予定である。e-ラーニングによる知識の取得とシミュレーションによる技術を結びつけた研修ができた。今後も、実践に即した研修を継続していくことが必要と考える。また、看護管理者が夜間を想定した急変時対応の統制・統括が図れるように、管理者研修も必要と考える。</p>	<p>・看護職員が参加し、各部署に即したKYT研修をおこなうことで、危険予知能力を高めていく。</p> <p>・身体抑制低減のために、カンファレンスの記録を監査し、内容を共有し看護ケアが看護実践できるように、認知症ケア部会と協力していく。</p> <p>・離床キヤッチの設定フローを活用したカンファレンスの実施及び設定理由の記載が実施できるようにしていきたい。</p> <p>・急変時対応の実践ができるように、教育委員会と協力し、シミュレーション研修の内容・方法について検討していきたい。</p>

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
感染対策 リンク ナーズ会	① 標準予防策・感染経路別予防策を行い、感染対策を徹底する。 ② 感染対策教育を通して感染対策の充実に努める。	① 手指衛生チェックは100%実施できた。A/B評価が80%以上の結果であった。アルコール製剤の所持率が低かったため、ホルダーを配布し所持率が上がった。環境チェックは80%以上できたが、後期は80%できていない部署があり、リンクナーズの意識付けができなかった。 ② コロナ対応防護具の着脱動画を作成し、看護師全員が視聴、相互チェックができた。	感染対策には手指衛生が重要なので、個人のアルコール製剤使用量を把握できるようにしていく。レベル別の標準予防策を徹底できるようにしていく。
褥瘡対策 リンク ナーズ会	① リンクナーズがリーダーシップを発揮し、部署内の褥瘡及び創傷対策を実践できる。 ② 褥瘡ケアの実践を検討できる。	① リンクナーズが部署内で勉強会を実施した。また、褥瘡システムを活用しケアサマリア（おむつ交換・経鼻経管栄養）を作成できた。褥瘡リスクアセスメントの入院時評価・定期評価の不備減少に努め目標95%以上達成できた。ストッキングや医療関連機器圧迫創傷の予防について検討周知した。 ② 褥瘡ケア院内認定看護師養成研修は34名終了。褥瘡発生症例を委員会内で検討し、月1回程度の症例ラウンドを実施できた。	褥瘡リスクアセスメントの評価は患者数が多いと下がる傾向があった。100%又は100%近い数値を維持できるように継続して働きかけたい。褥瘡システムを活用して褥瘡の評価及び褥瘡ケアが適切に行えるようにしたい。また、褥瘡及び医療関連機器圧迫創傷の予防対策に努めていきたい。
認知症 ケア部会	① 部署看護師が認知症ケアについて学び尊敬ある看護を提供できる。 ② せん妄ケアの知識と技術を習得し看護実践に活用できる。	① せん妄予防看護計画は立案できてきているが認知症看護計画の立案は部署によりばらつきがみられた。2部署で倫理に関するカンファレンスを実施できた。 ② せん妄リスクアセスメントのフローを作成し、入院患者の9割以上のリスククリーニングを実施できた。	認知症ケアチーム介入ケースの看護計画の立案と評価が継続して実施できることを目指して分析と周知を継続する。倫理に関する全体研修、カンファレンスの内容について部会がどのような役割を果たしていくかが課題。せん妄評価が正確に実施できるようデータ集計とフィードバックを継続。
エンドオブ ライフケア 部会	① 部会看護師がEOLに関する知識を部署にフィードバックし看護ケアが提供できる。 ② 部会看護師が「症状緩和マニユアル」を看護ケアの実践に活用する役割を担う。	① 部署内で事例検討を実施し内容を全体で共有する研修を企画した。各部署内でカンファレンス参加は9部署で93名、マイページによる内容確認は348名中293名が実施できた。 ② 疼痛評価方法を統一し周知した。「緩和ケアマニユアル」承認を受け、運用を開始する。マニユアルに沿った内容で研修を企画し、3月に新人研修実施予定。	マイページを活用した全体研修に取り組み。記録の保存方法、内容が共有できる記録方法など課題がみられた。部会看護師の介部署への介入が必要である。呼吸苦の評価方法スケールを用いた評価方法の明確化と周知が課題である。
摂食・嚥下 障害ケア部会	① 摂食機能評価の現状から問題点を明確化し改善する。 ② 部会看護師が摂食・嚥下障害ケアについて学び、部署にフィードバックする。	① 経口摂取開始時の基準を見直し運用フローを修正した。修正後の評価を2月に実施し、部会で共有予定。 ② 「摂食機能療法」「EATについて」「マウスケア物品の使用方法」について部会内で学習会を実施し、各部署にフィードバックできた。	入院時評価に部署による差がみられた。原因を分析し部署と共有が必要。部会メンバーの意向を反映し学習会を企画した。各部署の看護師が学習、相談できるように部会看護師の役割を明確化する。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
現任教育委員会	<p>① キャリア開発支援、院内看護プログラム運営を行う。</p> <p>② 臨床における看護研究を推進する。</p>	<p>① キャリア開発ラダターの申請が目標より認定できた。IVナーズについて見直し、研修実施方法にeラーニングを取り入れた。来年度に2年目以上の看護師が取得予定であり、2年計画で実施中である。ケースレポートについては、3年目看護師の対象者が全員ケースレポートを作成予定である。今年度はケースレポートの実施方法の研修以外に、認定看護師の協力を得て、ケースレポートの実際を理解できるように支援した。</p> <p>② COVID-19のため今年度は実施できなかつた。</p>	<p>キャリア開発ラダター取得に関する正しい知識の啓蒙活動を実施する。臨床実践能力向上に向けて、研修会を計画、運営方法を検討する。事例検討、看護研究を推奨する。</p>
新人教育委員会	<p>① 新人看護教育計画に沿って教育研修を行い、新人看護職としての基本的姿勢・態度・基礎看護技術の習得を支援する。</p> <p>② 実習指導に必要な知識・技術・態度を習得し効果的な実習指導ができるよう支援する。</p>	<p>① 年間教育計画に沿って、部署内教育と集合教育がリンクできるよう企画運営できた。基礎看護技術の指導案は作成できず、評価方法の統一ができなかつた。ナーシングメゾット・eラーニングを新人は有効活用したが、現任は活用が不十分であった。</p> <p>② プリセプター研修は実施できなかつた。実習期間が短縮されたため、教員との打ち合わせが不十分であった。学生に対する個別の指導ができなかつた。臨床実習指導の研修がなかつたため、伝達講習が企画できなかつた。</p>	<p>新人教育計画年間プログラムの見直し、周知する。臨床実践能力向上に向け、プリセプター・新人教育担当者の指導能力を高めるための研修・企画・運営をする。臨床実習指導者による研修を企画・運営を行い、指導の向上を図る。</p>
災害対策リンクナーズ会	<p>① スタッアの減災意識を高め、災害発生時に患者の安全を守り、迅速円滑な対応ができるようにする。</p> <p>② 減災や救護活動に必要な知識と技術の習得を支援する。救護員の養成と救護備品の整備をする。</p>	<p>防災チェックや救護バックの点検を定期的に実施した。連絡網の整備を行い、院内コロナ発生時の有事の時に連絡網を活用できた。</p> <p>救護員研修は延期とした。</p>	<p>リモートその他工夫して研修(演習)を実施する。感染対策も含めた救護備品の整備をする。スタッフに災害に対する意識を高めるために旧病院の時に行っていた防火シヤッターの確認等を復活させるよう検討する。</p>
CS委員会	患者・家族が満足する接遇を行う	<p>① 入院患者看護サービスアンケート結果を共有し、看護サービスアンケート用紙の見直しを行い、次年度より運用を開始予定。</p> <p>② ご意見箱の内容を共有し、業務改善につなげた。</p> <p>③ 接遇に関するeラーニングの研修3件を受講し、テスト満点率100%を達成。</p> <p>④ 身だしなみ他者評価の検討を行い、チェック項目・運用方法を決め、次年度より運用を開始予定。</p>	<p>新しい看護サービスアンケート用紙の運用を開始し、患者満足度を評価する。</p> <p>身だしなみ自己チェックは継続し、新しく他者チェックの運用を開始し、1人1人の身だしなみについての意識の向上を図る。</p>
コスト削減・省エネWG	<p>① SPD物品・一般消耗品の削減に努める。</p> <p>② 省エネ活動を推進する。</p>	<p>各部署のSPD不動産在庫を把握し、44品目削減できた。</p> <p>各部署をラウンドし、物品の在庫と管理状況を把握した。</p> <p>各部署で省エネ活動に取り組み、WG内で内容を共有できた。</p>	<p>標準予防策、清掃方法の変更により定数を変更した物品の管理状況の確認が必要(長袖エプロン、手袋、エタワーパー、セイフキープ)。今後の管理について検討。</p> <p>省エネ活動の各部署への働きかけは継続していく。</p>

2020年度 看護部各部署の目標 最終評価と課題

部署	目標	最終評価	次年度の課題
3A病棟	(HCU) 1. 看護実践能力を向上させ、適切な看護を適切なタイミングで提供する。 2. 急性期医療・重症集中医療に対応できる専門的技術・知識の向上を図る。 (3A) 1. 緊急入院患者に安全な環境で看護を提供する。 2. 急性期・重症・救急患者に対応できる専門的知識・技術の向上を図る。	1. 専門的知識・技術の向上を図るためeラーニングの受講を促した上で、勉強会を実施した。 2. 看護の質の向上を図る目的でカンファレンスを日々行い、検討を重ねた。個々の看護に関する意識の違い、患者の状況に合わせたケアの大切さの意味を習得できた。 3. 業務改善を通し、時間内にできる看護ケアを見直し実施できた。 2交代勤務の導入により残業も削減できた。 4. SPDDの定期見直し・修正。	1. 年間計画を立ててプロシナムに沿って勉強会が実施できるよう検討していく。 2. 多職種とのカンファレンスができるよう検討が必要である。 3. 緊急入院・重症患者において個別性のある看護が展開でき、看護記録から患者が見えるような記録の記載を検討したい。 4. 業務改善を継続し実施する。 5. 整理整頓の継続を徹底する。
3B病棟	・安全保護対策を最少化し、安全な看護を提供する。 ・多職種と協働した患者教育を実践する。 ・循環器、心臓血管外科の疾患・看護についての学びを深め、看護の向上を目指す。 ・3階フロアでの共同業務とコストを意識した物品管理をする。	1. 身体抑制カンファレンスの実施時間や参加メンバーの変更を行い、患者の状態を把握したうえで、最小化に向けて実施した。情報交換した上で、対策をたてることができた。 2. 多職種カンファレンスの持ち方を検討し、看護師間での情報共有から、多職種カンファレンスを開催することができた。 3. 有事的な勉強会を、適宜開催することができた。 4. 物品管理表を作成し、活用することができた。 SPDDの見直しをおこない定数の適正化をはかることができた。	1. 医師を含めた身体抑制のカンファレンスを実施できるようにカンファレンスのあり方について検討していく。 2. 多職種カンファレンスを継続し、個別性ある看護展開ができるようしていく。 3. 循環器・心臓血管外科疾患看護の学びを深めるため、計画的に勉強会を実施する。
4病棟	1. 安全でかつ良質な分娩が提供できる環境を整える。 2. 母乳育児の推進に伴う退院支援の充実を図る。 3. より快適な通院・入院生活を提供できるように業務の標準化を行う。 4. 安全な入院生活の質の向上に向けて取り組みを行う。 5. カンファレンスの充実を図りスムーズな退院支援を行う。 6. 各チーム5Sを実施・継続ができた。5Sの実施・継続をすることによって業務環境を整える。	1. 骨盤固定のマニュアルを作成し、統一したケアを実施した。満足のいく分娩ができたとのアンケート結果が得られた。 2. バックケア・フットスパの業務基準を修正、勉強会を実施し統一したケアができた。 3. 再診予約枠の調整をそと都度行い、妊婦検診の進行に留意した。が待ち時間の削減には至らず。 4. 業務マニュアルの見直しを行った。部署独自のワークシートを廃止し、状態一括の用紙を有効活用した。 5. 退院支援計画書を修正・活用し、退院支援もスムーズにできた。 6. 各チーム5Sを実施・継続ができた。	1. 計画的な助産師の育成。 2. 実施件数を増やし定着させていく。 3. 新患者予約や検診センターと連携して実施、待ち時間の削減を進めていく。 4. 計画的な勉強会を実施し、知識・技術・看護ケアの充実を図る。 5. 婦人科の電子パス運用開始。 6. 退院支援計画書を活用し、カンファレンスの実施率を上げる。 5Sを実施・継続ができるように、監査の徹底を行う。

部署	目標	最終評価	次年度の課題
5A病棟	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全・安楽な療養と質の高い看護を提供する 2. 多職種と連携しスムーズな退院支援を行う 3. 多職種と連携し抑制しない看護に取り組む 4. 気持ちの良い接遇に取り組む 5. レベル別ラダー取得者を増やし勉強会を実施するとともに質の高い看護につなげる 6. コストを意識した物品管理を行う 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒヤリカンファレンスを1回/週/週で実施し、情報共有と対策を考え再発防止に取り組んだ。対策の周知徹底と継続が課題。薬剤師とのカンファレンスも導入し、薬剤に関する業務で内服薬自己管理者の内服処方管理の変更と内服確認用ケースの活用改善を行った。 2. 急変事例の振り返りカンファレンスを行い、急変時対応の学びを深めることができた。 3. 各チームとも1回/週/週で多職種と退院カンファレンスを行い、家族の意向や退院先の確認、進捗状況の確認などを行いながらスムーズな退院支援ができた 4. 身体抑制カンファレンスを行い身体拘束最小限に向けての意識付けはできてきた。医師とのカンファレンスが課題となった。まずは離床センサー対応と意識改革ができてきた。 5. 「受け持ちカード」を活用し、受け持ち看護師としての自覚、責任をもった対応ができた。患者様は受け持ち看護師を知ることでも効果的であった。 6. ラダーII、III取得者がいなかったため、次年度は計画的に進めたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種でヒヤリカンファレンスを行い、専門的視点で対策を考え、質の高い安全な医療と看護につなげる。 2. 認知症ケア・せん妄ケアの勉強会を行い、理解を深め正しいケアと抑制しない看護に取り組んでいく。(医師と協働) 3. 多職種連携のスムーズな退院支援の継続 4. 電子パスの理解と正しい運用 5. 計画的にラダーII、IIIの取得を目指すしキャリアアップを図る
5B病棟	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別性を重視したケアを提供する。 2. 患者様の日常生活の向上、維持に努める。 3. 安全な清潔な療養環境を提供する。 4. 看護要員個々の成長を病棟全体の底上げを図り、看護の質を担保する。 5. 役割意識を高め、時間管理と業務の充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種と協働し身体抑制の最小化につながるカンファレンスを定期的に開催し安全対策を実践できた。 2. 嚥下評価を適切に行い、多職種協働し摂食嚥下療法を推進するものができたが、病棟全体で意識向上につなげるまでには至らなかった。 3. 当初の療養環境整備の計画から感染症防止のための環境整備に拡大して実施できた。 4. クリニカルパスの運用を開始したことにより統一した看護を提供することができた。受け持ち看護師が提案してケースカンファレンスの実施が少なく看護計画に反映するまでには至らなかった。 5. 業務内容の見直しを図り休日の運番看護師を廃止した。夜間の業務の見直しを図ることができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医師を含めた身体抑制に関するカンファレンスが週1回のみだったため毎日できるような計画していく。 2. 個別性のある嚥下訓練ができるよう実践につながる知識の習得の機会を計画する。 3. 個々の部署スタッフの感染防止に対する意識を高め、安全で清潔な療養環境を提供していく。 4. 個別性のある看護展開ができるように患者が見える記録にする。 5. 業務改善を継続し時間管理を継続する。

部署	目標	最終評価	次年度の課題
6A病棟	<ol style="list-style-type: none"> 1. スタッフが感染防止の技術を身に付け感染することなく患者へケアを提供する事ができる。 2. 多職種と連携してその人に合った退院支援を行える。 3. 受け持ち看護師が中心となり看護展開ができる様に、チームで支援し個々の能力向上につなげる。 4. 行った行為の結果が情報共有できる記録を目指す。 5. 5S活動を継続し、整理・整頓と定数管理の見直しを定期的に行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年末のスタッフのPCR検査では1人も感染者を出すことなく経過する事が出来た。 2. 退院支援に関する看護計画を作成し、試験的に活用中。カンファレンスを開催し、評価、修正を定期的に行う事が出来た。 3. 感染患者専用病床となり、ケアを提供するため機能別看護に近い方式になっている。 4. 経時記録にとどまっている事が多い。 5. 必要物品がほぼ固定されたため、定数と物品を固定する事が出来た。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染患者の対象が高齢者や、中軽症者異常の患者が増え、ケアの質が変化していく事が予想される。感染に対するスタッフ1人1人の知識と技術の更なる向上が求められる。 2. 退院支援の看護計画の内容を再検討し、今後も継続して活動する。 3. 重症患者に対応する看護力を身につけられるように、病棟内で学習に取り組む。 4. 個々のアセスメントを記録に入力する事が定着できる様にする。 5. 継続する。
6B病棟	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち看護師として責任を持ち、チームメンバーと情報共有を行い個別性のある看護を提供できる。 2. 患者、家族の尊厳を守り、安全・安楽な看護を提供できる。 3. 専門的な知識や技術を習得し、統一した看護提供ができる。 4. 業務改善を実施し、2交代勤務に移行できるように努める。導入によりスタッフの仕事と生活の満足度が上がる。 5. コスト削減を推進し、安全、安心な職場、療養環境を整備できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多忙のためカンファレンス時間確保や受け持ち看護師の勤務状況によりチーム共に受け持ち発信によるカンファレンスは目標まで達成できなかつた。 2. セン妄予防に対する勉強会を実施していただきた各スタッフの知識向上に努めることができた。カンファレンスに対して医師参加型の安全保護対策実施患者に対するカンファレンスは医師との時間調整が難しく目標まで達成できなかつた。 3. ストマケアに対して医師や認定看護師による勉強会を開催しスタッフの知識、技術向上に努めることができた。ストマチューブの知識、技術向上に努めることができた。ストマチューブの知識、技術向上に努めることができた。ストマチューブの知識、技術向上に努めることができた。 4. 糖尿病患者指導にパンフレット作製までは達成できなかった。運用までは実施できていないため目標達成できなかつた。 5. リーダー会、チーム会にて業務の見直しを図り2交代勤務移行まで達成することができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 転倒転落やチュートラブル等、ヒヤリハットや事故報告等カンファレンスを実施し安全な看護提供ができる。 2. 多職種と連携しカンファレンスを行い退院支援が円滑に実施することができる。 3. 糖尿病教育入院患者への療養指導がチームで統一してできる。 4. 勉強会を実施し消化器内科、外科の専門的知識、技術が向上できる。 5. 日々リーダー業務や受け持ち看護師の業務を見直し時間管理ができる。 6. 感染予防に努め安全、安心な療養環境を整えることができる。
7病棟	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種による合同カンファレンスを継続し個別性のある看護を実践する。 2. 入院時から退院支援に取り組み精神科入院基本料10対1を維持する。 3. 認知症患者に対し、抑制しない看護を目指す。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種合同カンファレンスを毎月曜日に実施した。食事形態や退院支援の検討など個別に検討できた。 2. 入院時から退院に向けて患者家族にも働きかけてきたが、自宅に帰れず苦慮する事例があった。コロナの影響で転院が決まらず、平均在院日数40日が維持できない可能性が出てきている。 3. 認知症に限らず。抑制中に解除時間を多くとる配慮が定着してきた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効率の良い退院支援を行い。入院患者を増やすことで精神科入院基本料10対1を維持する。 2. 多職種合同カンファレンスの継続 3. 精神科包括的暴力対策プログラムについて学びを深め、抑制時間を減少させる。

部署	目 標	最終評価	次年度の課題
手術室・サブライ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の思いに寄り添い、安全安楽な手術看護を実践する。 2. 看護の質を担保したマニュアルを整備する 3. コストを意識した物品管理を行い、不動在庫を削減する。 4. 安全な滅菌材料を提供する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術看護の振り返りの用紙回収をしてまとめた。COVID-19対応の勉強会やコミュニケーションを実施 2. 既存のマニュアルの見直し・修正実施。新たにマニュアルの追加も行った。 3. 医療材料の期限切れや滅菌切れは随時、各科の先生に周知した。適宜定数の見直しを図った。 4. 中材の基礎・応用力をあげるため勉強会とチェックリストの活用をした。霧化セットの中央化ができた 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今後、看護の振り返り用紙内容について、フィードバックを行っていく。COVID-19感染対策については継続し、教育していく。 2. 途中経過のマニュアル作成は次年度へ持ち越し 3. 医療材料の無駄がないよう次年度も定数の見直しの継続と無駄がないよう努める 4. 今後もチェックリストを実施し評価していく
外来	<ol style="list-style-type: none"> 1. 24時間救急患者を受け入れる体制を継続する。 2. 患者の思いに寄り添い、こころ温まる看護を提供する。 3. チーム医療を推進する。 4. 省エネ、コスト削減で病院経営に参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応に関しての電話問診票の作成や、ER内をゾーン化するなど、救急患者を断らずに受け入れるための感染対策の強化を図った。 ・各科ごとにチーム医療事例報告をまとめ発表した。医療チームの中で外来看護師としての関わり方を(委託看護助手も含めて)共有し学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急患者を受け入れるためには、医師、病棟、多職種、ベッドコントロールなどにより連携していくことが課題。 ・引き続きチーム医療を実践し、計画的に評価し共有していく。

令和2年度(2020年度)看護部教育研修実績

1. ラダーレベルⅡ相当研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
急変時対応	急変時に素早く対応する能力を高める	現任教育委員会 (各部署毎)	4月～	各部署内、シミュレーション等	
ケースレポートのまとめ方	ケースレポートをまとめることで自己の看護観を深める	現任教育委員会	12月11日 17:15～18:15	①多目的室 ②4Fカンファレンス室外部講師によるオンライン講義	①16名 (3年目看護師) 7名 (教育担当看護師) 2名 (管理者) ②5名 (看護師長)
認定看護師によるケースレポート発表会	3年目対象看護師の支援として、認定看護師の発表から、ケースレポートのまとめ方や発表態度を学ぶ	現任教育委員会	2月3日	多目的ホール	22名(3年目看護師7名)

2. ラダーレベルⅢ相当研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
ケースレポートを支援するために	ケースレポートをまとめるスタッフの支援をするために必要な知識を習得し活かすことができる	現任教育委員会			

3. 専門コース(IVインストラクター看護職養成研修)

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
①導入の意義と継続教育の概要	・IVナース導入の意義と役割について学ぶ ・静脈注射を安全に実施するために必要な養成研修及び継続研修プログラムについて知る	現任教育委員会	11月1日 配信開始	eラーニングによるオンライン研修	
①安全対策と事故防止	・静脈注射実施における法的責任と関連法規について学ぶ ・静脈注射実施時におけるインフォームドコンセントと倫理的配慮について学ぶ ・静脈注射における安全対策と事故発生時の対応について学ぶ				

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
②感染管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静脈注射実施時における感染対策を学ぶ ・ 器具・器材の適切な選択、取扱いと管理について学ぶ 	現任教育委員会			
③静脈注射の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静脈注射に関する基礎知識を学ぶ(種類、投与方法等) ・ 静脈注射の観察ポイントを学ぶ ・ 静脈注射に伴う合併症と予防とその対処方法について学ぶ 	新人教育委員会	新人教育研修に参加		
④薬剤の基礎知識と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静脈注射に関する基礎知識を学ぶ(種類、投与方法等) 	現任教育委員会 (医療安全)		e-ラーニング	
⑤静脈注射に使用する医療機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸液ポンプ、シリンジポンプの取扱い、注意点について学び、安全に使用することができる 				
⑥輸血用血液製剤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸血用血液製剤の種類と用法、輸血の副作用と安全対策について学ぶ 	現任教育委員会 (輸血療法委員会)	10月23日 ～12月28日	マイページ	
⑦体液管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸液療法における体液管理について学ぶ ・ 循環器で使用する特殊薬剤の種類と使用方法、観察のポイントについて学ぶ 	現任教育委員会		e-ラーニング	
⑧アナフィラキシー	<ul style="list-style-type: none"> ・ アナフィラキシーショックの原因・症状・治療について学び救急時に対応できる 	現任教育委員会			
⑨薬剤の知識と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗がん剤・麻薬・催眠作用のある薬などの知識、管理、使用方法、観察ポイントについて学ぶ ・ 循環器で使用する特殊薬剤の種類と使用方法、観察ポイントについて学ぶ 	現任教育委員会		e-ラーニング	

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
⑩CVポートの抜針	・技術演習を通してCVポートの抜針について学ぶ	現任教育委員会		実技演習	

4. 専門コース(褥瘡ケア院内認定看護職養成研修)

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
①褥瘡リスクアセスメント	褥瘡リスクアセスメントを学ぶ	褥瘡対策リンクナース会	6月23日 ～7月2日	講義資料： マイページ「掲示板」に配信 受講確認： マイページ「小テスト」試行	33名 (看護師33名)
②褥瘡評価	褥瘡評価(DSIGN-R)を学ぶ	褥瘡対策リンクナース会	7月28日 ～8月6日		33名 (看護師33名)
③スキンケア	スキンケアを学ぶ	褥瘡対策リンクナース会	8月25日 ～9月3日		32名 (看護師32名)
④褥瘡治療ケア	褥瘡治療ケアを学ぶ	褥瘡対策リンクナース会	9月29日 ～10月4日		33名 (看護師33名)
⑤耐圧分散ケア	耐圧分散ケアを学ぶ	褥瘡対策リンクナース会	10月27日 ～11月5日		32名 (看護師32名)

5. 全体(その他の研修)

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
3年目ケースレポートケースレポート発表会	発表を共有することで、看護過程・受持ち看護師の役割について学び合う	現任教育委員会	①6月3日 17:00～18:00 ②6月4日 17:00～18:00 ③6月9日 17:00～18:00 ④6月11日 17:00～18:10	多目的ホールにて人数制限して実施 後日、動画をマイページへ掲載	①18名 ②16名 ③12名 ④18名 (いずれも看護師)
退院した患者・家族の在宅両方生活の実際	病棟看護師が退院支援に関わった患者・家族の在宅療養移行後の生活の実際について知る。訪問看護師の立場から病棟看護師に伝えたいことを共有する場とし、今後の退院支援における看護師の役割について学ぶ機会とする。	看護部	7月22日 17:15～18:15	多目的ホール	17名 (病棟看護師9名、訪問看護師4名、相談員2名、管理者2名)

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
グローバルヘルス ～地域を知ろう～	所属部署や所属施設だけでなく、地域の関連施設、日本国内、海外へと関心を向けることができる。 国内外の健康に関する視点(考え方)を理解し、国内の健康問題と結びつけることができる。 自施設のある地域のアセスメント能力を高め、看護の対象を個人から集団に広げることができる。	現任教育委員会	10月23日 ～12月28日	マイページに掲載	
EOL事例検討会	症状緩和や終末期のケアにおける悩みや不安、感じていることを共有し、今後のケアについて考える機会とする	EOL部会	12月1日～	マイページに掲載	293名(看護師)

6. 看護補助者研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
看護補助者の業務	看護部の方針、今年度の看護部目標を理解する。看護チームの一員としての看護補助者の業務を理解する。感染対策業務の中の、環境清掃の目的・方法を理解し実施できる。	看護部	4月23日 14:00～14:45	多目的ホール、講義、GW	17名 (看護補助者)
守秘義務・個人情報保護	守秘義務・個人情報の保護について理解し、看護補助者業務で実践する。	看護部	5月14日 14:00～14:45	多目的ホール、講義	13名 (看護補助者)
「入院セット」の運用、日常生活に関わる業務	「入院セット」の運用・目的等を見直すことで、看護補助者として日常生活にかかわる業務を考える	看護部	7月9日 14:00～14:45	多目的ホール、GW	12名 (看護補助者)
5S中間報告会	患者様への安全な療養環境、職員が働きやすい職場環境を提供するための5S活動を共有する	看護部	9月10日 14:00～14:45	多目的ホール	21名 (看護補助者15名、看護師長6名)

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
感染防止	看護補助業務における感染防止対策について理解を深め、実践に生かす正しく個人防護具の着脱ができる	看護部	1月14日 14:00~14:45	多目的ホール	14名 (看護補助者)
5S活動報告会	患者様への安全な療養環境、職員が働きやすい職場環境を提供するための5S活動を共有する	看護部	3月11日 14:00~14:30	多目的ホール	21名 (看護補助者16名、看護師長5名)

7. 看護管理者研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
労務管理について	看護管理者が実践する労務管理について理解を深める「様式9」について	看護部	5月19日 17:00~18:00	多目的ホール、講義	18名 (看護師長、看護係長18名)
業務改善報告	看護管理者が実践する労務管理について理解を深める～業務改善の取り組みから考える～	看護部	8月19日 17:15~18:30	多目的ホール	19名 (看護師長12名、看護係長7名)
令和2年度赤十字施設看護管理者・教育者研修会	新型コロナウイルス感染症の知識を深めるとともに、赤十字医療施設及び赤十字施設の看護管理者として必要な感染症対策及び心理社会的支援の方法を理解し、自施設及び自部署の対応に活かすため	看護部	9月25日 13:30~15:05	多目的ホール (Web会議システムによる講義と報告)	17名 (看護師長13名、看護係長4名)
令和2年度赤十字施設看護管理者・教育者研修会		看護部	10月16日 15:00~16:45	多目的ホール (Web会議システムによる講義と報告)	
福島県看護協会6支部合同研修会「みんなで考えよう意思決定支援の本来のあり方」	ACP(人生会議)への理解を深め、コロナ禍における、自らが望む最終段階の意思決定支援について考える	看護部	11月24日 13:30~15:00	看護部カンファレンス室(オンライン講義と会場参加者とのディスカッション)	6名 (看護師長)

令和2年度(2020年度)看護部新人教育研修実績

1. 新人看護職員集合研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
基礎看護技術① (食事支援と口腔ケア、血糖測定とグルテスト、インスリン注射、採血と検体の取り扱い)	静脈注射、血糖測定の基本的知識と技術を習得する。インスリン製剤の種類と用法等理解し、適正に使用できる。安全な食事介助に必要な知識を学ぶ。	新人教育委員会、摂食嚥下障害認定看護師	5月30日 8時半～17時	多目的ホール、化学療法室、中央処置室 2 技術チェック実施	19名
基礎看護技術② (筋肉注射、静脈注射)	筋肉注射、静脈注射を安全に実施するための基本的知識、技術を習得する。	新人教育委員会	6月27日 8時半～17時	中央処置室、化学療法室 技術チェック実施	19名
医療安全研修	安全な看護ケアを提供するために、医療安全に関する基本的な知識を習得する。医療安全に関する看護の向上を図る。	医療安全委員会、新人教育委員会、薬剤師、臨床工学技士、放射線技師	7月10日 8時半～17時	多目的ホール①② 安全対策の患者体験、事例によるKYT、与薬時のダブルチェック医療品、放射線検査、医療機器について講義 研修後レポート「事故防止のために今、私ができること」	19名
基礎看護技術研修③(酸素療法、口腔内、鼻腔内吸引、褥瘡予防ケア、看護記録)	酸素、吸引についての知識を深める。褥瘡予防ケアについての知識を深める。看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する。	新人教育委員会、記録委員会、慢性呼吸器疾患看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師	9月3日 8時半～17時	多目的ホール①② 褥瘡予防、評価方法、看護記録の入力について講義、技術チェック実施	17名
廃用症候群の予防、急変時対応	廃用症候群の症候と要因、予防法について学ぶ。急変時の初期対応を学ぶ。SBARを用いた患者の状態報告を学ぶ。	新人教育委員会、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、集中ケア認定看護師	11月30日 8時半～17時	多目的ホール①② 廃用症候群の予防について、急変時対応について講義、BLS、ACLSグループワーク実施	18名
終末期の看護	新卒看護師が終末期看護、エンゼルケアの知識と技術を習得することができる。	新人教育委員会、EOL部会	令和3年 3月4日 8時半～16時	多目的ホール①② 終末期看護の講義、エンゼルケア技術チェック実施	19名
NPPV装着の基本的知識と操作方法	NPPVの操作方法の実際を知る。	新人教育委員会、HCUスタッフ	令和3年 5月27日 17時15分～18時半	HCU NPPV操作方法について実技と講義実施	13名

2. フォローアップ研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
3カ月フォローアップ研修	赤十字活動についての理解を深める。自己の精神状況を理解し対応方法を学び、リフレッシュできる	新人教育委員会	6月19日 14時～17時	多目的ホール①② 3カ月振り返り「嬉しかったこと、自分で頑張った事、これからの課題」についてグループワーク	19名
6カ月フォローアップ研修	6カ月の振り返りを実施しリフレッシュできる。電子カルテ操作業務が円滑に行える。包帯法を学び、手技を習得する。	新人教育委員会	10月1日 8時半～17時	多目的ホール① 6カ月振り返り「嬉しかったこと、自分で頑張った事、これからの課題」についてグループワーク、電子カルテ操作方法講義、包帯法、三角巾技術チェック実施	18名
1年フォローアップ研修	1年間の看護実践を振り返り、自己の看護観を深め看護実践の力を養う。次年度に向けての目標、役割の確認をする。部署合同研修での学びを課題に沿って振り返り、他部署の役割を理解する。	新人教育委員会	令和3年 3月17日 8時半～17時	研修棟3階 1年振り返り「嬉しかったこと、自分で頑張った事、これからの課題」についてグループワーク、患者さんとの看護の振り返りをグループ内で発表、部署合同研修後のグループワーク	18名

3. ローテーション研修、部署合同研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
第一期ローテーション研修	配属部署では経験できにくい看護技術を体験し、看護実践に必要な基本的知識・技術を習得する。自己の不足している基礎看護技術を見直すことで自分の到達レベルを確認し、今後の課題を明らかにする。	新人教育委員会	10月～11月	各部署(手術室、3A、HCU、3B、5A、5B、6B)2日間研修 事前アンケート、研修前、後レポート提出 各部署にて技術チェック実施、検査、処置等見学	19名
部署合同研修	各部署における看護師の役割と機能を知る。専門的知識、技術を学ぶ。	新人教育委員会	令和3年 1月～2月	手術室、アンギオ室、内視鏡室、訪問看護にて2日間研修 事前アンケート、事後レポート提出 各部署にて検査、処置、看護ケア見学	19名

4. 院内看護研究発表

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
ナラティブレポート発表会	1年間の看護実践を振り返り、ナラティブレポートをまとめ自己の看護観を深め次年度に向かう力を得る。	新人教育委員会	令和3年 6月25日	研修棟3階 17時15分～18時半 各1人ずつ発表	16名

5. 部署OJT研修

ねらい：基本的、専門的知識、技術を習得する。

研修方法：新人看護職員対象にナースングメソッド、eラーニングにて研修前課題学習を実施し各部署内研修、看護技術チェックを実施

月	部署内研修内容	ナースングメソッド (技術チェック項目)	eラーニング視聴学習項目
4月	<p><部署内オリエンテーション></p> <input type="checkbox"/> 部署の組織概要 <input type="checkbox"/> 固定チームナースングの概要 <input type="checkbox"/> 災害・防災時対応の概要	<p><環境調整技術></p> <input type="checkbox"/> 病室の環境整備 <input type="checkbox"/> ベットメイキング <input type="checkbox"/> 臥床患者のシーツ交換 <p><食事援助技術></p> <input type="checkbox"/> 安全な食事介助のための準備 <input type="checkbox"/> 食事介助 <p><排泄援助技術></p> <input type="checkbox"/> 臥床患者の排尿・排便介助 <p><活動・休息援助技術></p> <input type="checkbox"/> 歩行介助 <input type="checkbox"/> 車いすへの移乗・移送 <input type="checkbox"/> ストレッチャーへの移乗・移送 <input type="checkbox"/> 体位変換 <input type="checkbox"/> チューブ類の取り扱い <p><清潔・衣生活援助技術></p> <input type="checkbox"/> 全身清拭 <input type="checkbox"/> 陰部洗浄 <input type="checkbox"/> オムツ交換 <input type="checkbox"/> 寝衣交換 <p><症状・生体機能管理技術></p> <input type="checkbox"/> バイタルサイン測定 <p><感染予防技術></p> <input type="checkbox"/> スタンダードプリコーション <input type="checkbox"/> 手洗い <input type="checkbox"/> 個人防護具の着脱	<input type="checkbox"/> ⑩看護職としての社会人基礎力とは <input type="checkbox"/> 3. コミュニケーションタイプの診断
5月	<input type="checkbox"/> 採血・血糖測定 <input type="checkbox"/> 食事支援・口腔ケア <input type="checkbox"/> 患者確認方法 <input type="checkbox"/> 部署での麻薬・向精神薬の管理	<p><与薬の技術></p> <input type="checkbox"/> アンプル・バイアルからの薬剤の吸い上げ <input type="checkbox"/> 皮下注射 <input type="checkbox"/> インスリン製剤・注射一連 <p><症状・生体機能管理技術></p> <input type="checkbox"/> シリンジ採血 <input type="checkbox"/> 真空管採血 <input type="checkbox"/> 血糖値測定 <input type="checkbox"/> 採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い	<input type="checkbox"/> ②口腔内環境に改善すれば健康に ～口から病気を予防しよう～ <input type="checkbox"/> IV「解剖生理学」と「エビデンス」から採血を学ぶ ～動画で学ぼう～ <input type="checkbox"/> ⑤安心・安全な注射技術を学ぼう ～筋肉・皮下・静脈注射～
6月	<input type="checkbox"/> 静脈注射 <input type="checkbox"/> 点滴静脈内注射 <input type="checkbox"/> 筋肉注射	<p><与薬の技術></p> <input type="checkbox"/> アンプル・バイアルからの薬剤の吸い上げ <input type="checkbox"/> ミキシング、プライミング <input type="checkbox"/> 筋肉内注射 <input type="checkbox"/> 静脈内注射 <input type="checkbox"/> 点滴静脈内注射 <input type="checkbox"/> 三方活栓からの静脈注射 <p><排泄援助技術></p> <input type="checkbox"/> 膀胱内留置カテーテルの挿入 <input type="checkbox"/> 膀胱内留置カテーテルの管理 <input type="checkbox"/> 膀胱内留置カテーテルの抜去	<input type="checkbox"/> 膀胱内留置カテーテルの管理 <input type="checkbox"/> III膀胱留置カテーテル関連尿路感染原因から対策まで <input type="checkbox"/> 1. 新人看護師のための睡眠講座 <input type="checkbox"/> 2. 夜勤の睡眠対策

月	部署内研修内容	ナーシングメソッド (技術チェック項目)	e-ラーニング視聴学習項目
7月	<input type="checkbox"/> 医療安全上の報告(ヒヤリハット・アクシデントの報告) <input type="checkbox"/> 口頭指示についての手順 <input type="checkbox"/> 転倒・転落アセスメントシートの活用	<与薬の技術> <input type="checkbox"/> 輸液ポンプの使用・管理 <input type="checkbox"/> シリンジポンプの使用・管理	<input type="checkbox"/> こんなところで転倒・転落?あなたならどうする ~素早い職対応のために~ <input type="checkbox"/> KYTを実践しよう
8月	<input type="checkbox"/> 酸素吸入 <input type="checkbox"/> 口腔内・鼻腔内吸引 <input type="checkbox"/> 重症度・医療・看護必要度について	<創傷管理技術> <input type="checkbox"/> 褥瘡の予防 <input type="checkbox"/> 褥瘡の予防-摩擦とずれ予防 <呼吸・循環を整える技術> <input type="checkbox"/> 鼻カニューレ酸素吸入 <input type="checkbox"/> 簡易酸素マスク酸素吸入 <input type="checkbox"/> 酸素ボンベからの酸素吸入 <input type="checkbox"/> 口腔内・鼻腔吸引	<input type="checkbox"/> ②褥瘡のサインを見逃すな ~前兆と確認方法、評価方法を理解しよう~ <看護必要度コース> <input type="checkbox"/> I重症度、医療・看護必要度とはにか <input type="checkbox"/> 根拠となる看護記録の書き方 <input type="checkbox"/> ③患者にとっての安全・安楽な排痰・吸引とは
10月			<input type="checkbox"/> ①フィジカルアセスメント運用能力の向上~急変時のフィジカルアセスメント <input type="checkbox"/> ⑩1秒でもはやくあなたが できる急変対応~手技・連絡・応援
令和3年2月		<死亡時のケア> <input type="checkbox"/> 死後のケア	<input type="checkbox"/> 臨死期の看護の看取り ~死にゆく身体の変化と家族の非嘆ケア~

2020年度 看護学校実習受け入れ一覧

学校名	領域	受け入れ先	
福島県立医科大学看護学部	助産学実習	4病棟	
	母性統合実習	4病棟	
	母性実習	4病棟	
	管理実習	全部署	コロナ感染症のため講義のみ
日本赤十字秋田看護大学	統合実習	3B・4・5A・5B・6A・6B病棟	コロナ感染症のため中止
福島看護専門学校	成人Ⅰ	3B病棟	コロナ感染症のため中止
	成人Ⅱ	6B病棟	日程・人数を調整して実施
	成人Ⅲ	3B病棟	日程・人数を調整して実施
	老年Ⅱ	5A・5B病棟	日程・人数を調整して実施
	母性実習	4病棟	人数を調整して実施
	基礎Ⅱ	3B・5A・5B・6B病棟	日程・人数を調整して実施
	見学実習	全部署	コロナ感染症のため中止
	在宅看護	訪問看護ステーション	
国際医療看護福祉大学校	小児看護学	小児科外来	コロナ感染症のため中止
	基礎看護学	3B・5A・5B病棟	
	成人看護学	3B・5A・6B病棟	
	母性看護学	4病棟	コロナ感染症のため中止
東北福祉看護学校	成人統合	3B・5B・6B病棟	コロナ感染症のため中止
	基礎看護学	4病棟	コロナ感染症のため中止
	小児看護学	小児科外来	コロナ感染症のため中止
福島東陵高等学校	母性看護学	4病棟	コロナ感染症のため中止
	小児看護学	小児科外来	コロナ感染症のため中止
福島県立総合衛生学院	在宅看護論	訪問看護ステーション	



27. 検査部

【部長】 田崎 和洋

【技師長】 小林 利美(検査部技師長・臨床検査技師)

【課長】 峯 徹次(臨床検査課長・臨床検査技師・超音波検査士)
酒井 克也(細菌検査課長・臨床検査技師)
根本 浩(病理検査課長 兼 細胞診係長・臨床検査技師・細胞検査士・認定病理検査技師)
佐藤美千子(生理検査課長・臨床検査技師)

【係長】 佐藤 由峰(病理検査係長・臨床検査技師・認定一般検査技師)
大竹 利典(臨床検査係長・臨床検査技師・超音波検査士)
森川 由美(輸血検査係長・臨床検査技師)
中田 悠希(生理検査係長・臨床検査技師)

【臨床検査技師】 八島亜由美、吉田 憲治、相楽 孝行、石川 梓(細胞検査士)、
丹野麻木子、吉田 絢香、菊池麻衣子、齋藤 智美、幕田 高平、
三浦 義喜、安部みなみ、阿部 里奈、植野 桃佳、菅野 和典、
菅野美佐子(細胞検査士)、佐々木一美

【看護師】 佐藤さゆり

【検査助手】 猪狩 利恵、石井美和子、鈴木 美沙

<令和2年度実績>

1. 検査件数

(1)一般検査	入院	5,281件	外来	27,450件
(2)血液検査	入院	37,512件	外来	91,185件
(3)生化学検査	入院	191,820件	外来	597,646件
(4)免疫検査	入院	19,817件	外来	76,372件
(5)微生物検査	入院	3,783件	外来	5,762件
(6)病理検査	入院	2,087件	外来	3,865件
(7)生理検査	入院	2,439件	外来	18,563件

2. 参加学会・研修会名一覧

- (1)甲状腺超音波検査更新実技研修
- (2)東北血管エコーセミナー2020Webセミナー
- (3)第46回血管診療技師認定講習会Web開催
- (4)甲状腺超音波検査更新講習会・実技研修会
- (5)令和2年度肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会Web開催
- (6)新型コロナウイルス感染症の診断を目的としたPCR検査において採取した検体の検査手技の研修(Web研修を含む)

3. 学会・研究会発表

無し

<令和3年度目標>

1. 各学会・研修会への積極的参加・発表
2. 臨床への迅速かつ正確な検査データの提供
3. 臨床・メディカルとの連携強化・チーム医療
4. 認定技師取得を目指す技師へのサポート
5. 検査の効率化とコスト削減

28. 事務部

総務課

【部長】 須藤 浩光

【副部長】 野田 誠(兼 総務課長)

【係長】 富田 夕紀(総務係長 兼 人事係長)、菅野正幸(文書係長)

【主 事】 安田美喜子、村上 尋美

【事務職】 阿部 暁子、廣野 登、吉田 亜樹、横山 碧

【医局・研修医担当】 大原有香梨、川井茉奈美

【委 託】 電話交換室2名(コムネット)
防災センター7名(キョウワプロテック)

【業務内容】総務係・人事係・文書係において以下の業務を担当。

人事・労務、給与、全社的福利厚生、医療安全、感染対策、教育研修、各種委員会及び研修会、職員健診、医局、医師臨床研修、防災・防火対策、災害対策本部事務局、図書、出張、儀式・慶弔、文書管理・処理、駐車場管理運営関係、売店運営関係、委託派遣他各種契約関係、不在者投票、医師会関連、病院群二次救急輪番制、当直、車両運行、医療紛争、病院開設許認可関連の等々、他課に属さない様々な業務を処理するなど多岐を所管。

<令和2年度実績>

1. 人材確保事業

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、全職種において例年通りの学校訪問や会場に参集しての説明会開催ができずオンラインや郵送案内等を中心に、感染対策に工夫を凝らしての人材確保活動を実施。

(1. 看護師)

新型コロナウイルス感染症の院内感染防止対策のため、養成学校訪問や説明会・インターンシップを行わず、病院や看護部の看護体制等を紹介する動画を作成し、ホームページや外部就職ガイダンスの場にて募集活動を実施。併せて学校への募集要項郵送の方法を例年通り実施。【採用25名】

(2. 医療技術職)

薬剤師及び診療放射線技師の募集活動を実施。薬剤、リハビリテーション、放射線、検査、栄養の各部門においては、新型コロナウイルス感染防止対策を施しながら、可能な限り実習及び見

学を受入し人材確保活動を実施。【採用・診療放射線技師1名】

(3. 臨床研修医)

臨床研修プログラム委員会を中心とした、指導医の丁寧な指導教育と多職種研修医教育体制との連携強化により研修医師に対する充実した研修について、新型コロナウイルス感染防止対策として病院説明会・見学会をオンラインにて開催、またオンライン院外ガイダンス等にて紹介し募集活動を実施。【採用8名】

2. 障害者雇用継続確保事業

対象雇用職員の退職により法定雇用率を下回る状況となっており、公共職業安定所・障害者雇用関連事業所等と連携し法定雇用率クリアを目的に人材確保活動継続しながら院内での配置部門や業務の洗い出し等の検討実施。

3. 院内感染対策関係事業

感染対策委員会事務局として感染管理室とともに、新型コロナウイルス感染症への対応業務が年間を通して激増。院外関係機関ならびに院内との連絡調整、対策対応体制の整備、お知らせ案内他の情報共有伝達を適宜実施。

4. 行事、イベント等

(1. 院外)

第56回日赤医学会(開催：近畿ブロック・当番：京都)、第20回全国赤十字スポーツ大会(開催：北海道ブロック・当番：釧路)、第22回東北ブロック赤十字病院球技大会(当番：福島)、にかかる事務連絡調整を担当。令和2年度はすべての広域参集イベントは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

本社指導監査、保健所「病院立入検査」及び東北厚生局「施設基準等に係る適時調査」をはじめ各関係機関検査・調査等にかかる事務全般を担当。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を考慮した書面及びオンラインでの実施に対応。

(2. 院内)

年間を通し多目的ホール他で開催される各種研修、勉強会、講演会の連絡調整、会場設営、運営等への対応を継続的に実施。法定研修を含む各種研修や参集会合等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、書面供覧や院内システム掲示板、マイページを利用したオンラインによる個別方式での開催が主となった。

<令和3年度目標>

- 1) 働き方改革(医師の働き方含む)に向けた労務管理体制の推進・強化
- 2) 適正及び必要な人員の確保・配置・管理
- 3) 所管業務の明文化・システム化・効率化
- 4) 公用文書管理(収受・保管・廃棄)の適正化及び能率化

経営管理課

【課長】 松本 修

【主事】 金子 瑛

<令和2年度実績>

- ・各種統計データ集計、データ分析
(本社報告、自治体報告、病床機能報告、DPCデータ分析など)
- ・診療科・コ・メディカル部門に対する幹部ヒアリング事務、記録
- ・各種加算の施設基準取得に向けた分析、検討
- ・DPC・経営改善委員会の実施
- ・病床稼働率向上、効果的な病床運用に係る分析、調整。病床管理委員会の実施

- ・重点支援病院指定に係る本部との調整、各種報告。経営健全化計画の策定
- ・旧病院解体工事に係る調整、進捗管理
- ・旧病院駐車場の売却に係る方針策定、本部調整、売却手続き
- ・設備投資に係る方針の検討
- ・月次での収支管理
- ・予算策定、資金繰りに関する検討
- ・各種補助金申請に関する事務

<令和3年度経営企画課目標>※経営管理課と企画課が統合

- ・データ分析による課題抽出と経営改善活動の推進及び医療の質向上の検討
- ・収益増加、費用削減等の収支改善に係る施策検討
- ・適正な人員配置の検討、定数の作成
- ・設備投資に係る方針の検討
- ・月次での収支管理
- ・予算策定、資金繰りに関する検討
- ・ホームページ、広報誌、Facebook等による情報発信
- ・病院機能評価受審に係る事務

企画課

【課長】 野地 幸次(兼 医療情報システム課長)

【主事】 葛岡 大輔、奈良輪大輔、佐藤 隆昭、横山 剛

<令和2年度実績>

- ・各種統計データ集計、データ分析
(本社報告、自治体報告、病床機能報告など)
- ・病院ホームページのリニューアル
- ・病院ホームページの管理、病院広報誌の発行及びFacebook等を利用した情報発信
- ・救護訓練参加
 - 1)日赤福島県支部災害救護訓練(7月11日 日赤福島県支部)
 - 2)福島県多数傷病者対応訓練(10月30日 双葉消防管内)
 - 3)日赤第一ブロック支部合同災害救護訓練(11月6日 リモート学習 日赤福島県支部)
 - 4)DMATロジスティクスチーム隊員養成研修(12月19日・20日 オンライン)
 - 5)衛星電話訓練(3月11日 病院)
- ・研修会・会議参加
 - 1)原子力災害時医療中核人材研修(10月7日～9日 福島医大)
 - 2)福島災害医療セミナー2020(10月10日 オンラインセミナー福島医大)
 - 3)日赤第一ブロック支部合同災害医療コーディネーター連絡会議(11月6日 WEB 日赤福島県支部)
 - 4)原子力災害医療派遣チーム研修(11月23日 福島医大)
 - 5)原子力災害医療アドバイザー会議(12月11日 オンライン開催)
 - 6)地域原子力災害医療連携推進協議会(12月14日 福島県庁)
 - 7)原子力災害医療アドバイザー会議(2月17日 オンライン)
- ・災害時等における医療救護の計画・実施に関すること
 - 1)新型コロナウイルス感染症にかかるDMAT隊員派遣
 - ・1月22日～25日 南会津保健所
 - ・2月1日、11日、15日 福島県庁医療調整本部

- ・ 3月5日 二本松市柘記念病院
- ・ 3月8日・9日 郡山市太田西の内病院
- ・ 原子力災害時拠点施設整備に関すること
 - 3月16日 福島県原子力災害時拠点施設整備事業費補助金交付決定通知
 - 6月5日 福島県土木部営繕課と発注方法について打ち合わせ
 - 7月21日 福島県保健福祉部地域医療課と整備計画変更について打ち合わせ
 - 7月22日 設計・監理・整備工事の入札実施(落札者 大和リース株式会社福島支店)
 - 8月24日 原子力災害時拠点施設整備に伴う地盤調査(~26日)
 - 9月23日 標識設置届提出
 - 9月23日 福島市景観条例に基づく事前協議書の提出
 - 9月28日 中高層建築工事申請書の提出
 - 10月14日 建築確認の事前審査実施(東京J建築検査センター)本受付(11/ 3)
 - 11月10日 消防用設備等設置通知書発行
 - 11月19日 福島県営繕課による設計審査実施(12/ 7付 着工OK)
 - 11月30日 建築確認済証発行
 - 12月8日 既存配管切廻し、掘削作業開始
 - 1月4日 基礎工事着手
 - 3月11日 消防・行政検査
 - 3月15日 施主検査、引き渡し
 - 3月23日 建築物補助事業遂行状況・成果確認(福島県)
- ・ 地域福祉活動に関すること
 - 1)学校の職業福祉教育への協力(10月21日 出前講座 福島市立第三小学校 5年生)
 - 2)赤十字講習会への講師派遣と院内開催
 - 7月2日 認知症サポーター養成講座 参加人数20名 派遣講師1名
 - 7月2日 ワンポイント介護講座 参加人数3名 派遣講師1名
 - 8月7日 認知症サポーター養成講座 参加人数16名 派遣講師1名
 - 3)病院ボランティアの活動
 - 令和3年3月31日現在16名の病院ボランティアが活動中
 - 4月14日~7月5日の期間 新型コロナウイルス感染拡大に伴い活動休止
 - 6月30日 ボランティア班長会開催(活動再開について意見交換)
 - 7月27日 入院患者の売店への付添介助も活動に追加
 - 12月16日~12月28日の期間 外来診療休止のため活動休止
 - 1月4日 ボランティア活動再開
 - 4)患者慰問等の受け入れ
 - 5月27日 ANA「すずらん」寄贈
 - 5)イベント等への看護師派遣
 - 8月6日(1名) 福島寿光会病院にて講義「ストーマの管理」と院内ラウンド
 - 11月1日(2名) 福島市新型コロナウイルス感染症対策研修会(PPE装着脱着講習)

<令和3年度目標>

企画課に関すること

事務部組織改編により以下の通り振り分けられる

- ア 業務の総合企画及び連絡調整に関すること。→経営企画課
- イ 広報及び情報の総括的管理に関すること。→経営企画課
- ウ 諸統計及び各種調査に関すること。→経営企画課
- エ 災害時等における医療救護の計画・実施に関すること。→総務課
- オ 原子力災害研修施設に関すること。→総務課
- カ 個人情報保護に関すること。→経営企画課
- キ 地域住民を対象とした生活習慣病教室、健康教室、救急法、水上安全法、健康生活支援講

- 習及び医療講演会等各種保健指導に関すること。→総務課
- ク 国及び地方自治体が行う衛生思想の普及向上のための社会的行事の協力に関すること。
→総務課
- ケ ボランティアの受け入れ等奉仕活動の指導、協力及び連絡調整に関すること。→総務課

医療情報システム課

【課 長】 野地 幸次(兼 企画課長)

【係 長】 二階堂雄平(医療情報システム係長)

【主 事】 奈良輪大輔、佐藤 隆昭、横山 剛

<令和2年度実績>

- ・電子カルテシステム・医事会計システムの更新準備、及び運用ルールの策定
- ・電子カルテシステム改変(正常新生児管理機能追加、電子パス運用開始)
- ・部門システム更新、電子カルテ統合の推進
(内視鏡管理システム、医療用画像管理システム(PACS)、放射線科情報システム(RIS)、線量管理システム、人事給与システム等)
- ・診療・院内業務における課題抽出・改善活動
(マクロ開発による業務効率化、院内業務日誌の開発等)
- ・院内情報の円滑な共有推進のための活動
(システム掲示板の機能拡充、アンケート収集機能、グループウェア構築等)
- ・医療情報システム全般のメンテナンス、障害・QA対応、ウイルス対策や運用改善活動の実施
- ・各種統計データ集計、データ分析
(本社報告、自治体報告、病床機能報告、DPCデータ分析など)

<令和3年度目標>

- ・電子カルテシステム・医事会計システムの更新準備、及び運用ルールの策定
- ・部門システム更新、電子カルテ統合の推進
(病理検査システム、細菌検査システム、生理検査システム、調剤支援システム、服薬指導管理システム、リハビリ部門システム、看護勤務システム、健診システム、診断書作成支援システム、病歴システム、会計システム、固定資産管理システム等)
- ・医療情報システム安定稼働のための、メンテナンス、障害・QA対応、ウイルス対策運用改善活動の実施
- ・医療情報システムデータの分析による課題抽出と経営改善活動の推進及び医療の質向上に向けたデータの分析
- ・『医療情報システムの安全管理に関するガイドライン』に則した医療情報システムの適正な管理の遂行

会計課

【課 長】 吉田 秀雄

【主 事】 阿部 宣子、佐藤恵美子、山名慎一郎

【事務員】 羽田恵津子、大内 裕子

<令和2年度実績>

- 1) 令和元年度度医療施設特別会計決算報告書作成
- 2) 令和2年度医療施設特別会計歳入歳出予算概要書作成
- 3) 令和元年度収益事業決算報告書作成
- 4) 令和元年度消費税収支決算報告書作成
- 5) 令和2年度中の運転資金極度借入手続き及び本社交付書類行使報告
- 6) 令和2年度中の運転資金短期借入金本社承認手続き及び交付書類行使報告
- 7) 令和2年度各運営費補助金及び設備整備事業補助金関係事務処理
 - ・福島県病床確保支援事業補助金
 - ・福島県感染症指定医療機関等外来診療体制支援事業補助金
 - ・福島県新型コロナウイルス感染症患者受入体制強化事業補助金
 - ・福島県新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関設備整備事業補助金
 - ・帰国者・接触者外来等設備整備事業補助金
 - ・福島県医療機関・薬局等における感染拡大防止等支援事業補助金
 - ・救急・周産期・小児医療体制確保事業補助金
 - ・福島市新型コロナウイルス感染症患者に係る受入医療機関特別給付金
 - ・赤十字医療施設新型コロナウイルス感染症医療提供体制整備事業補助金
 - ・福島県新人看護職員研修事業費補助金
 - ・福島県産科医等確保支援事業補助金 他
- 8) 令和2年度事業委託契約に基づく事務処理
 - ・福島県看護職再就業支援研修業務
- 9) 令和2年度財政調整事業資金借入手続き
- 10) 令和2年度固定資産非課税措置適用申請
- 11) 令和2年度法律事務所委託分未収金回収額 720,906円

<令和3年度目標>

「重点支援病院の指定解除」

用度施設課

【課長】 東 一豊

【係長】 池田 久光(用度係長)、濱名 正美(施設係長)

【主事】 菅野八重子

【技術員】 加藤 仁義(電気)

【委託職員(中央監視室技術員)】 5名

<令和2年度実績>

- 1) 電気設備安全維持のため電気設備定期点検及び非常用発電機整備実施
- 2) 診療材料定数削減と価格交渉及び安価材料切替えにより年額約1,000万円(前年度比1%)の削減
- 3) 医薬品の価格交渉により年額約2,800万円の削減
- 4) 施設設備安全維持管理
- 5) 発熱外来設置工事
- 6) 原子力災害時拠点施設建設工事(企画課と共同)

- 7) 新型コロナウイルス感染防止対策で6 A病棟ナースステーション等にビニール間仕切りカーテン設置
- 8) 新型コロナウイルス感染防止対策で空調機器の風量等の確認再調整実施
- 9) 病院から発する騒音対策工事(継続中)
- 10) 4階病棟、新生児室監視用カメラの設置
- 11) 医療用器械備品整備状況

日付	品名	型番	設置場所	備考
02.04.28	キヤノンメディカルシステムズ(株) 超音波診断装置	Aplio i800	生理 検査室	
02.04.28	キヤノンメディカルシステムズ(株) 超音波診断装置	Xario100G	泌尿器科 外来	
02.06.30	アズワン(株) 内視鏡キャビネット	DM-FS-6	内視鏡室	
02.06.30	タカラベルモント(株) 電動診察台	EX-CS2	泌尿器科 外来	
02.07.03	ライカマイクロシステムズ(株) 手術用顕微鏡	Leica M500 OHX	手術室	脳神経外科
02.08.31	チェスト(株) 呼気一酸化窒素測定装置	NIOX VERO	生理 検査室	
02.08.31	PHC(株) ノンフロン薬用冷蔵ショーケース	MPR-S300H-PJ (345L)	薬剤部	
02.09.04	日本光電工業(株) 除細動器	TEC-5631	外来 処置室	
02.09.18	サクラ精機(株) カセット式卓上型高圧蒸気滅菌器	STATIME5000 G4-221005	中央 材料室	
02.09.04	日本ストライカー(株) IVPプログラム	システム8 パワー ツール	手術室	整形外科
02.09.30	テルモ(株) テルフュージョン輸液ポンプ28型	TE-281A	臨床工学 技術課	
02.10.30	(株)島津製作所 移動型CアームX線装置	OPESCOOPE ACTENO	手術室	
02.11.27	キヤノンメディカルシステムズ(株) 超音波診断装置プローブ	PVI-475BX型	生理 検査室	
02.12.09	日本船舶薬品 高性能空気清浄機	ACE-400E	感染 診察室2	コロナ補助
02.12.23	フランス エア・リキードメディ カルシステムズ社 人工呼吸器	Monnal T60	臨床工学 技術課	コロナ補助 2式
02.12.28	フクダ電子(株) ホルター記録器	FM-960	生理 検査室	
02.12.28	フィリップス・ジャパン 人工呼吸器	V60ベンチレーター AT	臨床工学 技術課	新型インフルエ ンザ等医療体制 整備事業
03.01.29	アボットジャパン iSTATアナライザー	4P75-01	新生児室	
03.02.26	日本船舶薬品 セーフティクリーンパーティション	NSCP-03FH(吹出型) NSCP-03KH(吸引型)	感染 診察室2	コロナ補助
03.03.10	フクダ電子(株) 生体情報モニター(6式)	DS-8005N	臨床工学 技術課	コロナ補助
03.03.17	PHILIPS 超音波画像診断装置	EPIQ Elitie 7Diamond Sselect System	生理 検査室	コロナ補助
03.03.18	(株)島津製作所 回診用X線撮影装置	MobileDaRt Evolution MX8S	放射線科部	コロナ補助
03.03.31	アークレイ 遺伝子解析装置	IS-5320	検査室	

03.03.31	富士レビオ 化学発光酵素免疫測定装置ルミパルス	G1200Plus	検査室	
----------	----------------------------	-----------	-----	--

<令和3年度目標>

- 1) 省エネルギー推進によるエネルギー使用量前年度比1%削減
- 2) 感染性医療廃棄物排出量前年度比1%削減
- 3) 診療材料費の前年度比1%削減
- 4) 医薬品費の価格交渉による前年度比1%削減
- 5) エネルギー施設設備の無事故運転維持管理推進及び建物設備の適宜修理と迅速対応
- 6) 診療材料、一般消耗物品等の在庫適正管理
- 7) 病院竣工後2年次点検実施により、不具合箇所の是正を適正に行う
- 8) 病院から発する騒音対策工事
- 9) 電力購入単価削減推進、維持点検費用の削減推進

医事課

【課長】 菊田 基晴(兼 診療支援副室長)

【係長】 阿部 育子(医事係長 兼 診療情報管理係長)
 金原 昭世(入院係長)
 野地 美佳(外来係長)
 斎藤 智浩(患者サービス推進室長 兼 病歴管理係長)

【主事】 渡辺 源貴、穴澤 詩織、渡邊 千尋、加藤 菜月、芳賀沙耶加

【事務員】 志田 沙織、芳賀 瑞樹、鈴木奈美子、佐藤 郁美、佐々木萌乃

【委託職員】 入院4名 外来20名 医事20名

<令和2年度実績>

1. 令和2年度診療報酬改定に関わる情報収集を行い、新規施設基準の取得、変更点への対応を行った。
2. 適切な保険請求を実施し、査定額・返戻額の削減を行った。
3. 「DPC導入の影響評価にかかる調査」のデータをより正確に遅滞なく提出できた。
4. 令和2年9月23日(1回目)、令和3年3月5日(2回目)に、院内共有サイト・マイページによる「保険診療に関する研修会」を開催した。
5. 新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取り扱いの情報収集、対策策定、運営。
6. 新型コロナウイルス感染症に係る、外来業務変動への対応。

<令和3年度目標>

1. 診療報酬の適切な請求に努め、査定額・返戻額の削減に努める。
2. 「DPC導入の影響評価にかかる調査」のデータをより正確に遅滞なく提出する。
3. 東北厚生局による適時調査の適切な対応を行う。
4. 令和4年度診療報酬改定に関わる情報収集を行い、新規施設基準の取得、変更点への対応を行う。

【健診センター長】 寺島久美子

【健診課長】 阿部 美幸

【保健師】 渡辺 由佳、赤間 由美、舟山 由美

【看護師】 残間 恵理

【事務員】 渡辺真奈美、美野 陽子、松本 栄子、渡邊 幸子

<令和2年度実績>

1. 健診実績

	2019年度	2020年度	前年度比
人間ドック	332名	325名	△7名
政府管掌(一般・付加)	1,012名	934名	△78名
福島市民検診	652名	509名	△143名
一般健診	503名	551名	48名
健康診断	1,158名	1,148名	△10名
特定健診	383名	338名	△45名
その他	225名	197名	△28名
健診件数合計	4,265名	4,002名	△263名
健診収益	88,009,270円	76,386,254円	△11,623,016円

2. 保健指導実績

	2019年度	2020年度	前年度比
保健指導 人数	354名	441名	87名
収益	2,396,192円	3,673,381円	1,277,189円

3. 放射線内部被ばく検査・甲状腺検査実績

	2019年度	2020年度	前年度比
放射線内部被ばく検査 人数	30名	11名	△19名
収益	75,000円	51,000円	△24,000円
甲状腺検査 人数	103名	62名	△41名
収益	904,554円	537,416円	△367,138円

2020年度は新型コロナウイルス感染防止のため、4月から肺機能検査は中止した。また感染拡大時には状況に応じて胃内視鏡検査中止、外来診療中止時には健診業務も中止となり、健診者への連絡や日程調整等の業務に追われた。また、収益は大幅に減収となった。新型コロナウイルス関連問診票を随時変更して受診の可否を判断し感染防止対策を徹底した。

<令和3年度目標>

1. 収益アップと経費削減を図る

- (1) 健診着クリーニング代及び不織布スリッパ代の削減
- (2) 郵送コスト削減
- (3) コピー用紙・コピー代の削減
- (4) 予約枠を最大限に活用し健診数を増やす
- (5) 新規契約を獲得する

- (6)乳がん検診数を増やす(マンモグラフィの視触診が廃止となり医師の診察不要、女性放射線技師が増えマンモグラフィ撮影数を増加することが可能)
- (7)職員のABC検診受診を勧奨する
- (8)保健指導件数を増やす
- 2. 業務の見直しと効率化
 - (1)市民検診予約受付方法の変更
 - (2)業務マニュアルの作成
- 3. 環境整備とサービス向上
 - (1)人間ドック受診者サービス
 - (2)待合室の環境整備
 - (3)接遇の向上を図りリピーターを増やしていく
 - (4)待ち時間短縮
- 4. スタッフの能力向上と部署の活性化
 - (1)定期的に勉強会やカンファレンスを開催する
 - (2)保健師の教育プログラムを作成する
- 5. 職員の健康管理
 - (1)2022年度から総務課が担当している職員健診を健診センターで引き受けるための前準備として、健診後のフォローや精査・受診勧奨後の実施状況等を把握し職員の健康管理の充実を図っていく。

患者サービス推進室

【室長】 齋藤 智浩(兼 病歴管理係長)

<令和2年度実績>

- 1. 患者相談室一次対応者会議開催(12回)
- 2. 患者対応相談員カンファレンス開催(32回)
- 3. 患者相談対応件数(67件)
- 4. 診療記録等開示件数(32件)
- 5. 顧客サービス広報委員会開催(12回)
- 6. 医療従事者負担軽減対策委員会開催(3回)

<令和3年度目標>

- 1. 親しまれる病院となるよう、患者さんと病院の橋渡しとして、患者さんに接したい。
- 2. 患者さんの相談に耳を傾け、病院(職員)に抱いていた誤解や負のイメージを解消できるよう努めたい。
- 3. クレームの対象とされた職員への精神的フォロー等に心掛けたい。
- 4. クレーマーのレッテルを張られた患者さんに“(自分は病院からクレーマーとみられていることを)自覚”させ、言動を改善してもらうよう促していきたい。
- 5. 診療記録等の開示は、申請日から2週間以内を目指す。



29. 医療安全推進室

【医療安全推進室長】 鈴木 恭一(副院長)

【医療安全管理者】 齋藤 明子(看護師長)

【医療安全推進室員】 鈴木 佳子(看護副部長)、川村 早苗(薬剤部病棟業務課長)
 峯 徹次(生理検査課長)、橋本 健一(臨床工学技術課長)
 野田 誠(事務副部長 兼 総務課長)

<令和2年度実績>

1. 医療安全研修

1) BLS研修(看護職対象)16回開催

令和2年：7/9 7/30 8/13 8/27 9/10 9/24 10/8 10/22
 11/12 11/26 12/10

令和3年：2/17 2/18 2/25 3/11 3/25

参加人数：277名

2) 「患者誤認防止対策」動画視聴

※医療安全推進委員会の患者誤認防止対策チームが作成した動画をマイページで発信

参加人数：565名

3) QCサークル活動報告発表

※QCサークル活動報告のパワーポイント資料をマイページで発信

参加人数：552名

2. QCサークル活動

実施月日	項目
6月9日	QCサークル活動キックオフ
7月17日	活動計画書提出
10月30日	中間報告書提出
1月29日	発表USB提出
3月3日	マイページにて全職員、委託職員に発信

3. 医療安全対策及び医療安全推進室の活動

実施月	項目	対策等の活動内容
通年	医療安全推進室メンバーによる安全ラウンド	医療安全ラウンド、医薬品・医療機器安全ラウンド及びヒヤリハット・アクシデント発生時のラウンドを実施する。
通年	医療安全研修について	新型コロナウイルス感染防止のために動画による研修を企画
通年	医療安全推進室カンファレンス	毎週木曜日に前週1週間に報告のあった事例について分析して対策を検討
通年	医療安全推進委員会ワーキンググループ活動開始	①患者誤認防止対策チーム ②転倒転落防止対策チーム ③薬剤管理安全対策チーム 昨年同様、医療安全推進室メンバーがリーダーとなり3チームで活動開始
6月	輸血後感染症検査セットにHIV抗体を追加	「輸血療法の実施に関する指針」の一部改正で、輸血後感染症検査にHIV抗体検査が追加になったため、同意書を作成した。

7月	院内急変対応に向けて	①院内急変対応プロトコル作成 ②救急カート内にアミオダロン2A、5%グルコース20ml1Aを配置 ③看護職対象のBLS研修開催
9月	経腸栄養分野誤接続防止のコネクター導入	経腸栄養分野誤接続防止対策の院内周知、新しい医療材料のデモ品を各部署に回覧、職員向けに使用上の注意点について動画を配信した。 年度内にEDチューブ、EDパック、シリンジ類は新しい製品に更新。 外来通院中の患者への説明等、次年度にも引き続き行っていく。

<令和3年度目標>

1. 医療安全ラウンド
 - 1) 医薬品・医療機器安全ラウンド・コ・メディカル部門安全ラウンド・医療安全環境ラウンド・転倒ラウンド等、院内各部署のラウンドを実施する。
 - 2) ラウンド結果は各部署にフィードバックし必要時改善計画書の提出を求める。
 - 3) ヒヤリハット・アクシデント事例発生時には随時ラウンドを実施する。
2. 医療安全研修会開催
 - 1) 全職員対象の研修はマイページを利用した動画発信で行い受講率アップを図る
 - 2) 昨年度は看護職対象のBLS研修を実施。今年度はコ・メディカル及び事務職対象のBLS研修を実施して、急変対応に備える。
 - 3) 受講回数0回～1回の職員に対してレポート提出を課す。
3. 医療安全推進室カンファレンス開催

毎週木曜日に、前週に発生したヒヤリハット・アクシデント事例について分析と対策立案を行う。
4. 医療安全地域連携の相互評価を実施して当院の安全対策向上に努める
5. QCサークル活動の推進

30. 感染管理室

【室 長】 管野 隆三(呼吸器外科部長)

【室 員】 吉田 和恵(感染制御実践看護師、看護係長)

1. 研修会開催
 - 1) 院内感染研修

実施月日	対象者		テーマ	参加人数
4月3日	新人入職者(医師、看護師、薬剤師、事務等)		感染管理の基本～標準予防策～	33名
8月20日 9月20日	全職員	第1回	新型コロナウイルス感染症対策PPE着脱方法	536名
R3年 2月24日 3月9日	全職員	第2回	「コロナウイルス軽症、中等症診療の現状」 「感染の基本」	533名
	医療職種職員	第3回	抗菌薬の適正使用について(基本編・応用編)	200名

- 2) 看護助手への感染研修
- 3) 中途採用者への感染研修

2. 感染対策(感染管理室及びICTの活動)

実施月	項目	対策などの活動内容
通年	感染対策マニュアルの改訂	4項目改訂 ・食中毒の改訂 ・福島赤十字病院感染対策に関する組織図の改訂 ・福島赤十字病院感染対策に関する機能図 ・病原体別感染対策
通年	耐性菌サーベイランス	JANIS(全入院患者部門、検査部門)
通年	院内感染対策委員会議事録の掲示	12回 電子カルテに提示
通年	ICTラウンド	50回 目的別ラウンドを実施 (抗菌薬・耐性菌・環境ラウンドなど)
通年	感染研修の実施	感染研修一覧参照
通年	職業感染防止 (ワクチン接種)	HBVワクチン、麻疹・風疹・水痘・ムンプス、インフルエンザ
通年	合同カンファレンス	4回開催(わたり病院、第一病院)
通年	相互評価	2回開催(藤田病院)
通年	結核接触者調査	結核届出数5件 職員の接触者調査対象者、患者の対象者なし
通年	保健所へ感染届提出	発生届13件(結核届を除く)
通年	院内感染対策事例対応	12件
通年	福島県新型コロナウイルス感染症対策会議	Web 12回
R 2年1月	新型インフルエンザ等患者受入訓練	県北保健所、福島市保健所、県北地域病院、消防署等との訓練。受け入れ訓練にあたり動画作成(診察、検査、入院受け入れ)
2月	新型コロナウイルス感染症陽性患者受入	PPE着脱訓練、6A病棟入院受け入れ準備、ゾーニング実施
5月	新型コロナウイルス感染症陽性患者受入	マニュアル作成
6月	新型コロナウイルス感染症対策	PPE着脱方法の動画作成
12月	新型コロナウイルス感染症院内クラスター対応	県感染症対策支援チーム、保健所、院内感染対策委員会中心で対応 PPE着脱、PCR検査スケジュール作成と実施

<令和3年度目標>

1. 新型コロナウイルス感染症における院内感染防止
 - 1) 標準予防策の徹底
2. 効果的に感染研修を開催する
参加者の知識や認知度に沿った内容の研修を企画し実施する。
3. 感染対策加算に係る合同カンファレンス、相互ラウンドの実施
4. ICT活動を通じて感染対策の充実を図る
 - 1) ICT会議、目的別ラウンドを週1回開催する。
 - (1) 耐性菌サーベイランスのフィードバック方法を見直し オーダリングの活用
 - (2) 接触予防策ラウンド等の指導項目が改善される
 - (3) 手術部位感染(SSI)サーベイランスを継続し、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)開始し、関連部門へのフィードバックができる
5. 抗菌薬適正使用支援チーム活動の活発化
 - (1) 届出抗菌薬投与患者ラウンドの定期的な実施(1回/週)
 - (2) 投与患者に対し効果的な各種培養検査を推奨
 - (3) 抗菌薬適正使用関連感染研修の開催(2回/年)



31. 診療支援室

【副室長】 菊田 基晴(兼 医事課長)

【係長】 高田日出子(診療支援係長)

【事務員】 樋口 由紀、大橋 千春、山岸 優子、菅野 香子、鈴木 幸子、木村 仁美、
太田美穂子、齋藤 有沙、根本 美穂、松川いつか、井上 希美、鈴木かおり、
金子由香里、八巻 千恵、鈴木 由美、須永万里子、窪田 順子

<令和2年度実績>

- 1)「入院総括」作成率向上に貢献。
- 2)「実施済注射伝票」入力支援。
- 3)「紹介状」入力支援。
- 4)外来診察代行入力支援(循環器内科、眼科、リウマチ膠原病内科)
- 5)問診票入力支援(内科、消化器内科、糖尿病代謝内科)
- 6)指導料・管理料代行入力支援
- 7)文書作成支援
- 8)返書作成支援
- 9)予約入院パス代行入力支援
- 10)NCD等調査支援
- 11)福島県循環器疾患発症登録(心筋梗塞、急性死、脳卒中)支援
- 12)JND症例登録支援
- 13)JOANR登録支援
- 14)がん登録

<令和3年度目標>

- 1)上記1)～14)を継続し医師の負担軽減に努める。
- 2)医師事務作業補助体制加算20対1の維持に努める(令和3年7月より算定)



32. 地域医療連携室

【室長】 田畑 友子

地域医療連携係

【係長】 伊藤 和子(地域医療連携係長)

【社会福祉士】 松田千絵美、助川智恵子

【事務員】 高田 淳子

<令和2年度実績>

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、611の医療機関等より総数9,049件(前年度比-1,613)

件)の紹介があり、そのうち地域医療支援病院としての紹介率算定対象である初診の紹介件数は5,989件(前年度比-1,267件)と減少したが、紹介率は98.5%と高い率を維持した。また、逆紹介については、565の医療機関等へ総数6,651件(-1,016件)を逆紹介しており、逆紹介率は109.4%であった。月毎にみると4~5月、12月の紹介数が激減したが、紹介率・逆紹介率はともに地域医療支援病院の基準値を上回っており、安定した数値で経過している。紹介・逆紹介数上位の医療機関は下記の通りである。

紹介			逆紹介		
1	福島県立医科大学附属病院	575件	1	福島県立医科大学附属病院	772件
2	わたり病院	225件	2	わたり病院	367件
3	福島県保健衛生協会(二次検診)	221件	3	北福島医療センター	279件
3	北福島医療センター	173件	4	大原綜合病院	213件
5	きっかわ皮膚科	171件	5	あづま脳神経外科病院	178件
6	大原綜合病院	170件	6	厚生会クリニック	152件
7	県労働保健センター(二次検診)	134件	7	みみ・はな・のど まついクリニック	139件
7	うめつLS内科クリニック	130件	7	公立藤田綜合病院	133件
9	公立藤田綜合病院	123件	9	保原中央クリニック	122件
10	みみ・はな・のど まついクリニック	117件	9	大原医療センター	119件
11	桑名医院	103件	11	南東北福島病院	115件
12	やざわみほこレディースクリニック	102件	12	済生会福島綜合病院	111件

共同利用については、CTは6医療機関より計112件(前年度比-51件)、MRIは13医療機関より計130件(-38件)、脳波は5医療機関より38件(+5件)、関節エコーは1医療機関より21件(-11件)、骨塩定量は3医療機関より12件(+7件)、神経伝導速度測定は2医療機関より8件(-5件)であった。レントゲン単純撮影と乳房撮影の利用はなかった。CT・MRI共同利用の上位の医療機関は下記の通りである。

CT			MRI		
1	さくま内科クリニック	68件	1	わたり病院	37件
2	村上耳鼻科	28件	2	ライフ・ナビクリニック	28件
3	スリープ呼吸器内科クリニック	12件	3	後藤整形外科	25件
3	いがり弘之由美子クリニック	2件	4	西口クリニック婦人科	18件
5	さとう日出夫整形外科	1件	5	いわた整形外科	6件

地域医療従事者研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年通りには行うことができなかった。(福島県地域医療課に確認し、施設基準である12回/年は開催できなくても良いとの確認済み。)8/25には薬剤部による「化学療法レジメン研修会」を調剤薬局の薬剤師40名に参加していただき開催できた。しかし、オンラインにて11/28に「感染防護具の着脱方法について」を介護施設等9施設に参加していただいた以外は、「輸血製剤の取り扱いについて」の研修会も医療機関へ案内したが、参加はなかった。

<令和3年度目標>

1. 地域医療支援病院としての役割を果たす。
 - ①安定した紹介率・逆紹介率を維持する。
 - ②研修会を開催し、地域の医療のレベルアップに寄与する。
 - ③地域医療支援委員会を開催し、地域の中での当院の課題を明らかにして対応に生かす。
 - ④近隣医療機関へのアンケート調査を行い、当院へのニーズを明確にする。
2. 紹介患者のスムーズな受け入れに心がける。
 - ①近隣医療機関への協力を依頼し、可能な限り予約での来院をうながす。
 - ②即日診療依頼の不应需数を減少させる。
3. 感染予防には十分注意し、予約受付を行う。

- ①紹介元医療機関へ問診票記入の協力を依頼する。
- ②電話対応時にも感染症の可能性について注意して聞き取り、外来師長との連携を図る。

退院支援係・医療福祉係

【係 長】 高根 晴美(退院支援係長・看護係長 退院支援担当)
菅野 直樹(医療福祉係長 精神保健福祉士 認知症疾患医療センター担当)

【看護 師】 佐藤美智子(退院支援担当)

【社会福祉士】 丸山 絢子(退院支援担当)
岡崎 美紀(退院支援担当)
高橋 絵美(退院支援担当)
渡邊 真衣(医療相談・患者サポート窓口担当)

<令和2年度実績>

患者の抱えている問題に対して相談員が対応した件数は下記の通りであった。新型コロナウイルス感染症の影響で入院患者数の減少に伴い、相談支援件数は前年度より全体的に減少した。退院支援においては、高齢・独居に加え認知症や悪性疾患等多問題のために退院を困難にしている入院患者が増加している。さらに感染予防対策による面会制限により家族が患者の回復経過が実感できないことや退院指導に時間がかげられないことも加わり、さらに退院困難となることがあった。問題解決のために、院内多職種との協働、また地域の医療機関・福祉・介護スタッフとの連携を深め、合同カンファレンスの開催等は可能な限り行ってきた。

相談室スタッフにおいては看護職と福祉職をチーム制とし協力し合うことで、得意分野を生かし、不得意分野を補い合える体制としている。

対応ケース実人数・・・2,126名(延べ相談件数7,045件)

* 主な相談援助調整内容・・・

在宅介護・地域生活に関すること 3,835件
転院に関すること(医療機関) 1,830件
他施設利用に関すること(医療機関以外) 690件
福祉関係法利用に関すること 291件
受診・受療に関すること 148件
その他(経済的・心理的等の相談への対応) 251件

* 退院に関するもの・・・他の病院転院 557件
(連携パス利用：脳卒中133件 大腿骨頸部骨折97件)

施設入所 222件
自宅退院 491件

* 在宅スタッフとの合同カンファレンス・・・199回

<令和3年度目標>

1. ていねいな面接と院内他職種との協働、地域の関係医療・福祉・介護スタッフとの連携に心がける。(常に患者の「生活」を柱に支援する。)

入退院支援センター

【看護 師】 富田 仁子(地域医療連携室所属看護師長)
伊藤美津子(看護部所属看護師長)

【事 務】 ニチイスタッフ

<令和2年度実績>

入院が必要になった患者が安心して治療を受けながら入院生活を送ることができるよう支援することを目的としている。看護師が中心となり看護面談を行って患者情報を取得し、必要時には薬剤師やMSW等他職種との連携を図ることで、入院が予定された時から退院後の療養生活を見据えて必要な支援を早期に開始することができる。それにより、患者が一日も早く健康を回復し、住み慣れた生活の場に戻ることができることを目指している。また、事務担当者は、入院日までに必要な手続きや書類等についての説明を行い、準備をスムーズに行うことができるように支援している。入院当日は当センターに来室し、書類の確認の後に病棟からの迎えを待つが、入院前に関わりを持ったスタッフが迎えることで、患者の安心感につながるのではないかと考える。

看護面談対象患者は、予約入院患者とし、あらかじめ予定して行った件数が1,042件、外来からの依頼当日に行った件数が875件であった。

<令和3年度目標>

1. 患者が、入院後の治療・療養生活をイメージでき、安心して入院当日を迎えることができるようにする。
2. 入院前から退院後の生活を見据えた必要な支援につなげることができるようにする。

33. 福島赤十字訪問看護ステーション

【所 長】 齋藤 泉(兼 看護部看護係長)

【看 護 師】 高橋美千代、中村 広子、安田みどり、黒沢真由美

<令和2年度実績>

地域包括ケアシステムの構築推進により、在宅医療・介護の提供が求められている。平成30年度より新規利用者数は年間60名前後で推移し、増加傾向である。令和2年度の新規利用者数は67名で、そのうち母体病院からの紹介・主治医の利用者は66%となっている。新規利用者の疾患は多様性であった。一方で、在宅看取数は25人(前年度より3人減)であった。利用者の心身の状況に応じて24時間体制での適切な看護の提供が求められたため、スタッフ間での情報共有を密に行い看護の提供を実施した。また、利用者の療養支援の充実が図れるよう、地域医療連携や介護支援事業所連携に努め、訪問時の利用者状況等情報共有を行った。新規利用相談時に、地域医療機関や介護支援事業者より、当ステーションの指名をいただくこともあり信頼関係の構築はできている。

事業収益に関しては、35,661,540円で前年比マイナス10%で減収している。訪問1件あたりの平均単価が高い医療保険での介入が全利用者数の20%程度であること、コロナウイルス感染症のため退院時に付加できる加算が減少したことが要因にあると考える。医療処置が必要な利用者は減少傾向にあるため、癌末期や難病疾患・精神科訪問看護の受け入れを増やしていく必要がある。

<令和3年度目標>

- 1) 利用者の療養生活に合わせた療養支援の充実を図る。

令和3年度介護報酬改定に添い業務修正を行っていく。

昨年度より退院支援会議や地域ケア会議の開催ができなくなっている現状がある。部署内でのカンファレンスを充実させ、看護の提供につなげていく。また在宅看取利用者を積極的に受け入れ、本人の意思を尊重した看護提供を実施する。療養支援の充実を図るために、令和3年度は意思決定支援に関する部署内研修と認知症への対応能力向上のための研修をすすめていく。

2)実施した看護を可視化し評価、実践する。

ケースカンファレンスを通し、実践した支援の評価を行いPDCAサイクルを強化しスタッフ個々の実践能力強化を図る。

3)地域連携強化。

地域ケア会議に参加し、地域多職種との情報共有を行い連携する。今まで構築された信頼関係を継続し、新規利用者の獲得につなげる。

4)感染症対策の徹底

病院との連携を図り感染対策を徹底し、訪問を行う。自己の体調管理をしっかり行い、利用者に必要なサービスの提供を行えるようにする。

V

会議・委員会活動

1. 会議…………… 133
2. 病院運営に関する委員会…………… 137
3. 医療安全管理に関する委員会…………… 144
4. 診療に関する委員会…………… 150
5. 教育・研究に関する委員会…………… 156
6. 労務及び安全管理に関する委員会…………… 157

会議及び委員会一覧

令和2年4月現在

区分	1 幹部会議		2 経営会議		3 病院管理会議		4 業務連絡会議	
	院長	渡部 洋一	院長	渡部 洋一	医局長・外科部長 主任部長	遠藤 豪一	(議長)副院長 大和 田尊之	副院長 鈴木 恭一
委員長 副委員長	副院長	鈴木 恭一 大和 田尊之	副院長	鈴木 恭一 大和 田尊之	外科部長 主任部長	遠藤 豪一	院長	渡部 洋一 遠藤 豪一
	副院長	特別院長補佐 院長補佐 耳鼻咽喉科部長 院長補佐 呼吸器外科部長 呼吸器内科部長 内科部主任部長	特別院長補佐 院長補佐 耳鼻咽喉科部長 院長補佐 呼吸器外科部長 呼吸器内科部長 内科部主任部長	特別院長補佐 院長補佐 耳鼻咽喉科部長 院長補佐 呼吸器外科部長 呼吸器内科部長 内科部主任部長	外科部長 血管外科部長 心臓外科部長 呼吸器外科部長 整形外科部長 脳神経外科部長 検査部長 皮膚科部長 産婦人科部長	大須賀文彦 安藤 精一 籠島 彰人 菅野 隆三 村上 和也 市川 剛 田崎 和洋 元木 良和 矢澤 浩之	医局長・外科部 主任部長	多田 靖宏 藤森 春生 山田 文子 浅井 笑子 菊田 学 出羽 明子 今野 修
委員	看護部長	會澤 英子	看護部長 看護副部長	會澤 英子 鈴木 佳子	看護部長 看護副部長	鈴木 恭一 大和 田尊之	看護部長 看護副部長 医療安全管理者	會澤 英子 鈴木 佳子 齋藤 明子
	【看護部】	看護部長 看護副部長	看護部長 看護副部長	看護部長 看護副部長	看護部長 看護副部長	鈴木 恭一 大和 田尊之	看護部長 看護副部長 医療安全管理者	會澤 英子 鈴木 佳子 齋藤 明子
【コ・メディカル】	薬利部長	我妻 禎	薬利部長 放射線科部技師長 検査部技師長	我妻 禎 佐藤 勝利 小林 利美	薬利部長 放射線科部技師長 検査部技師長	大室 祐司 我妻 禎 菊地 利恵 橋本 健一 小林 利美 佐藤 勝利	第1リハビリ テーション係長 薬剤部長 第1栄養係長 臨床工学技術課長 検査部技師長 放射線科部技師長	大室 祐司 我妻 禎 菊地 利恵 橋本 健一 小林 利美 佐藤 勝利
	事務部長	須藤 浩光	事務部長 事務副部長 兼総務課長 経営管理課長 会計課長 企画課長兼医療 情報システム課長 用度施設課長 医事課長兼診療 支援室副室長 院長補佐 地域 医療連携室長	須藤 浩光 野田 誠 松本 修 吉田 秀雄 野地 幸次 東 一豊 菊田 基晴 齋藤 智浩	事務部長 事務副部長 兼総務課長 経営管理課長 会計課長 企画課長兼医療 情報システム課長 用度施設課長 医事課長兼診療 支援室副室長 院長補佐 地域 医療連携室長	田畑 友子 阿部 美幸	地域医療連携室長 事務部付課長兼患者 サービス推進室長 医療情報システム課 長 医療情報システム係長	須藤 浩光 野田 誠 野地 幸次 松本 修 吉田 秀雄 東 一豊 菊田 基晴 阿部 美幸
【外部委員】	事務副部長兼総務課長	野田 誠	事務副部長 兼総務課長	野田 誠	地域医療連携室長 健診課長	田畑 友子 阿部 美幸	事務副部長 事務部付課長兼患者 サービス推進室長 医療情報システム課 長 医療情報システム係長	野田 誠 野地 幸次 松本 修 吉田 秀雄 東 一豊 菊田 基晴 阿部 美幸
【幹事】	事務副部長兼総務課長	野田 誠	事務副部長 兼総務課長	野田 誠	地域医療連携室長 健診課長	田畑 友子 阿部 美幸	事務副部長 事務部付課長兼患者 サービス推進室長 医療情報システム課 長 医療情報システム係長	野田 誠 野地 幸次 松本 修 吉田 秀雄 東 一豊 菊田 基晴 阿部 美幸

区分	5 倫理委員会	6 治験審査委員会	7 医療機織整備委員会	8 栄養管理委員会	9 診療材料購入等審議委員会	10 災害対策委員会	11 医療情報システム統括委員会
委員長	鈴木 恭一 副院長	大和田尊之 副院長	大和田尊之 院長	波部 洋一 院長	大和田尊之 副院長	遠藤 豪一 外科部主任部長	耳鼻咽喉科部長 多田 靖宏
副委員長	今野 修 特任院長補佐	菅野 隆三 呼吸器外科部長	波部 須藤 浩光 事務部長	波部 研一 泌尿器・代謝内科 部長	大須賀文彦 外科部長	渡部 研一 循環器内科部長 脳神経内科部長 脳神経外科部長	循環器内科部長 野地 幸次 企画課長兼医療情報システム課長 菅野 隆三 呼吸器外科部長 皮膚科部長 山田 文子 眼科部長 黒田 聖仁 消化器科部長 佐藤 義憲 糖尿病・代謝内科 部長 遠藤 豪一 外科部主任部長 リウマチ・膠原病 内科部長 藤森 春生 精神科部長 注 祐一郎 小児科部長 安藤 法義 血管外科部長 整形外科部長 脳神経外科部長 市川 剛 脳神経内科部長 中村耕一郎 形成外科部長 矢井 実子 産婦人科部長 出羽 明子 麻酔科部長 田崎 和浩 検査部長 鈴木 佳子 看護副部長
委員	鈴木 英子 看護部長	鈴木 佳子 看護副部長	鈴木 健一 臨床工学技術部長	安達 明美 看護師長 (5A病棟) 摂食嚥下認定看護師	國分 花子 看護師長 (手術室) 看護師長	渡邊あゆみ 看護部長	緑上 淳一 薬品管理課長 酒井 亮 薬剤師 吉田 憲治 検査部長 吉田 憲治 臨床検査技師 相澤 吉樹 第1放射線技術課長 川瀬ゆかり リハビリテーション科 第1栄養係長 菊地 利恵 臨床工学技術課長 橋本 健一 医事課長兼診療 支援室副室長 齋藤 智浩 専務部付課長兼患者 サービス推進室長 金原 昭世 入院係長 久澤 詩織 医事課主事 伊藤 和子 地域医療連携係長 診療支援係長 高田日出子 二チイ学術マネージャー 佐藤 衣子
【医局】							
【看護部】							
【コ・メディカル】							
【事務部】							
【外部委員】							
【幹事】							

区分	12 地域医療連携推進運営委員会	13 病床管理委員会	14 診療報酬適正化委員会	15 薬事委員会	16 顧客サービス・広報委員会	17 個人情報保護委員会	18 省エネルギー推進委員会
委員長	院長 波部 洋一	副院長 大和田尊之	消化器内科部長 黒田 聖仁	薬剤部長 我妻 穂	事務部長 須藤 浩光	事務部長 須藤 浩光	副院長 大和田尊之
副委員長	地域医療連携室長 田畑 友子	看護副部長 黒田 佳子	外科部長 遠藤 豪一	消化器内科部長 黒田 聖仁	医局長(5A病棟) 遠藤 豪一	看護部長 須藤 浩光	事務部長 須藤 浩光
【医局】	副院長 大和田尊之	消化器内科部長 黒田 佳子	リウマチ膠原病 内科部長 宮田 昌之	糖尿病・代謝内科 部長 佐藤 義憲	耳鼻咽喉科部長 多田 靖宏	医局長・外科部 主任部長 遠藤 豪一	外科部主任部長 遠藤 豪一
委員	外科部主任部長 黒田 聖仁	消化器外科部長 菅野 隆三	皮膚科部長 元木 良和	整形外科部長 村上 和也	眼科部長 山田 文子	看護部長 會澤 英子	看護部長 車田 真美
【看護部】	消化器内科部長 黒田 聖仁	呼吸器外科部長 菅野 隆三	脳神経外科部長 市川 剛	皮膚科部長 元木 良和	看護部長 會澤 英子	看護部長(外来) 黒田 聖仁	看護部長(外来) 黒田 聖仁
【コ・ス・アイカド】	消化器内科部長 黒田 聖仁	呼吸器外科部長 菅野 隆三	脳神経外科部長 市川 剛	皮膚科部長 元木 良和	看護部長 會澤 英子	看護部長(外来) 黒田 聖仁	看護部長(外来) 黒田 聖仁
【事務部】	消化器内科部長 黒田 聖仁	呼吸器外科部長 菅野 隆三	脳神経外科部長 市川 剛	皮膚科部長 元木 良和	看護部長 會澤 英子	看護部長(外来) 黒田 聖仁	看護部長(外来) 黒田 聖仁
【外部委員】	消化器内科部長 黒田 聖仁	呼吸器外科部長 菅野 隆三	脳神経外科部長 市川 剛	皮膚科部長 元木 良和	看護部長 會澤 英子	看護部長(外来) 黒田 聖仁	看護部長(外来) 黒田 聖仁
【幹事】	消化器内科部長 黒田 聖仁	呼吸器外科部長 菅野 隆三	脳神経外科部長 市川 剛	皮膚科部長 元木 良和	看護部長 會澤 英子	看護部長(外来) 黒田 聖仁	看護部長(外来) 黒田 聖仁

区分	19 医療安全管理委員会 院長 渡部 洋一 副院長(兼)医療安全管理推進室長 鈴木 恭一 事務部長 須藤 浩光 副院長 大和田尊之 外科部主任部長 遠藤 豪一	20 医療事故調査委員会 副院長(兼)医療安全管理推進室長 鈴木 恭一 事務部長 須藤 浩光 副院長 大和田尊之	21 医療安全推進委員会 阪本 貴之 齋藤 明子 渡部 友来 佐々木裕哉 古川 義浩	22 院内感染対策委員会 院長 渡部 洋一 管野 隆三 呼吸器外科部長 菅野 隆三 糖尿病・代謝科部長 佐藤 義憲 検査部長 田崎 和洋 脳神経内科部長 中村耕一郎 小児科部医師 辻 祐一郎	23 医療従事者負担軽減対策委員会 院長 渡部 洋一 外科主任部長(医局長) 遠藤 豪一	24 クリニカルパス委員会 (委員今後変更予定) 循環器内科部長 阪本 貴之 耳鼻咽喉科部長 多田 靖宏 看護副部長 鈴木 佳子 呼吸器外科部長 菅野 隆三 消化器内科部長 黒田 聖仁 整形外科部長 村上 和也 皮膚科部長 元木 良和 産婦人科部長 矢澤 浩之 血管外科部長 安藤 耕一 脳神経外科部長 市川 剛 糖尿病・代謝内科部長 佐藤 義憲 外科主任部長 遠藤 豪一 脳神経内科部長 中村耕一郎 形成外科部長 浅井 美子 眼科部長 山田 文子	25 輸血療法委員会 外科部主任部長 遠藤 豪一 麻酔科部長 出羽 明子 消化器内科部長 菅野有紀子 整形外科副部長 佐藤 法義 産婦人科医師 5月末に確定
委員	【医局】	会澤 英子 看護師長 鈴木 佳子 看護師長 奈良輪弘美 看護師長 齋藤 幸恵	会澤 英子 看護師長 鈴木 佳子 看護師長 森谷 浩子 看護師長 菅野ひとみ 看護師長 三浦 愛	会澤 英子 看護師長 鈴木 佳子 看護師長 森谷 浩子 看護師長 菅野ひとみ 看護師長 三浦 愛	真美 浩子 車田 真美 森谷 浩子	成澤 裕美 小野ひとみ	國分 花子 安達 明美 菅野ひとみ
	【看護部】	海藤 隆紀 菊地 利恵 川村 早苗 峯 徹次 藤橋 伸弘 橋本 健一	小林 利美 我妻 頌 佐藤 勝行	小林 利美 我妻 頌 佐藤 勝行	第2臨床検査係長 大竹 利典 特殊撮影係長 菅野 徹 薬剤部 酒井 亮 管理栄養士 葛城 美貴 第1リハビリテーション係長 大室 康晴	薬品管理課長 緑上 淳一	薬品管理課長 緑上 淳一
【コ・メディカル】	事務部長 須藤 浩光	野田 誠	野田 誠	事務部長 須藤 浩光 事務副部長 兼 総務課長 東 一豊 健診課長 阿部 美幸 医事係長 阿部 育子 医療情報システム課 主任 奈良輪大輔	事務部長 須藤 浩光 事務副部長 兼 総務課長 野田 誠 医事課長 兼 診療支援室副室長 菊田 基晴 地域医療連携室長 田畑 友子 診療支援係長 高田日出子	医療情報システム課 主任 奈良輪大輔	医事課主任 穴澤 詩織
	【外部委員】	野田 誠	齋藤 明子	安田美喜子	患者サービス推進室長 齋藤 智浩	診療情報管理係長 阿部 育子 医事課主任 穴澤 詩織	輸血検査係長 森川 由美 臨床検査技師 相楽 孝行 臨床検査技師 吉田 紳香
【幹事】	事務副部長 兼 総務課長 野田 誠	野田 誠	齋藤 明子	安田美喜子	齋藤 智浩	阿部 育子 穴澤 詩織	森川 由美 相楽 孝行 吉田 紳香
	【オブザーバー】 院長 渡部 洋一	齋藤 明子	齋藤 明子	安田美喜子	齋藤 智浩	阿部 育子 穴澤 詩織	森川 由美 相楽 孝行 吉田 紳香

区分	26 臨床検査適正化委員会	27 診療情報管理委員会	28 DFC・経営改善委員会	29 手術室運営委員会	30 救急センター運営委員会	31 ハイケアユニット運営委員会(委員今後変更予定)	32 NST委員会												
委員長	田崎 和洋 黒田 聖仁	多田 清宏 渡部 研一	院長 事務部長	渡部 洋一 須藤 浩光	出羽 明子 江花 英朗 國分 花子	麻酔科部長 麻酔科部長 看護部長	安達 守 出羽 明子	外科部長 皮膚科部長	速藤 豪一 元木 良和										
副委員長	青砥 慶太 辻 祐一郎 大原 美希	黒田 聖仁 遠藤 豪一 矢澤 浩之 菅野 隆三 市川 剛 安藤 精一 元木 良和 山田 文子 中村耕一郎 浅井 笑子 藤森 春生 星 誠二 角田 久佳	副院長 副院長 整形外科部長 消化器内科部長 呼吸器外科部長 脳神経外科部長 血管外科部長 脳神経内科部長 眼科部長 脳神経内科部長 形成外科部長 産婦人科部長 耳鼻咽喉科部長 精神科部長 眼科部長	鈴木 恭一 大和田尊之 村上 和也 黒田 聖仁 菅野 隆三 中村耕一郎 遠藤 豪一 多田 清宏	市川 剛 森谷 浩子 兄玉 健太 大和田尊之 遠藤 豪一 佐藤 法義 中村耕一郎 多田 清宏 出羽 明子	消化器内科部長 呼吸器外科部長 整形外科部長 整形外科部長 脳神経内科部長 脳神経外科部長 耳鼻咽喉科部長 麻酔科部長	消化器内科部長 呼吸器外科部長 整形外科部長 循環器内科部長 脳神経内科部長 血管外科部長	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師		
委員	会澤 英子	鈴木 佳子 渡邊あゆみ 武井 明美	看護部長 看護副部長 看護師長 看護師長	会澤 英子 鈴木 佳子 安達 明美 菅野いづみ	泉 弘子 佐久間由美子 菊田 歩 本田 祐子 根本 聡美	看護係長 看護係長 看護師Aチームリーダー 看護師Bチームリーダー 手術看護認定看護師	集んぐア認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	看護師長 看護係長 皮膚・排泄ケア認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 摂食嚥下認定看護師	
【コ.メ.ディカル】		緑上 淳一 小林 利美 相澤 浩樹 大室 裕司	薬理部長 放射線部技師長 検査部技師長	我妻 慎 佐藤 勝利 小林 利美	橋本 健一 放射線部技師長 検査部技師長 薬品管理課長	放射線部技師長 検査部技師長 薬品管理課長	病棟業務課長 薬剤師 臨床検査技師 言語聴覚士	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	川村 早苗 菊地 洋平 鹿野 智美 佐藤 藍里	
【事務部】	医事課長兼診療支援室副室長	二階堂雄平 高田日出子	地域医療連携室長 用度施設課長 患者サービス推進室長 兼病棟管理係長 診療情報管理係長 医療情報システム係長	田畑 友子 東 一豊 齋藤 智浩 阿部 育子 二階堂雄平	田畑 夕紀 富田 夕紀	地域医療連携室長 ニチイ ニチイ	入院係長	入院係長	入院係長	入院係長	入院係長	入院係長	入院係長	入院係長	入院係長	入院係長	入院係長	入院係長	入院係長
【外部委員】		佐藤 衣子 齋藤さゆり	経営管理課長	松本 修 金子 瑛 菊田 基晴 穴澤 詩織	富田 基晴 佐藤 隆昭														
【幹事】	検査部技師長 病理検査課長 生理検査第1係長 臨床検査技師	小林 利美 酒井 克也 佐藤美千子 齋藤 智美	経営管理課長 経営管理課主事 医事課長兼診療支援室副室長 医事課主事	松本 修 金子 瑛 菊田 基晴 穴澤 詩織	富田 基晴 佐藤 隆昭	医事課長 医療情報システム課主事	看護師長	看護師長	看護師長	看護師長	看護師長	看護師長	看護師長	看護師長	看護師長	看護師長	看護師長	看護師長	看護師長

区分	33 化学療法委員会	34 緩和ケア委員会	35 褥瘡対策委員会	36 認知症ケア運営委員会	37 医師臨床研修委員会	38 医師臨床研修プログラム委員会	39 図書委員会
委員長	菅野 隆三 呼吸器外科部長	出羽 明子 麻酔科部長	元木 良和 皮膚科部長	藤森 春生 精神科部長	院長 副院長	循環器内科部長 泌尿器内科部長 麻酔科部長	外科部主任部長 循環器内科部長
副委員長	矢澤 浩之 産婦人科部長	車田 真美 看護部長	佐藤 美絵 皮膚・排泄ケア認定看護師	笹木恵美子 看護部長	副院長 プログラムの責任者 プログラムの副責任者 事務部長 看護部長	鈴木 恭一 産婦人科部長 消化器内科部長 外科部長 脳神経内科部長 産婦人科部長 精神科部長 臨床研修医	遠藤 豪一 外科部主任部長 循環器内科部長
【医局】	遠藤 豪一 外科部主任部長	黒田 聖仁 消化器内科部長	浅井 笑子 形成外科部長	大島 麻美 臨床研修医	プログラムの責任者 プログラムの副責任者 事務部長 看護部長	鈴木 恭一 産婦人科部長 消化器内科部長 外科部長 脳神経内科部長 産婦人科部長 精神科部長 臨床研修医	
【看護部】	安達 明美 看護部長(5A)	清和 彩子 看護部長(6A)	菅野いづみ 看護部長 看護係長	二瓶 瑠子 薬剤師 理学療法士 管理栄養士	【 外部委員 】 福島医大 わたり病院 大原総合病院 藤田病院 北福島医療センター 清水病院 宮下病院 東北保健福祉事務所 赤十字血液センター 労働保健センター おがたクリニック 大原医療センター 東立南会津病院 只見町国民健康保険朝日診療所 ふれあいクリニック さくらみず 生協いいの診療所	看護副部長 検査部技師長 放射線科技師長	看護副部長 第2放射線技師課長
委員	佐藤 由峰 病理検査係長 管理栄養士 管理栄養士	渡部 寿康 調剤・製剤課長 薬剤師 作業療法士 管理栄養士	大竹麻衣子 薬剤師 小野優紀恵 小野原貴之 小林 楓	菅野 直樹 地域医療連携室 医師福祉係長 社会福祉士 社会福祉士	加藤 清司 北福島医療センター 労働保健センター おがたクリニック 大原医療センター 東立南会津病院 只見町国民健康保険朝日診療所 ふれあいクリニック さくらみず 生協いいの診療所	薬利部長 検査部技師長 放射線科技師長	阿部 直人 第2放射線技師課長
【事務部】	森谷 浩子 がん化学療法看護認定看護師 がん薬物療法認定薬剤師 がん化学療法看護認定看護師 医事課主事	渡部 真衣 社会福祉士	高田日出子 診療支援係長	野田 誠 事務副部長 兼総務課長 総務課事務員 総務課事務員	野田 誠 事務副部長 兼総務課長 総務課事務員 総務課事務員	事務副部長 兼総務課長 総務課事務員 総務課事務員	池田 久光 社会福祉士 用度施設課係長
【外部委員】	森谷 浩子 がん化学療法看護認定看護師 がん薬物療法認定薬剤師 がん化学療法看護認定看護師 医事課主事	安田美喜子 総務課主事	佐川奈美子 認知症看護認定看護師 医事課外来係長	野田 誠 事務副部長 兼総務課長 総務課事務員 総務課事務員	野田 誠 事務副部長 兼総務課長 総務課事務員 総務課事務員	事務副部長 兼総務課長 総務課事務員 総務課事務員	村上 尋美 総務課主事 総務課事務員 総務課事務員
【幹事】	森谷 浩子 がん化学療法看護認定看護師 がん薬物療法認定薬剤師 がん化学療法看護認定看護師 医事課主事	安田美喜子 総務課主事	野地 美佳 医事課外来係長	野田 誠 事務副部長 兼総務課長 総務課事務員 総務課事務員	野田 誠 事務副部長 兼総務課長 総務課事務員 総務課事務員	事務副部長 兼総務課長 総務課事務員 総務課事務員	村上 尋美 総務課主事 総務課事務員 総務課事務員

区分	委員長	40 安全衛生委員会 脳神経内科部長 精神科部長	41 医務ガス安全管理委員会 呼吸器外科部長 (監督責任者) 麻酔科部長	菅野 隆三 出羽 明子
	副委員長	守谷 新 藤森 春生	鈴木 佳子 吉田 和恵	國分 花子 奈良輪弘美
委員	【医局】	看護副部長 看護係長(感染担当)	看護師長 看護師長	我妻 禎
	【看護部】	画像情報係長 第2生理検査係長 薬剤師 管理栄養士	薬剤師長	
	【コ・メディカル】	海藤 隆紀 中田 悠希 佐藤 南 野沢 雅美		
	【事務部】	健診課長 施設係長	事務部長 用度施設課長 施設係長	須藤 浩光 東 一豊 濱名 正美
【外部委員】			サンセイ医療(株) (医務ガス保守 契約業者)	
【幹事】	看護師長 総務課主事	臨床工学技術課長 (実施責任者)	橋本 健一	



1. 会議

1. 幹部会議	
目的	本院における経営方針及び業務の運営・管理に関する重要事項を審議する。
開催日	議 題
1：原則、毎週月曜日 (祝日の場合は火曜日) 2：時間 8時15分から	1：病院及び幹部週間行事予定等の確認 2：病院における経営方針及び業務の運営・管理に関する重要事項の審議 3：病院全体及び各部門における運営等に関する報告、検討、協議事項の掌握 4：各部門(医療安全、感染他)情報共有伝達
令和2年4月	6日(月) 13日(月) 20日(月) 27日(月)
5月	11日(月) 18日(月) 25日(月)
6月	1日(月) 8日(月) 15日(月) 22日(月) 29日(月)
7月	6日(月) 13日(月) 20日(月) 27日(月)
8月	3日(月) 11日(火) 17日(月) 24日(月) 31日(月)
9月	7日(月) 14日(月) 23日(水) 28日(月)
10月	5日(月) 12日(月) 19日(月) 26日(月)
11月	2日(月) 9日(月) 16日(月) 24日(火) 30日(月)
12月	7日(月) 14日(月) 21日(月) 28日(月)
令和3年1月	4日(月) 12日(火) 18日(月) 25日(月)
2月	1日(月) 8日(月) 15日(月) 22日(月)
3月	1日(月) 8日(月) 15日(月) 22日(月) 29日(月)

2. 経営会議	
目的	
第1回	令和2年4月28日(火)
	1. 令和2年度構成メンバー及び事務分掌 2. 令和元年度収支状況 3. 新型コロナウイルス感染症による患者数及び収益面の影響 4. 光熱水費使用状況 5. その他
第2回	令和2年5月26日(火)
	1. 令和2年度収支状況 2. 6月の入院患者数計画について 3. 総合入院体制加算 逆紹介率の推移 再診時選定療養費について 4. 光熱水費使用状況 5. 経費削減について 6. 院長、副院長、院長補佐より報告
第3回	令和2年6月30日(火)
	1. 令和2年度収支状況 2. 委託費削減への取り組みについて 3. 副院長、院長補佐より報告
第4回	令和2年7月28日(火)
	1. 令和2年度収支状況 2. 新入院患者の経路等について 3. 副院長、院長補佐より報告
第5回	令和2年8月25日(火)
	1. 令和2年度収支状況 2. コロナウイルス感染症に関する補助金(運営費)の見込 3. 4月～7月のキャッシュフローと支払いについて 4. 副院長、院長補佐より報告
第6回	令和2年9月29日(火)
	1. 令和2年度収支状況 2. 6A病棟の今後の運用について 3. 下半期会議日程変更について 4. 副院長、院長補佐より報告

第7回	令和2年10月30日(金)
1. 令和2年度収支状況 2. コロナウイルス感染症関連補助金(運営費)を含めた収支 3. 副院長、院長補佐より報告	
第8回	令和2年11月27日(金)
1. 令和2年度収支状況 2. 紹介患者の増加への取り組みについて 3. 副院長、院長補佐より報告	
第9回	令和2年12月25日(金)
1. 令和2年度収支状況 2. 1月末時点の減価償却前医業収支の対予算比の予想について 3. 副院長、院長補佐より報告	
第10回	令和3年1月28日(木)
1. 令和2年度収支状況 2. 副院長、院長補佐より報告	
第11回	令和3年2月25日(木)
1. 令和2年度収支状況 2. 新型コロナ関連補助金の見込みについて 3. 令和3年度の給与費見込みについて 4. 副院長、院長補佐より報告	
第12回	令和3年3月30日(火)
1. 令和2年度収支状況 2. 令和2年度収支見込及び令和3年度予算について 3. 副院長、院長補佐より報告	

3. 管理会議	
目 的	本院の管理及び運営に関する事項を審議する。
第1回	令和2年4月6日(月)
1. 令和元年度収支状況、主要計数、稼働データ 2. 令和2年度予算について 3. 診療報酬改定について 4. 原子力災害拠点施設整備について 5. 組織改編について 6. 病院管理会議運営について	
第2回	令和2年5月7日(木)
1. 令和元年度収支状況、主要計数、稼働データ 2. 経営改善プロジェクトについて 3. 委員会より報告	
第3回	令和2年6月1日(月)
1. 4月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 6月の患者数計画について 診療報酬改定により価格が下がる医薬品・材料について 3. 再診時選定療養費について 4. 入院患者確保のお願い 5. 委員会より報告	
第4回	令和2年7月1日(水)
1. 5月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト及び面会対応について 3. 職員の健康管理の徹底について 4. 委員会より報告	
第5回	令和2年8月3日(月)
1. 6月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 委員会より報告	
第6回	令和2年9月1日(火)
1. 7月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 診療科別 新入院患者数及び平均在院日数 3. コロナウイルス感染症に関する補助金(運営費)の見込みについて 4. 経営改善プロジェクト 5. 委員会より報告	

第7回	令和2年10月1日(木)
1. 8月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 診療科・病棟ごとの各種データについて 4. 倫理委員会規程の改訂について 倫理コンサルテーションチーム運営規程の制定について 5. 委員会より報告	
第8回	令和2年11月2日(月)
1. 9月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 日本赤十字社の新たな給与制度「Rプラン」について 4. 委員会より報告	
第9回	令和2年12月1日(火)
1. 10月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 委員会より報告	
第10回	令和3年1月4日(月)
1. 11月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 委員会より報告	
第11回	令和3年2月1日(月)
1. 12月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 委員会より報告	
第12回	令和3年3月1日(月)
1. 1月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 委員会より報告	

4. 業務連絡会議	
目 的	本院の業務の適正及び円滑な運営を図る。
第1回	令和2年4月14日(火)
1. 院長挨拶 2. 大和田副院長就任について 3. 各部署からの報告事項(業務連絡会議メンバーの変更について、定期昇給通知書の交付について、職員の健康管理の徹底について、収支状況について、救急車収容状況について、空調機点検清掃のお知らせ、病室内定期清掃のお知らせ、竣工1年目検査について、健診実績、紹介率逆紹介率)	
第2回	令和2年5月12日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(収支状況報告、救急車収容状況について、健診実績、紹介率逆紹介率)	
第3回	令和2年6月9日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(労務管理について、院友会会費徴収停止について、福島競馬場第5、7駐車場の貸付除外日対応について、献血への協力について、収支状況について、未収金回収のお知らせ。救急車収容状況について、再診時選定療養費について、施設設備点検について、QCサークルの案内、紹介率逆紹介率、健診実績)	
第4回	令和2年7月14日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(職員の健康管理の徹底について(第8版)、「マイページ」を利用したの情報伝達について、赤十字活動のための会費(社費)について、収支状況について、救急車収容状況について、経営改善プロジェクト『地域医療体制確保加算』について、施設設備点検について、紹介率逆紹介率、健診実績)	
第5回	令和2年8月11日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(医療従事者慰労金の事務手続きについて、接遇について、収支状況について、救急車収容状況について、施設設備点検について、紹介率逆紹介率、健診実績)	

第6回	令和2年9月8日(火)
1. 院長挨拶	
2. 各部署からの報告(労務管理に関する連絡、医療従事者慰労金の事務手続きについて、収支状況について、個人情報保護に関する研修会の開催について、電子カルテ更新に向けて、医療用画像管理システム(RIS/PACS)更新にむけて、救急車収容状況について、総合入院体制加算、逆紹介の推移、施設設備点検について、QCサークル進捗状況報告、紹介率逆紹介率、健診実績)	
第7回	令和2年10月13日(火)
1. 院長挨拶	
2. 各部署からの報告(病棟麻薬注射の運用変更について、ハラスメント相談窓口設置について、ストレスチェックの実施について、福島競馬場開催に伴う職員駐車場変更について、不審電話について、収支状況について、原子力災害時拠点施設整備について、オンライン会議システム「Zoom」の利用について、救急車収容状況について、施設設備点検について、紹介率逆紹介率、健診実績、医大の特定行為看護師研修)	
第8回	令和2年11月10日(火)
1. 院長挨拶	
2. 各部署からの報告(『新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金』の支給について、職員の健康管理の徹底について、新型コロナウイルス接触確認アプリの活用について、職員の駐車場利用にかかる連絡と注意事項について、都市計画道路拡幅工事に伴う福島競馬場外厩舎側通行注意について、不審電話の対応について、「NHK海外たすけあい」の協力について、収支状況について、原子力災害時拠点施設整備について、救急車収容状況について、施設設備点検について、QCサークル活動発表会について、紹介率逆紹介率、健診実績)	
第9回	令和2年12月8日(火)
1. 院長挨拶	
2. 各部署からの報告(職員の安全運転・綱紀粛正について、職員の健康管理の徹底について、消防設備点検について、売店(セブンイレブン)年末年始営業について、病院敷地内の禁煙について、収支状況について、原子力災害時拠点施設整備について、施設設備点検について、QCサークル活動発表会について、紹介率逆紹介率、健診実績)	
第10回	令和3年1月8日(金)
1. 院長挨拶	
2. 各部署からの報告(病院長の年頭挨拶のおしらせ、職員の健康管理の徹底について、新型コロナウイルス感染症に関連する職員就業規則上の取り扱いについて、職員就業規則の一部改正について、海外たすけあいの実施結果について、収支状況について、原子力災害時拠点施設整備について、救急車収容状況について、総合入院体制加算について、施設設備点検について、紹介率逆紹介率、健診実績、電子カルテ更新に向けてのスケジュールについて、年末年始の不審なメールに対する注意喚起について)	
第11回	令和3年2月9日(火)
1. 院長挨拶	
2. 各部署からの報告(労務管理に関する連絡、時間外労働について、職員給与要綱の一部改正について、収支状況について、原子力災害時拠点施設整備について、救急車不応需件数について、総合入院体制加算について、施設設備点検について、紹介率逆紹介率、健診実績、電子カルテ更新に向けてのスケジュールについて)	
第12回	令和3年3月9日(火)
1. 院長挨拶	
2. 各部署からの報告(医療法改正により、『電離放射線障害防止規則』改正、PACS・RISシステム停止について、給与要綱一部改正について、新規採用オリエンテーションについて、東日本大震災「黙祷」の実施について、収支状況について、原子力災害時拠点施設整備について、救急車不応需件数について、経営改善プロジェクト、総合入院体制加算について、施設設備点検について、紹介率逆紹介率、健診実績、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について)	



2. 病院運営に関する委員会

5. 倫理委員会	
目 的	本院及びその職員が人間を直接対象とした医学の研究(ヒトゲノム、遺伝子解析研究を含む。)及び医療行為を行う場合において、医の倫理に関するヘルシンキ宣言(1964年)の趣旨に添った倫理的配慮を図る。
委員 長 副委員 長	鈴木 恭一(副院長) 今野 修(特任院長補佐)
<p>【審査事項案件 計12件】</p> <p>①COVID-19感染症における治療薬について</p> <p>②タンパク質マイクロアレイを用いた抗体プロファイリング技術を活用したCOVID-19の診断薬及び治療薬の開発のための特異的抗体取得に関する研究</p> <p>③福島市における異所性妊娠発生頻度の調査のため、福島医大病院、大原綜合病院、済生会福島病院へのデータ提供の依頼</p> <p>④JEDプロジェクトを用いた消化器内視鏡に関連する疾患、治療手技データベースの構築</p> <p>⑤東日本大震災による福島市への避難患者における疾患構成の分析</p> <p>⑥当院における異所性妊娠の手術成績と管理の現状(案)</p> <p>⑦男性下部尿路症状治療中に残存する過活動膀胱治療の効果予測についての検討</p> <p>⑧当院における希少部位異所性妊娠の手術成績と管理の現状(案)</p> <p>⑨当院における異所性妊娠大量出血症例の手術成績と管理の現状</p> <p>⑩「広範囲脳に対する血栓回収療法 予後不良因子の検討」同研究課題内のアンケート調査</p> <p>⑪下部尿路症状発症に対する細菌叢変化の関与の解明</p> <p>⑫痙攣性発生障害患者レジストリ</p>	
6. 治験審査委員会	
目 的	厚生省令第28号(平成9年3月27日)、薬事法第430号(平成9年3月27日)並びにGCPに関連する通知等に基づき定められた本院治験審査委員会標準業務手順書に則り、治験審査を行う。
開催なし	
7. 医療機械整備委員会	
目 的	本院の適正な医療機械整備に関し、院長の諮問に答えるものとし、病院財政を充分考慮し整備する。
委員 長 副委員 長	渡部 洋一(院長) 須藤 浩光(事務部長)
8. 栄養管理委員会	
目 的	本院の給食計画及び給食全般の改善実施について、検討並びに院長の諮問に応える。
委員 長 副委員 長	渡部 研一(循環器内科主任部長 兼 医療技術部長) 佐藤 義憲(糖尿病・代謝内科部長)
第1回	令和2年4月21日(火)
<p>1. 栄養管理委員会の委員変更 2. 栄養指導実施件数 3. 外来化学療法の栄養指導</p> <p>4. イソニアジド内服患者の禁止食対応 5. コロナ患者の食事対応</p> <p>6. 病棟担当管理栄養士の変更</p>	

第2回	令和2年8月18日(火)
1. 栄養指導実施件数 2. 栄養情報の提供に対する評価の新設 3. 移動給食、濃厚流動食のオーダー入力方法の変更	
第3回	令和2年10月20日(火)
1. 栄養管理委員会の委員変更 2. 栄養指導実施件数 3. 栄養情報提供書開始 4. 嚥下調整食1j/2-1の主食形態変更 5. 健康管理のための情報の提供 6. 栄養管理委員会(偶数月の第3火曜日16:30~)開催	
第4回	令和2年12月15日(火)
1. 栄養指導実施件数 2. 健康管理のための情報の提供 3. 嗜好調査結果報告	
第5回	令和3年2月16日(火)
1. 栄養指導実施件数 2. 食事オーダー締め切り時間 3. 嚥下食聞き取り調査結果報告	

9. 診療材料等購入審議委員会	
目的	健全な業務運営に資することを目的とし、本院において使用する診療材料の購入、使用及び管理等の適正化を図る。
委員長 副委員長	大和田尊之(副院長 兼 循環器センター長) 大須賀文彦(外科部長)
第1回	令和2年5月25日(月)
1. 診療材料の新規採用について(内視鏡用粘膜下注入剤リフトルムK・フリースタイルリブレ・デュラウエーブ・Diamondback360CoronaryAtherectomyシステム・ロータブレーター・遮断鉗子・ディスプレイサブル止血帯) 2. その他(診療材料費経費削減について、委員増員について)	
第2回	令和2年6月26日(金)
1. 診療材料の新規採用について(ハンディタイプ超音波血流計・フリースタイルリブレ・ディスプレイサブル止血帯) 2. 令和元年度の診療材料費削減について	

10. 災害対策委員会	
目的	災害発生時における医療救護及び被害の拡大防止・災害復旧並びに災害・火災から職員、患者の生命、身体及び施設等を守るため、災害・防火対策に関する必要な事項を定める。
委員長 副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 渡部 研一(循環器内科部主任部長) 市川 剛(脳神経外科部長) 中村耕一郎(脳神経内科部主任部長)
第1回	令和2年6月1日(月)
1. 災害対策委員会委員の変更について 2. 今年度の訓練・研修予定について 3. 今年度の常備救護班編成、災害対策本部要員、赤十字看護部長 4. DMAT、コーディネーター等編成表 5. 日赤福島県支部災害救護訓練について 6. 新型コロナウイルス感染症の発生及びまん延状況下における災害救護活動の留意事項等について 7. 内閣府調査チームへの日本赤十字社の職員派遣等に関する協定締結について	
第2回	令和3年1月15日(金)
1. 今年度の訓練・研修開催状況について 2. 院内災害訓練について	

11. 医療情報システム検討委員会	
目的	病院の医療情報の一元化を図り、総合的な医療情報システムの確立、段階的に診療システム導入としてオーダーリングシステム、電子カルテシステムの構築など将来的なシステムに関する事項を調査検討して、導入の可能性の有無及び導入時期・システム規模等について審議する。
委員長 副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部長 兼 嚙下・ボイスセンターセンター長 兼 医療情報部門責任者) 渡部 研一(循環器内科主任部長 兼 医療技術部長) 野地 幸次(企画課長 兼 医療情報システム課長)
第1回	令和2年6月29日(月)
<p>1. 【協議事項】</p> <p>(1) 令和2年度 医療情報システム検討委員会名簿について</p> <p>(2) 麻薬を処方した際の請求伝票の名称変更について</p> <p>(3) 検体検査オーダー時の予約票の文言見直しについて</p> <p>(4) 電子カルテの予習登録機能の追加について</p> <p>2. 【報告事項】</p> <p>(1) 医療用画像管理システム(RIS/PACS)の更新について</p> <p>(2) 基幹システム(電子カルテ、医事会計システム等)の更新に伴うスケジュールとヒアリングについて</p> <p>(3) 内視鏡検査システムの稼働について (4) 術前PCR検査機能について</p> <p>(5) 処方オーダー画面の頻用薬変更について</p> <p>(6) ToDo機能(くじらメール)の運用に伴うヒアリングの実施について</p>	
第2回	令和2年9月28日(月)
<p>1. 【協議事項】</p> <p>(1) 令和2年度 医療情報システム検討委員会名簿について</p> <p>(2) 麻薬施用票の帳票レイアウト変更について (3) 内視鏡オーダーの画面変更について</p> <p>(4) くじらメールの運用ルールについて</p> <p>(5) 次期RIS/PACSのメーカー選定の最終承認・更新スケジュールについて</p> <p>2. 【報告事項】</p> <p>(1) 次期電子カルテ更新に向けたWGの開催について</p> <p>○次期システムに求める機能要望の取りまとめの依頼について。</p> <p>○業務別の運用フローの精査・修正の依頼について。</p>	
第3回	令和2年12月4日(金) ※マイページ開催
<p>1. 【協議事項】</p> <p>(1) 次期システムのメーカー選定スケジュールについて</p> <p>(2) 要望案件の現行システムでの開発について</p> <p>2. 【報告事項】</p> <p>(1) 次期医療情報システムに向けた要望の取りまとめ結果及び要望の扱いについて</p> <p>(2) 次期システム検討WGの進捗について (3) 新機能追加の報告</p> <p>(4) 新型コロナ関係のオーダー発行について</p>	
第4回	令和3年1月30日(土) ※マイページ開催
<p>1. 【報告事項】</p> <p>(1) 要求仕様書の作成のためのWGの中止、及び要件仕様書作成方針について</p> <p>(2) 今後の更新スケジュールについて</p>	
第5回	令和3年3月3日(水) ※マイページ開催
<p>1. 【報告事項】</p> <p>(1) 電子カルテベンダの選定結果について (2) 今後の更新スケジュールについて</p>	

12. 地域医療連携運営委員会	
目 的	本院と地域の医療機関が診療に関して緊密な連携を図ることにより、地域医療により良い環境を整える。
委 員 長 副委員長	渡部 洋一(院長) 田畑 友子(地域医療連携課長 兼 院長補佐)
第1回	令和2年6月4日(木)
	1. 令和2年度地域医療連携運営委員の変更について 2. 令和元年度実績報告 1) 紹介率・逆紹介率 2) 高額医療機器共同利用件数 3) 地域医療従事者研修 4) キビタン健康ネット利用状況 3. 検討事項 1) 第19回地域連携懇話会について 2) 当日診療・入院依頼に対する受け入れ体制について 4. その他 1) 診療情報提供書・報告書作成について 2) 救急外来受診時に、診療情報値教書を作成せずに他院を勧める場合について
第2回	令和2年10月15日(木)
	1. 心臓血管外科・循環器内科受け入れについて 1) 下肢静脈瘤の受け入れについて 2) 下肢の浮腫について 3) ペースメーカーチェック・心不全について 4) AAAグラフト置換・ステント挿入患者の腹痛について

13. 病床管理委員会	
目 的	ベッドコントロールの円滑化と病床の有効活用
委 員 長 副委員長	大和田尊之(副院長) 鈴木 佳子(看護副部長)
第1回	令和2年4月17日(金)
	1. 委員変更について 2. 令和元年度病棟稼働状況について 3. 泌尿器科の入院病棟について 4. その他(新型コロナウイルス関連)
第2回	令和2年10月7日(水)
	1. 6A病棟の今後の運用について
第3回	令和3年1月5日(火)
	1. 院内感染防止のための病床の運用について (今議題は入院患者を担当する全診療科に関わるため委員以外の各診療科部長を招集した)

14. 診療報酬適正化委員会	
目 的	本院における適正算定及び査定防止を図る。
委 員 長 副委員長	黒田 聖仁(消化器内科部主任部長) 遠藤 豪一(外科部主任部長)
第1回	令和2年4月都合によりマイページにて開催
	1. 令和元年12月、令和2年1月診療分保険査定について 2. その他
第2回	令和2年6月23日(火)
	1. 令和2年2月、令和2年3月診療分保険査定について 2. その他

第3回	令和2年8月26日(水)
1. 令和2年4月、令和2年5月診療分保険査定について 2. その他	
第4回	令和2年10月28日(水)
1. 令和2年6月、令和2年7月診療分保険査定について 2. その他	
第5回	令和2年12月
コロナ感染防止のため中止	
第6回	令和3年2月24日(水)
1. 令和2年8月、令和2年9月、令和2年10月診療分保険査定について 2. その他	

15. 薬事委員会	
目的	本委員会は、福島赤十字病院における医薬品の適正な管理と効率的な運用を目指すために設立された。その目的は、医薬品管理の標準化を達成することによって、診療部門における医療の質を保つことに貢献すると共に、病院経営上のコストベネフィットを向上させる事である。そのために本委員会では、有効性、安全性、経済性、合理性、フェアネスを基準として採用可否を審査している。
委員長 副委員長	我妻 禎(薬剤部長) 黒田 聖仁(消化器内科部主任部長)
第1回	令和2年4月7日(火)
1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 副作用報告 4. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収) 5. 後発品への変更 6. 持参薬の運用 7. 新型コロナウイルス感染症関連の購入薬剤	
第2回	令和2年6月2日(火)
1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 副作用報告 4. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収) 5. 後発品への変更 6. 販売名変更 7. MRの訪問規制	
第3回	令和2年8月4日(火)
1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収) 4. 後発品への変更 5. 販売名変更 6. フォーミュラリー委員会経過報告	
第4回	令和2年10月5日(月)
1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 副作用報告 4. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収) 5. 後発品への変更 6. 販売名変更 7. フォーミュラリー委員会報告(院内フォーミュラリー(案)提出)	
第5回	令和2年12月7日(月)
1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 一般名処方についての説明 4. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収) 5. 後発品への変更 6. 販売名変更 7. 薬事委員会の開催月の変更(偶数月→奇数月)	
第6回	令和3年1月18日(月)
1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 副作用報告 4. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収) 5. 後発品への変更 6. 販売名変更	

第7回	令和3年3月2日(火)
1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収) 4. 薬剤の販売中止、販売名変更、販売移管・販売統合について 5. 後発品への変更 6. 我妻薬事委員長(薬剤部長)退任について	

16. 顧客サービス・広報委員会	
目的	療養環境・職場環境・接遇の改善等により、顧客(患者)の満足度を向上させ、顧客(患者)を意識した正確な情報発信を検討する。
委員長	須藤 浩光(事務部長)
副委員長	遠藤 豪一(医局長)、安達 明美(看護部5A病棟看護師長)
第1回	令和2年4月24日(金)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第2回	令和2年5月29日(金)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第3回	令和2年6月23日(火)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第4回	令和2年7月27日(月)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第5回	令和2年8月28日(金)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第6回	令和2年9月25日(金)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第7回	令和2年10月30日(金)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第8回	令和2年11月27日(金)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第9回	令和2年12月25日(金)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第10回	令和3年1月29日(金)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第11回	令和3年2月22日(月)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第12回	令和3年3月26日(金)
1. 今月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	

17. 個人情報保護委員会	
目的	
委員長	須藤 浩光(事務部長)
副委員長	鈴木 恭一(副院長医療安全推進室長)

18. 省エネルギー推進委員会	
目 的	本院の省エネルギー活動を効果的に促進することを目的として、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(省エネ法)に適合したエネルギー管理方針を定め運用する。
委員 長 副委員長 エネルギー管理 企画推進委員	大和田尊之(副院長) 須藤 浩光(事務部長) 濱名 正美
第 1 回	令和 2 年 5 月 13 日(水) 資料配布
	1. 令和 1 年度エネルギー使用量のまとめ 2. 令和 2 年度 4 月エネルギー使用量について 3. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調について ・コンセント、照明について 4. 省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告 5. その他 ・コロナウイルス感染防止対策について ・購入単価について ・契約電力の変更について
第 2 回	令和 2 年 7 月 22 日(水) 会場 16:00~ 多目的ホール 2
	1. 5 月、6 月のエネルギー使用量について 2. ES事業より ・エネルギー、空調、コンセント、照明の使用量について ・省エネ推進について 3. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調について ・コンセント、照明について 4. 省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告 5. その他 ・省エネのお願いの放送について
第 3 回	令和 2 年 12 月 3 日(木) 会場 16:00~ 多目的ホール 2
	1. 7 月、11 月のエネルギー使用量について ES事業より ・エネルギー、空調、コンセント、照明の使用量について ・省エネ推進について 2. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調について ・コンセント、照明について 3. 省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告 4. その他 ・ウォームビズのお願い
第 4 回	令和 3 年 2 月 3 日(水) 会場 16:00~ 多目的ホール 2
	1. 12 月、1 月のエネルギー使用量について ES事業より ・エネルギー、空調、コンセント、照明の使用量について ・省エネ推進について 2. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調について ・コンセント、照明について 3. 省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告



3. 医療安全管理に関する委員会

19. 医療安全管理委員会	
目的	医療事故防止対策の検討及び推進を図る。
委員長 副委員長	渡部 洋一(院長) 鈴木 恭一(副院長兼医療安全推進室長)
第1回	令和2年4月22日(水)
	1. 医療安全推進委員会報告 2. 患者相談室カンファレンス報告 3. 3月分死亡患者カルテ確認結果報告
第2回	令和2年5月27日(水)
	1. 新規同意書7件、追加修正同意書1件の検討・承認 2. 診療用放射線の安全利用のための指針について検討 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 4月分死亡患者カルテ確認結果報告
第3回	令和2年6月24日(水)
	1. アクシデント事例1事例検討 2. 急変事例1件報告 3. 新規同意書2件検討・承認 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 5月分死亡患者カルテ確認結果報告
第4回	令和2年7月22日(水)
	1. 新生児緊急搬送事例について 2. 上部消化管内視鏡検査同意書の追加修正検討・承認 3. 本社報告事故事例の術後の歩行器歩行時の転倒について 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 6月分死亡患者カルテ確認結果報告
第5回	令和2年8月26日(水)
	1. 新規申請同意書の検討・承認 2. 死亡事例の検討(医療に起因はしていないが搬送時の診断について) 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 7月分死亡患者カルテ確認結果報告
第6回	令和2年9月23日(水)
	1. 在宅持続陽圧呼吸療法(遠隔モニタリング加算)について 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 8月分死亡患者カルテ確認結果報告
第7回	令和2年10月27日(火)
	1. 退院後2日で再入院になった事例について検討 2. 医療安全管理指針追加(医療放射線安全管理責任者の役割) 3. 医薬品の安全使用のための業務手順書の見直し 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 9月分死亡患者カルテ確認結果報告
第8回	令和2年11月25日(水)
	1. アクシデント事例2事例検討 2. ハラスメント事例について 3. CT・MRI画像病変見逃し回避対策について 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 10月分死亡患者カルテ確認結果報告
第9回	令和3年1月27日(水)
	1. アクシデント事例1事例検討 2. 急変事例1事例報告 3. 医療安全推進委員会報告(2か月分) 4. 患者相談室カンファレンス報告(2か月分) 5. 11月、12月分死亡患者カルテ確認結果報告

第10回	令和3年2月24日(水)
1. 新規同意書2件検討・承認 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 1月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第11回	令和3年3月24日(水)
1. アクシデント事例3事例検討 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 2月分死亡患者カルテ確認結果報告 5. 死亡患者家族から投書「原因不明・説明がわからない」に関して主治医から委員会内で状態・検査データ等の説明	

令和2年12月の医療安全管理委員会は新型コロナウイルス院内感染対応のため開催なし

20. 医療事故調査委員会	
目 的	本院に医療事故やクレーム等が発生した場合、速やかに事故原因の究明と今後の対策等について検討する。
委 員 長 副委員長	鈴木 恭一(副院長 兼 医療安全推進室長) 須藤 浩光(事務部長)

21. 医療安全推進委員会	
目 的	医療事故防止対策の検討及び推進を図る。
委 員 長 副委員長	阪本 貴之(循環器内科部長) 齋藤 明子(看護師長 医療安全管理者)
第1回	令和2年4月17日(金)
1. 医療安全推進委員会メンバーについて 2. 3月の医療安全管理委員会報告 3. 令和元年度ヒヤリハット・アクシデント報告のまとめ 4. ワーキンググループ活動計画	
第2回	令和2年6月19日(金)
1. 5月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第3回	令和2年7月17日(金)
1. 6月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第4回	令和2年8月21日(金)
1. 7月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第5回	令和2年9月18日(金)
1. 8月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第6回	令和2年10月16日(金)
1. 9月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第7回	令和3年1月22日(金)
1. 10月・11月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第8回	令和3年2月19日(金)
1. 1月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第9回	令和3年3月19日(金)
1. 2月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動・次年度の課題	

令和2年5月は紙面で報告、令和2年11月、12月の医療安全推進委員会は新型コロナウイルス感染防止対策のために開催なし

22. 院内感染対策委員会	
目 的	院内における微生物の感染を積極的に防止し、院内衛生管理の万全を期す。
委 員 長 副委員長	渡部 洋一(院長) 管野 隆三(呼吸器外科部長)
第 1 回	令和 2 年 4 月 14 日 (火)
	1. 3 月分データ報告 2. 3 月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 2) 医療材料についての現状 3) 治療が見込める薬剤の使用について 6. その他 1) 今年度の感染研修・相互評価・合同カンファレンス
第 2 回	令和 2 年 5 月 12 日 (火)
	1. 4 月分データ報告 2. 4 月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. 各種消毒剤在庫についての現状 7. その他 ・2020年度職員ワクチン接種実施について
第 3 回	令和 2 年 6 月 9 日 (火)
	1. 5 月分データ報告 2. 5 月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. 冷却塔清掃実施とレジオネラ属菌検査等について 7. その他 1) 術前PCR検査について
第 4 回	令和 2 年 7 月 14 日 (火)
	1. 6 月分データ報告 2. 6 月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について

第5回	令和2年8月11日(火)
1. 7月分データ報告 2. 7月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・感染対策のための院内一斉放送の提案	
第6回	令和2年9月8日(火)
1. 8月分データ報告 2. 8月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. レジオネラ検査 7. その他 ①今年度のインフルエンザワクチン供給状況 ②福島市高齢者に対するインフルエンザ予防接種事業接種期間変更について ③職員のインフルエンザ接種に関して ④外来での主な疾患における抗菌薬適正使用手引き(成人版)について	
第7回	令和2年10月13日(火)
1. 9月分データ報告 2. 9月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. 新型コロナウイルス感染症に関する検査について 7. その他 ①インフルエンザワクチン接種に関して ②職員のインフルエンザワクチン接種に関して ③審議事項 結核患者接触者健診依頼について	

第8回	令和2年11月10日(火)
1. 10月分データ報告 2. 10月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. インフルエンザワクチン接種状況について 7. インフルエンザワクチン入荷状況について 8. その他 ・結核患者接種者健診依頼について	
第9回	令和2年12月8日(火)
1. 11月分データ報告 2. 11月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. インフルエンザワクチンについて 7. その他 ・ネブライザーの洗浄・消毒について	
第10回	令和3年1月12日(火)
1. 12月分データ報告 2. 12月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について	
第11回	令和3年2月9日(火)
1. 1月分データ報告 2. 1月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・感染対策連携共通フラネットフォーム J-SIPHEについて ・結核陽性患者の後追い検査について ・入院患者様の付き添い家族のPCR検査について	

第12回	令和3年3月9日(火)
1. 2月分データ報告 2. 2月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・外部から受け入れする転院患者のPCR検査の期限について	

23. 医療従事者負担軽減対策委員会	
目 的	医師・看護師の負担軽減及び処遇改善に係る計画の策定と実行・評価
委 員 長	渡部 洋一(院長)
副委員長	遠藤 豪一(医局長)
第1回	令和2年4月27日(月)
1. 委員について 2. 『医療従事者の負担軽減及び処遇改善計画』 ア. 令和元年度の達成状況について イ. 令和2年度の目標について	
第2回	令和2年10月19日(月)
1. 医療従事者の負担軽減及び処遇改善計画 令和2年度目標の達成状況 等について 他	
第3回	令和2年12月23日(水)
1. 「看護職員の負担軽減及び処遇計画書」承認について	



4. 診療に関する委員会

24. クリニカルパス委員会	
目 的	本院に良質な医療を提供するため各部門参画によるチーム医療の推進を図る。
委 員 長 副委員長	阪本 貴之(循環器内科部長) 多田 靖宏(耳鼻咽喉科部長) 鈴木 佳子(看護副部長)
第 1 回	令和3年3月3日(水)
＜感染予防のためマイページ開催＞ 外科_結腸切除パス(15泊16日)の新規申請	
第 2 回	令和3年3月12日(金)
＜感染予防のためマイページ開催＞ 外科_結腸切除パス(15泊16日)の承認のおしらせ	
第 3 回	令和3年3月23日(火)
＜感染予防のためマイページ開催＞ 泌尿器科_腎瘻造設術パス(8泊9日)の新規申請 泌尿器科_急性腎盂腎炎パス(11泊12日)の新規申請	
第 4 回	令和3年3月29日(月)
＜感染予防のためマイページ開催＞ 泌尿器科_腎瘻造設術パス(8泊9日)の承認のお知らせ	

25. 輸血療法委員会	
目 的	輸血療法の適応、血液製剤の保管管理、使用状況、適正使用の徹底及び輸血療法に伴う事故や副作用・合併症対策について検討し、適正な輸血療法を推進する。
委 員 長 副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 出羽 明子(麻酔科部長)
第 1 回	令和2年5月27日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(3月、4月分) 2. 血液製剤の取り扱いについて	
第 2 回	令和2年7月29日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(5月、6月分) 2. 輸血後感染症検査としてのHIV抗体検査実施について 3. 輸血研修会について	
第 3 回	令和2年9月30日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(7月、8月分)	
第 4 回	令和2年11月25日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(9月、10月分) 2. 輸血研修会のビデオ視聴について	
第 5 回	令和3年1月27日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(11月、12月分) 2. 令和2年血液製剤使用状況まとめ 3. 輸血後感染症検査の見直しについて	
第 6 回	令和3年3月31日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(1月、2月分) 2. 輸血副作用報告について 3. 輸血後感染症検査実施に関する今後の対応について	

26. 臨床検査適正化委員会	
目 的	この臨床適正化委員会は福島赤十字病院臨床検査の管理、運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、管理運営に万全を期するため、院内各部署と連携を密にし、もって当院の発展に寄与する事を目的とする。
委 員 長	田崎 和洋(検査部長)
副委員長	黒田 聖仁(消化器内科部主任部長)
第 1 回	令和 2 年 4 月 21 日 (火)
1. 令和元年度日本医師会臨床検査精度管理調査結果報告 2. ALP、LDの測定法変更について	
第 2 回	令和 2 年 10 月 27 日 (火)
1. 2020年度日本臨床検査技師会精度管理調査結果報告 2. ALP、LD測定法変更の確認、周知について	

27. 診療情報管理委員会	
目 的	本院における診療情報の適正な保管・管理を図るとともに、診療・調査研究等に対し有効に活用できることを定める。
委 員 長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部長)
副委員長	渡部 研一(循環器内科主任部長)
第 1 回	令和 2 年 4 月 16 日 (木)
<協議事項> ・診療情報管理委員会規程の一部改定について ・委員会委員について <報告事項> ・診療録内部監査実施について ・電話診療について ・オンライン診療のカルテ記載について	
第 2 回	令和 3 年 3 月 26 日 (金)
《協議事項》 なし 《報告事項》 ・令和 2 年度診療記録等の内部監査実施報告について	

28. DPC・経営改善委員会	
目 的	適切なコーディングの周知及び健全な病院経営
委 員 長	渡部 洋一(院長)
副委員長	須藤 浩光(事務部長)
第 1 回	令和 2 年 5 月 29 日 (金)
1. 令和元年度医業収支 2. 新型コロナウイルスによる経営への影響について 3. 令和 2 年度診療報酬改定について 4. 職員数の推移について 5. 適切なコーディングに関する委員会	
第 2 回	令和 2 年 8 月 24 日 (月)
1. 令和 2 年度医業収支の現状 病床稼働率向上へ向けて 2. 適切なコーディングに関する委員会	
第 3 回	令和 2 年 12 月 21 日 (月) ※紙面開催
1. 適切なコーディングに関する委員会	
第 4 回	令和 3 年 1 月 19 日 (火)
1. 適切なコーディングに関する委員会 2. 令和 2 年度医業収支について 3. 看護職員夜間配置加算について 4. 紹介患者増加への検討	

29. 手術室運営委員会	
目 的	手術室の円滑な運営を図る。
委 員 長 副委員長	出羽 明子(第2麻酔科部長) 江花 英朗(麻酔科部医師) 國分 花子(看護師長)
第1回	令和2年4月8日(水)
1. 2020年度診療報酬改定について 2. 手術室運営委員会の規定 3. 手術室運営委員の変更 4. 手術スケジュール 5. 新型コロナウイルス感染症患者の手術について	

30. 救急センター運営委員会	
目 的	急患室を利用する救急患者への対応に関する事項を審議し、急患室における業務の適正かつ円滑な運営を図る。
委 員 長 副委員長	市川 剛(脳神経外科部長) 森谷 浩子(外来師長)
令和2年度 委員会の開催なし	

31. ハイケアユニット運営委員会	
目 的	ハイケアユニットの適正な運営を図る。
委 員 長 副委員長	安達 守(麻酔科部医師) 出羽 明子(麻酔科部長)
第1回	令和2年6月24日(水)
1. HCU病床利用率、稼働率、収益についての報告 2. HCU運用基準について 3. HCU申し込み方法の変更について 4. HCU看護師勤務体系変更について	
第2回	令和3年1月7日(木)
1. HCU現状 2. 入院患者運営方法について 3. 緊急時、covid-19感染の重症患者の病床について	

32. NST委員会	
目 的	入院患者に適切かつ効果的な栄養管理を行い、治療効果の向上を図る。
委 員 長 副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 元木 良和(皮膚科部長)
第1回	令和2年4月15日(水)
1. 令和2年度NSTメンバー報告 2. NSTラウンド報告 3. 令和2年度NST勉強会について 4. その他	
第2回	令和2年5月20日(水)
1. 症例報告 2. 令和2年度NST勉強会について 3. その他	
第3回	令和2年6月17日(水)
1. NSTラウンド報告 2. 早期経腸栄養開始に向けて 3. その他	
第4回	令和2年7月15日(水)
1. 症例報告 2. その他	
第5回	令和2年8月19日(水)
1. 症例報告 2. 濃厚流動食の新商品について 3. その他	

第6回	令和2年9月16日(水)
1. 症例報告	2. その他
第7回	令和2年10月21日(水)
1. 症例報告	2. 半固形ラコールの必要性について 3. その他
第8回	令和2年11月18日(水)
1. 症例報告	2. 半固形ラコールの必要性について 3. その他
第9回	令和3年2月17日(水)
1. 入院患者に対するアルブミン検査	2. マイページの活用 3. その他
第10回	令和3年3月17日(水)
1. 医局会の報告	2. その他

33. 化学療法検討委員会	
目 的	がん化学療法を実施するにあたって、施設・設備などのハードウェア面、医師・看護師・薬剤師などのスタッフ面、セーフティマネジメントなどの運用面など、充足すべき課題を検討し、化学療法を安全に、安心して実施するための基本的な考え方、具体的な方法を審議する。また、外来化学療法を実施するための運用についても審議し、実施される化学療法のレジメン(治療内容)の妥当性を評価し承認する委員会を兼ねる。
委員長 副委員長	管野 隆三(呼吸器外科部長) 矢澤 浩之(産婦人科部長)
第1回	令和2年5月19日(火)
	1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数) 2. BRCA 1/2遺伝子検査について 3. 新規申請レジメン承認 4. 化学療法同意書の見直し 5. ホームページへのレジメン公開について 6. 出来高薬剤一覧
第2回	令和2年8月18日(火)
	1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数) 2. 新規申請レジメン承認 3. 免疫療法時の検査セット項目の追加
第3回	令和2年11月17日(火)
	1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数) 2. 新規申請レジメン承認 3. 血管外漏出時のフローチャート更新 4. IR出現時の対応マニュアル新規作成 5. 化学療法栄養指導件数報告 6. 出来高薬剤一覧
第4回	令和3年2月16日(火)
	1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数) 2. 有害事象及びトラブル対応症例報告 3. 化学療法栄養指導件数報告

34. 緩和ケア委員会	
目 的	生命を脅かす疾患に直面した全ての患者とその家族に、早期より全人的苦痛に対する適切な緩和ケア提供を推進する。
委員長 副委員長	出羽 明子(麻酔科部長) 車田 真美(看護副部長)
第1回	令和2年7月21日(火)
	1. 年間活動について 2. その他

35. 褥瘡対策委員会	
目 的	本院における褥瘡予防対策の確立や褥瘡治癒促進に向けて、褥瘡対策マニュアルの作成、褥瘡に関する情報の収集と共有、褥瘡対策についての教育研修の計画及び実施などを通し、褥瘡対策及び関連する事項について調査・審議する。
委 員 長	元木 良和(皮膚科部長)
副委員長	佐藤 美絵(看護係長、皮膚・排泄ケア認定看護師)
第1回	令和2年5月26日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 症例報告 4. ラウンド 5. その他	
第2回	令和2年6月23日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 症例報告 4. ラウンド 5. その他	
第3回	令和2年7月28日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 症例報告 4. ラウンド 5. その他	
第4回	令和2年8月25日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 症例報告 4. ラウンド 5. その他	
第5回	令和2年9月29日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 症例報告 4. ラウンド 5. その他	
第6回	令和2年10月27日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 症例報告 4. ラウンド 5. その他	
第7回	令和2年11月24日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 症例報告 4. ラウンド 5. その他	
第8回	令和3年1月26日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 症例報告 4. ラウンド 5. その他	
第9回	令和3年2月16日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 症例報告 4. ラウンド 5. その他	

36. 認知症ケア運営委員会	
目 的	認知症を有する患者ケアを行うために病棟での対応力とケアの質の向上を図る。
委 員 長	藤森 春生(精神科部長)
副委員長	笹木恵美子(看護師長)
第1回	令和2年4月20日(月)
1. 令和2年度メンバー変更について 2. 今年度の活動の進め方について	
第2回	令和2年5月18日(月)
1. カンファレンス及び病棟回診(ラウンド)の実施方法について (新型コロナウイルス感染予防のための運用方法変更) 2. 今後の委員会の方向性及び活動内容について	
第3回	令和2年6月15日(月)
1. 職種を活かしたチーム活動について	
第4回	令和2年7月6日(月)
1. チーム活動における情報共有の方法について	
第5回	令和2年8月3日(月)
1. 委員会での勉強会及び事例検討会の開催について 2. せん妄ハイリスクケアのアセスメント開始について	

第6回	令和2年9月7日(月)
1. 委員会での勉強会及び事例検討会の具体的な内容について 2. せん妄ハイリスクケアについて	
第7回	令和2年10月5日(月)
1. 抗認知症薬に関する勉強会(担当:薬剤部 二瓶瑠子)	
第8回	令和2年11月26日(木)
1. 令和2年度全職員向け研修会について	
第9回	令和2年12月7日(月)
1. 認知症患者との接し方に関する勉強会(担当:看護師 佐川奈美子)	
第10回	令和3年1月18日(月)
1. せん妄ハイリスクケアについて 2. 令和2年度全職員向け研修会について	
第11回	令和3年2月18日(木)
1. 食事・栄養・摂食嚥下に関する勉強会(担当:栄養課 葛城美貴)	
第12回	令和3年3月1日(月)
1. せん妄ハイリスクケアについて 2. 令和2年度全職員向け研修会について 3. 来年度の活動の進め方について	



5. 教育・研究に関する委員会

37. 医師臨床研修管理委員会	
目 的	本院と臨床協力病院及び臨床研修協力施設とが共同で行う医師の臨床研修の実施を統括管理する。
委員 長 副委員 長	渡部 洋一(院長) 鈴木 恭一(副院長)
第 1 回	令和 2 年 9 月 18 日(金)
1. 令和 3 年度採用初期臨床研修医の選考について	
第 2 回	令和 3 年 3 月 8 日(月)
1. 令和元年度採用初期臨床研修医の研修修了認定 2. 令和 4 年度研修プログラムについて	

38. 医師臨床研修プログラム委員会	
目 的	医師の臨床研修の円滑な運営を図る。
委員 長 副委員 長	渡部 研一(循環器内科部主任部長) 出羽 明子(麻酔科部長)
第 1 回	令和 2 年 4 月 13 日(月)
1. メンターの依頼 2. 2 年目 OSCE について	
第 2 回	令和 2 年 6 月 8 日(月)
1. 病院説明会について 2. 研修医が単独で行って良い行為について 3. 研修医の給与について	
第 3 回	令和 2 年 8 月 17 日(月)
1. 臨床研修プログラム第三者評価の受審について	
第 4 回	令和 2 年 10 月 5 日(月)
報告事項のみ	
第 5 回	令和 2 年 12 月 7 日(月)
1. 修学資金被貸与者のプログラムについて	
第 6 回	令和 3 年 2 月 8 日(月)
1. 令和 4 年度以降のプログラムについて 2. 令和 3 年度のプログラムについて	

39. 図書委員会	
目 的	本院全体における診療その他に必要な図書の整備、購入、利用、管理等を検討するとともに、病院図書の有効利用を図る。
委員 長 副委員 長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 阪本 貴之(循環器内科部長)
令和 2 年度 委員会開催なし	



6. 労務及び安全管理に関する委員会

40. 安全衛生委員会	
目 的	職員の安全衛生及び健康管理に関する事項について調査審議し、快適な職場環境を形成する。
委 員 会 副委員長	守谷 新(脳神経内科部長) 藤森 春生(精神科部長)
第1回	令和2年4月22日(水)
	1. 4月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者の面接指導について
第2回	令和2年5月27日(水)
	1. 5月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者の面接指導について 3. 令和1年度 職員健康診断(全職員対象)について
第3回	令和2年6月24日(水)
	1. 6月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者の面接指導について
第4回	令和2年7月29日(水)
	1. 7月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者の面接指導について
第5回	令和2年9月30日(水)
	1. 8月、9月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について 3. 作業環境測定結果報告について
第6回	令和2年10月28日(水)
	1. 10月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者の面接指導について
第7回	令和2年11月25日(水)
	1. 11月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について 3. 職員の心身の状態の情報にかかる取扱規程について
第8回	令和3年1月27日(水)
	1. 12月、1月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について
第9回	令和3年2月24日(水)
	1. 2月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について
第10回	令和3年3月24日(水)
	1. 3月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について 3. 令和3年度 委員会開催予定日について

41. 医療ガス安全管理委員会	
目 的	医療ガスに関わる安全管理・安全使用の推進を図る。
委 員 長 副委員長	管野 隆三(呼吸器外科部長) 出羽 明子(麻酔科部長)
第1回	令和3年3月3日(水)
	1. 委員会名簿変更について 2. 医療ガス設備保守点検結果報告 3. 医療ガス研修会開催について 4. その他

VI

研究発表

1. 診療科部

(1) 内科

研究会・研修会 発表

期間	発表者名	場所	学会名等	演題名
1月22日	寺島久美子	福島市	院内研修会	Covid-19患者入院時の対応における医師・看護師の実務

(2) 消化器内科

学会 発表

期間	発表者名	場所	学会名等	演題名
1月8日 ～ 1月9日	浅間 宏之	神戸市	第51回 日本膵臓学会大会	膵癌微小環境におけるmicroRNAを介した間質形成機序の解明
2月6日	大平 怜	弘前市 (オンライン)	第210回 日本消化器病学会東北支部	診断に難渋した右傍十二指腸ヘルニアを伴う成人腸回転異常症の1例
2月6日	上田 健太	弘前市 (オンライン)	第210回 日本消化器病学会東北支部	膵外分泌機能低下から難治性下痢をきたしたpancreatic steatosisの1例

研究会・研修会 発表

期間	発表者名	場所	学会名等	演題名
12月5日	浅間 宏之	仙台市	第33回 東北膵・胆道癌研究会	切除不能膵腫瘍のマイクロサテライト不安定検査におけるFranseen穿刺針を用いたEUS-FNBの有用性の検討

論文発表・著書

著者	論文名	誌・巻(号)ページ
Takahashi Atsushi Masahito Kuroda	Effects of sleep quality on non-alcoholic fatty liver disease: a cross-sectional survey.	BMJ Open [2044-6055] 年：2020 巻：10号：10頁 ：e039947-e039947
Abe Kazumichi Masahito Kuroda	Factors associated with hepatocellular carcinoma occurrence after HCV eradication in patients without cirrhosis or with compensated cirrhosis.	PLoS ONE [1932-6203] 年：2020 巻：15号：12頁 ：e0243473-e0243473

(3) 糖尿病・代謝内科

学会 発表

期間	氏名	場所	学会名等	演題名
11月7日 ～16日	佐藤 義憲	仙台市 (オンライン)	第58回 日本糖尿病学会東北地方会	高中性脂肪血症による偽性低ナトリウム血症がたびたびみられた2型糖尿病の1例
11月7日 ～16日	渡部 友来	仙台市 (オンライン)	第58回 日本糖尿病学会東北地方会	十二指腸潰瘍穿孔による汎発性腹膜炎にDKAを併発した2型糖尿病の1例
11月7日 ～16日	坂部 琢磨	仙台市 (オンライン)	第58回 日本糖尿病学会東北地方会	DKAに大腸菌による菌血症を併発した2型糖尿病の1例

研究会・研修会 発表

期間	発表者名	場所	学会名等	演題名
9月5日	佐藤 義憲	いわき市	いわき糖尿病療養指導学術講演会2020	糖尿病診療ガイドライン2019、を読む

(4) 循環器内科

学会 発表

期間	氏名	場所	学会名等	演題名
1月30日 ～ 2月6日	坂本 和哉	岩手県 (オンライン)	第49回 日本心血管インターベンション治療学会東北地方会	左冠動脈主幹部から三分枝する左前下行枝入口部の板状石灰化を伴う高度狭窄病変にDiamond backが有効だった症例
1月30日 ～ 2月6日	坂本 和哉	岩手県 (オンライン)	第49回 日本心血管インターベンション治療学会東北地方会	急性心筋梗塞と脳梗塞を同時期に発症した一例
1月30日 ～ 2月6日	坂本 和哉	岩手県 (オンライン)	第49回 日本心血管インターベンション治療学会東北地方会	抗血小板薬減量の2か月後に発症した第二世代DESにおける very late stent thrombosis の一例

研究会・研修会 発表

期間	発表者名	場所	学会名等	演題名
11月13日	大和田尊之	会津若松市 (オンライン)	第11回 会津心臓病・心血管疾患研究会	低用量アスピリン投与時における消化管粘膜障害について
11月19日	坂本 和哉	福島市	CMV(研究会)	左冠動脈主幹部から三分枝する左前下行枝入口部の板状石灰化を伴う高度狭窄病変にDiamond backが有効だった症例
12月3日	大和田尊之	福島市	Nexium Online Symposium	PCI後の出欠合併症とその重要性 - PPI治療を含めて -
12月9日	大和田尊之	福島市	J-ELD AF Seminar in Fukushima	心房細動に対する抗凝固薬の使い方 不整脈薬物治療ガイドラインの改訂のポイントに沿って
1月15日	大和田尊之	福島市	心不全フォーラム～心拍数管理意義を考える～	心拍数管理意義を考える
1月25日	大和田尊之	福島市	循環器疾患と糖尿病治療を考える会in相馬郡	心不全治療薬を再考する ～ SGLT2阻害薬の新たなエビデンス～
2月19日	大和田尊之	福島市	心不全治療戦略会議in福島	心不全治療におけるSGLT2阻害薬の位置づけ

(5) 脳神経内科

研究会・研修会 発表

期間	氏名	場所	学会名等	演題名
2月27日	大島 麻美	福島市 (オンライン)	令和2年度福島県地域医療症例検討会	もの見え方の異常・ふらつきで発症した一例

(6) 外科

学会 発表

期間	氏名	場所	学会名等	演題名
10月29日 ～ 11月30日	渡邊早百合	大阪府 (オンライン)	第82回 日本臨床外科学会総会	Rhabdoid featureを呈し急速に進行した横行結腸癌の1例

(7) 心臓血管外科

学会 発表

期間	氏名	場所	学会名等	演題名
11月27日 ～29日	籠島 彰人	東京都 (オンライン)	第48回 日本血管外科学術総会	診断後短期間に血栓増大と塞栓を呈した膝窩動脈瘤の手術例

研究会・研修会 発表

期間	氏名	場所	学会名等	演題名
11月13日	籠島 彰人	会津若松市	第11回 会津心臓病・心血管疾患研究会	内膜摘除が先か Viabahnが先か

(8) 脳神経外科

学会 発表

期間	氏名	場所	学会名等	演題名
10月15日 ～ 11月30日	山ノ井 優	岡山市	第79回 日本脳神経外科学会総会	脳脊髄液内の可溶性PTPRZは神経膠腫の化学的診断マーカーとして利用される可能性を秘めている
10月15日 ～ 11月30日	齋藤 孝光	岡山市 (オンライン)	第79回 日本脳神経外科学会総会	非出血発症解離性椎骨動脈瘤および後下小脳動脈瘤に対する直達手術例の検討
10月15日 ～ 11月30日	佐々木裕哉	岡山市 (オンライン)	第79回 日本脳神経外科学会総会	経頭蓋電気刺激MEPにおける偽陰性を避けるための刺激強度と記録法の検討
3月7日	鈴木 恭一	倉敷市 (オンライン)	第5回 日本メディカルイラストレーション学会学術集会	血管の表情を意識した脳神経外科手術イラスト
3月11日	鈴木 恭一	福岡市 (オンライン)	第50回 日本脳卒中の外科学会学術集会	非出血発症解離性椎骨動脈瘤および後下小脳動脈瘤に対する直達手術例の検討

論文発表・著書

著者	論文名	誌・巻(号)ページ
Sato T, Suzuki K et.al	Clipping cerebral aneurysm	Fluorescence Imaging, Springer Nature Switzerland, 27-34, 2020
Sato T, Suzuki K et.al	Vascular malformation	Fluorescence Imaging, Springer Nature Switzerland, 45-51, 2020
佐藤 拓, 板倉 毅, 鈴木 恭一, ほか	脳動脈瘤手術におけるMEPモニタリングと蛍光撮影の進歩：刺激方法の変遷と可視光/近赤外光同時表示ICG蛍光血管撮影の開発	脳卒中の外科49：168-172、2020

(9) 耳鼻咽喉科

学会 発表

期間	氏名	場所	学会名等	演題名
12月24日 ～ 12月25日	多田 靖宏	京都市	日本耳鼻咽喉科臨床学会	外来手術としてのVideoendoscopic Laryngeal Surgery

(10) リウマチ・膠原病内科

学会 発表

期間	氏名	場所	学会名等	演題名
8月15日 ～ 9月15日	天目 純平	東京都 (オンライン)	第64回 日本リウマチ学会総会・学術集会	バリシチニブは自然免疫系細胞のインフラマソーム活性化を阻害する
8月15日 ～ 9月15日	天目 純平	東京都 (オンライン)	第64回 日本リウマチ学会総会・学術集会	Clinical significance of myositis-specific autoantibody profiles in Japanese patients with polymyositis/dermatomyositis

研究会・研修会 発表

期間	氏名	場所	学会名等	演題名
10月9日	宮田 昌之	福島市	関節リウマチと肝障害	関節リウマチの肝障害～メトトレキサートによる肝障害と関節リウマチに合併する肝障害～
10月23日	宮田 昌之	福島市	福島SLE Symposium2020	SLE治療の最前線～臨床的寛解を目指したベリムマブの選択～
11月17日	宮田 昌之	福島市	第4回 県南リウマチ診療協議会	関節リウマチの肝障害
11月19日	宮田 昌之	福島市	第3回 新川地区リウマチ講演会	関節リウマチの肝障害
2月19日	宮田 昌之	リモート開催	臨床セミナー 関節リウマチ	関節リウマチの病態と治療
3月14日	宮田 昌之	福島市 (オンライン)	令和2年度北海道・東北地区リウマチの治療とケア教育研修会	高齢関節リウマチについて

論文発表・著書

著者	論文名	誌・巻(号)ページ
天目 純平	IgG4-Related Disease Complicated by Brain Parenchymal Lesions Successfully Treated with Corticosteroid Therapy: A Case Report.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine [0040-8727] 年：2020.7 巻：251号：3頁：161-168
天目 純平	Uric acid-mediated inflammasome activation in IL-6 primed innate immune cells is regulated by baricitinib.	Modern Rheumatology [1439-7595] 年：2021.1 巻：31号：1頁：270-275
天目 純平	関節リウマチ患者に対する肺炎球菌ワクチンの有用性	リウマチ科 (0915-227X) 年：2021.1 巻：65号：1頁：131-136

2. 薬剤部

研究会・研修会 発表

期間	発表者名	場所	学会名等	演題名
8月25日	渡部 寿康	福島市 (院内)	福島赤十字病院レジメン研修会	当院でよく使用される化学療法レジメン－レジメンの読み取りと副作用対策－
8月25日	齋藤可奈子	福島市 (院内)	福島赤十字病院レジメン研修会	初回化学療法から継続した外来患者への関わり

論文発表・著書

著者	論文名	誌・巻(号)ページ
渡部 寿康	病院薬剤師の外来業務－患者さんへの安全な薬剤管理－	薬事新報
渡部 寿康	薬業連携研究会と県北地区版お薬手帳	福島県病院薬剤師会雑誌 No.114
緑上 淳一	ダイヤモンド・プリンセス号の救護活動報告	福島県病院薬剤師会雑誌 No.114

3. 放射線科部

研究会・研修会 発表

期間	発表者名	場所	学会名等	演題名
9月26日	相澤 浩樹	福島市 (オンライン)	県北MDCTカンファレンス	～CT装置の物理特性SNRについて～ 「非線形処理のSNR AIDR3Dでは」

4. 事務部

医療情報システム課
学会 発表

期間	発表者名	場所	学会名等	演題名
9月11日 ～ 9月12日	二階堂雄平	神戸市 (オンライン)	第22回 日本褥瘡学会学術集会	褥瘡管理システム導入による業務負荷低減の試み
10月20日 ～22日	二階堂雄平	京都市 (オンライン)	第79回 日本公衆衛生学会総会	東日本大震災による福島市への避難者における疾患構成の分析

論文発表・著書

著者	論文名	誌・巻(号)ページ
二階堂雄平, 江口依里, 中野裕紀, 大平哲也, 渡部洋一	東日本大震災による福島市への避難者における疾患構成の分析 ～福島赤十字病院・電子カルテデータからの考察	福島県保健衛生雑誌 第36巻

福島赤十字病院
令和2年度 病院年報

通算第10号
令和3年2月発行

編集◎福島赤十字病院 事務部経営企画課
発行◎福島赤十字病院

〒960-8530 福島県福島市八島町7-7
TEL 024-534-6101(代表) FAX 024-531-1721
<http://www.fukushima-med-jrc.jp/>

copyright©JAPANESE RED CROSS FUKUSHIMA HOSPITAL All rights reserved.



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.